

北海道大学

総合博物館年報

平成 20(2008)・平成 21(2009)年度

北海道大学総合博物館年報

(平成20・21年版)

目 次

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革	1
II. 組織	1
III. 学術標本・データベース	8
IV. 高等教育	32
V. 展示活動	33
VI. 社会教育・普及活動	42
VII. 各種協定締結状況	59
VIII. 刊行物等	59
第2部 博物館教員の活動記録	60
<平成20・21年度の新聞報道記録>	119
<平成20・21年度の予算状況>	121

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は1876年(明治9年)に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第1年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って7年後の1884年(明治17年)に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。

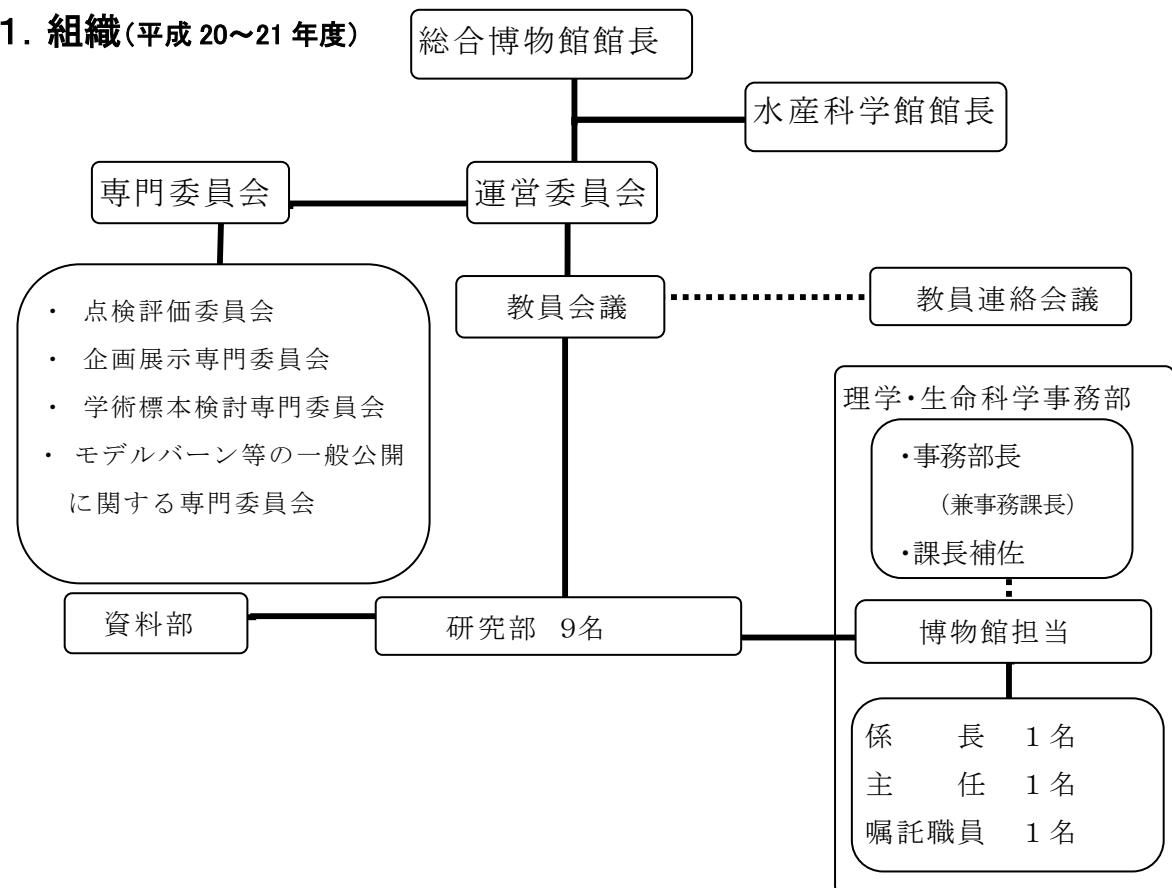
札幌農学校開校以来 135 年の研究成果として、現在 400 万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には約 1 万 3 千点のタイプ標本が含まれている。

これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966年(昭和41年)から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約9,000m²の総合博物館にする構想がまとまり、1999年(平成11年度)文部省より設置が認められた。2001年(平成13年)には、本学創基125周年事業の一環として、第1期工事分3,000m²の改修が行われ公開展示が開始された。しかしながら引き続く第2、第3期工事分6,000m²の改修工事は現在目途が立っていない。それにも関わらず北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、総合博物館の役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007年（平成19年）には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

1. 組織(平成 20~21 年度)



2. 総合博物館運営委員会(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

理学研究科	館長	馬渡 駿介
	副学長	岡田 尚武
附属図書館	館長	逸見 勝亮
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎
スラブ研究センター	教授	岩下 明裕
大学院先端生命科学研究院	教授	高橋 孝行
触媒化学研究センター	教授	高橋 保
大学院医学研究科	教授	安田 和則
北海道大学病院	教授	生駒 一憲
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
大学院水産科学研究院	教授	吉水 守
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	准教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	今村 央
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

理学研究科	館長	馬渡 駿介
	副学長	岡田 尚武
附属図書館	館長	逸見 勝亮
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎
大学院教育学研究院	教授	鈴木 敏正
大学院薬学研究科	教授	有賀 寛芳
大学院地球環境科学研究院	教授	東 正剛
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
大学院保健科学研究院	教授	松野 一彦
北方生物圏/人間科学センター	教授	齋藤 隆
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次(21.6.1～)

3. 総合博物館点検評価委員会(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

総合博物館	館長	馬渡 駿介
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎
触媒化学研究センター	教授	高橋 保
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	天野 哲也
理学・生命科学事務部	部長	山田 杉一

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

総合博物館	館長	馬渡 駿介
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院保健科学研究院	教授	松野 一彦
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	教授	高橋 英樹
理学・生命科学事務部	部長	山田 杉一

4. 企画展示専門委員会(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

大学院文学研究科 教授 佐々木 亨
大学院情報科学研究所 教授 宮永 喜一
北方生物圏フィールド科学センター 教授 前川 光司 (20.3 退職)
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
低温科学研究所 教授 福田 正己 (20.3 退職)
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 高橋 英樹
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 准教授 大原 昌宏
総合博物館 准教授 今村 央
総合博物館 准教授 湯浅 万紀子

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

大学院文学研究科 教授 佐々木 亨
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 高橋 英樹
総合博物館 准教授 大原 昌宏
総合博物館 准教授 湯浅 万紀子
総合博物館 准教授 小林 快次

5. 学術標本検討専門委員会(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

大学院文学研究科 教授 佐々木 亨
大学院農学研究院 准教授 吉澤 和徳
北方生物圏フィールド科学センター 助教 村上 正志
大学院工学研究科 教授 米田 哲郎
大学院医学研究科 教授 渡邊 雅彦
大学院水産科学研究院 教授 仲谷 一宏
大学院地球環境科学研究院 教授 大原 雅
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 高橋 英樹
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 准教授 大原 昌宏
総合博物館 准教授 今村 央
総合博物館 准教授 湯浅 万紀子
総合博物館 助教 阿部 剛史
総合博物館 助教 小林 快次
総合博物館 助教 小俣 友輝

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

大学院文学研究科 教授 佐々木 亨
大学院農学研究院 准教授 吉澤 和徳
大学院医学研究科 教授 寺沢 浩一
大学院水産科学研究院 准教授 綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院 教授 大原 雅
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 高橋 英樹
総合博物館 准教授 大原 昌宏
総合博物館 准教授 湯浅 万紀子
総合博物館 准教授 小林 快次
総合博物館 助教 阿部 剛史
総合博物館 助教 小俣 友輝
総合博物館 助教 河合 俊郎

6. モデルバーン等の一般公開に関する専門委員会

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

大学院公共政策学連携研究部 教授 吉田 文和
大学院工学研究院 准教授 小篠 隆生
大学院農学研究院 講師 中辻 浩喜
北方生物圏ワールド科学センター 教授 近藤 誠司
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 資料部研究員 高井 宗宏
理学・生命科学事務部 事務部長 山田 杉一

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

大学院文学研究科 教授 白木沢旭児
大学院工学研究院 助教 池上 重康
大学院農学研究院 講師 中辻 浩喜
北方生物圏ワールド科学センター 教授 近藤 誠司
低温科学研究所 教授 戸田 正憲
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 教授 松枝 大治
理学・生命科学事務部 事務部長 山田 杉一

7. 総合博物館水産科学館専門委員会

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 20(2008) 年 4 月 1 日～21 年 3 月 31 日

大学院水産科学研究院 教授 矢部 衛
総合博物館 教授 松枝 大治
総合博物館 教授 高橋 英樹
大学院水産科学研究院 教授 仲谷 一宏
大学院水産科学研究院 准教授 綿貫 豊
大学院水産科学研究院 准教授 清水 晋
大学院水産科学研究院 准教授 東堂 孝
大学院水産科学研究院 准教授 水田 浩之
大学院水産科学研究院 准教授 岸村 栄毅
大学院水産科学研究院 准教授 山口 篤
大学院水産科学研究院 准教授 今村 央
大学院水産科学研究院 助教 李 大雄

平成 21(2009) 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日

大学院水産科学研究院 教授 矢部 衛
総合博物館 教授 天野 哲也
総合博物館 助教 河合 俊郎
大学院水産科学研究院 准教授 綿貫 豊
大学院水産科学研究院 准教授 清水 晋
大学院水産科学研究院 准教授 東堂 孝
大学院水産科学研究院 准教授 水田 浩之
大学院水産科学研究院 准教授 岸村 栄毅
大学院水産科学研究院 准教授 山口 篤
大学院水産科学研究院 准教授 今村 央
大学院水産科学研究院 助教 李 大雄

8. 総合博物館研究部

平成 20(2008) 年度 (研究部長 松枝大治)

○資料基礎研究系

教授 高橋 英樹 (植物体系学)
准教授 大原 昌宏 (昆虫体系学)
助 教 阿部 剛史 (海藻分類学)
助 教 今村 央 (魚類分類学)

○資料開発研究系

教授 松枝 大治 (鉱物・鉱床学)
教授 天野 哲也 (考古学)
准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
助教 小林 快次 (古生物学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学) (兼務)
助教 小俣 友輝 (博物館情報科学)

平成 21(2009) 年度 (研究部長 天野哲也)

○資料基礎研究系

教授 高橋 英樹 (植物体系学)
准教授 大原 昌宏 (昆虫体系学)
助 教 阿部 剛史 (海藻分類学)
助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

教授 松枝 大治 (鉱物・鉱床学)
教授 天野 哲也 (考古学)
准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
准教授 小林 快次 (古生物学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学) (兼務)
助 教 小俣 友輝 (博物館情報科学)

9. 資料部研究員

平成 20(2008) 年度

大学院理学研究院 准教授 小亀 一弘
大学院理学研究院 教授 堀口 健雄
北海道大学 (N306) 名誉教授 増田 道夫
大学院文学研究科 教授 井上 勝生
関西外国語大学国際言語学部 教授 井上 紘一
東京大学先端科学技術研究センター 教授 伊福部 達
北海道大学 (N306) 名誉教授 大泰司紀之
筑波大学 名誉教授 小笠原正明
総合博物館 (S314) 小野 裕子
大学院文学研究科 准教授 加藤 博文
北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
大学院文学研究科 准教授 佐藤 知己
北海道大学 名誉教授 末永 義圓
大学院文学研究科 助教 高倉 純
創成科学共同研究機構 准教授 増田 隆一
総合博物館 守屋 豊人

平成 21 (2009) 年度

大学院文学研究科 教授 佐藤 知己
大学院文学研究科 教授 佐々木 亨
大学院文学研究科 助教 高倉 純
大学院文学研究科 准教授 加藤 博文
大学院理学研究院 教授 堀口 健雄
大学院理学研究院 准教授 小亀 一弘
大学院理学研究院 准教授 新井田清信
大学院理学研究院 教授 西 弘嗣
大学院理学研究院 准教授 川村 信人
大学院理学研究院 講師 三浦 裕行
大学院理学研究院 助教 杣原 宏
大学院理学研究院 准教授 増田 隆一
大学院理学研究院 講師 沢田 健
大学院工学研究科 教授 小林 英嗣
大学院工学研究科 助教 池上 重康
大学院工学研究科 助教 小野 修司

元本学非常勤講師	Robert Klutzz	大学院農学研究院	講師	中辻 浩喜
大学院水産科学研究院 教授	仲谷 一宏	大学院農学研究院	助教	宮本 敏澄
大学院水産科学研究院 准教授	矢部 衛	大学院農学研究院	助教	吉澤 和徳
北海道大学 (N307)	阿部 永	大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
学校法人総合技術学園	伊藤 誠夫	大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
総合博物館 (S 313)	稻荷 尚記	大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
大学院理学研究院 助教	柁原 宏	低温科学研究所	教授	古川 義純
総合博物館 (生物系準備室)	小林 憲生	低温科学研究所	教授	戸田 正憲
大学院文学研究科 准教授	佐々木 亨	北方生物圏フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
北海道大学 (N 307) 名誉教授	諏訪 正明	北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行
北海道教育大学札幌校 助教授	高久 元	北方生物圏フィールド科学センター	助教	四ツ倉典滋
総合博物館 (生物系準備室)	館 卓司	創成研究機構	准教授	Gautam Pitambar
低温科学研究所 教授	戸田 正憲	大学院薬学研究院	教授	小林 淳一
本学退職教員	前川 光司	埋蔵文化財調査室	特定専門職員	守屋 豊人
北方生物圏フィールド科学センター	助教 村上 正志	東京大学先端科学技術研究センター	特任教授	伊福部 達
大学院農学研究院 助教	吉澤 和徳	北海道教育大学	准教授	高久 元
大学院水産科学研究院 准教授	綿貫 豊	筑波大学 (特任教授)	名誉教授	小笠原正明
総合博物館	岡田 大岬	九州大学工学院		高橋 亮平
大学院工学研究科 教授	小林 英嗣	関西外国語大学国際言語学部	教授	井上 紘一
本学退職教員	高井 宗宏	学校法人総合技術学園		伊藤 誠夫
北海道大学 名誉教授	藤田 正一	北海道大学	名誉教授	小泉 格
本学退職教員	山本 玉樹	北海道大学	名誉教授	大泰司紀之
	Matthew H. Dick	北海道大学	名誉教授	加藤 誠
理学部 (4 階実験室)	越前谷宏紀	北海道大学	名誉教授	増田 道夫
大学院理学研究院 准教授	川村 信人	北海道大学	名誉教授	諏訪 正明
大学院理学研究院 講師	沢田 健	本学退職教員		阿部 永
大学院理学研究院 准教授	西 弘嗣	北海道大学	名誉教授	末永 義圓
本学退職教員 (N 304)	箕浦名知男	北海道大学	名誉教授	五十嵐恒夫
大学院工学研究科 助教	池上 重康	北海道大学	名誉教授	井上 勝生
北方生物圏フィールド科学センター	助教 東 隆行	北海道大学	名誉教授	藤田 正一
大学院地球環境科学研究院 教授	大原 雅	北海道大学	名誉教授	前川 光司
大学院薬学研究院 教授	小林 淳一	北海道大学	名誉教授	吉田 忠生
総合博物館 (生物系準備室)	小林 孝人	本学退職教員		在田 一則
大学院農学研究院 講師	中辻 浩喜	本学退職教員		高井 宗宏
本学退職教員 (N 304)	在田 一則	本学退職教員		箕浦名知男
大学院工学研究科 助教	小野 修司	本学退職教員		山本 玉樹

北海道大学	名誉教授	加藤 誠	本学退職教員	仲谷 一宏
北海道大学	名誉教授	小泉 格	元本学非常勤講師	Robert Kluttz
九州大学		高橋 亮平	総合博物館	小林 憲生
大学院理学研究院	准教授	新井田清信	総合博物館	小林 孝人
低温科学研究所	教授	古川 義純	総合博物館	学術研究員 小野 裕子
大学院理学研究院	講師	三浦 裕行	総合博物館	越前谷宏紀
		Gautam Pitamgar	総合博物館	岡田 大岬
			総合博物館	稻荷 尚記
			総合博物館	館 阜司
			総合博物館	Matthew H. Dick

10. 客員教授・外国人研究員(平成20～21年度在任)

○平成20年9月20日～平成20年12月19日・特任教授

Slawomir Sylwester Mazur (昆虫分類学・昆虫生態保全学) (ポーランド・ワルシャワ農業大学)

○平成20年12月10日～平成21年3月10日・特任教授

Tomio Iwamoto (魚類分類学) (米国・カリフォルニア科学アカデミー・学芸員)

○平成21年3月1日～平成21年6月30日・特任准教授

Guven Peter Martin Witteveen (博物館情報学) (インテルバカラレア機構・外部調査員)

○平成21年11月1日～平成22年1月31日・特任教授

Lebedintsev Alexander Ivanovich (考古学) (ロシア・国立北東総合科学研究所)

○平成21年11月12日～平成22年2月10日・特任教授

Louis L. Jacobs (古脊椎動物学) (米国・サザンメソジスト大学)

○平成22年2月15日～平成22年5月15日・特任教授

Grabovskaya Alisa Evgenievna (植物体系学・植物科学史研究) (ロシア・科学アカデミーコマロフ植物学研究所)

11. 国内研究員(平成20～21年度在任) なし

III. 学術標本・データベース

1. 陸上植物標本コレクション(SAPS)

【利活用】

北大総合博物館植物標本庫利用者数(人・日)記録

年度	学内	学外	総計
2008	10	41	51
2009	0	37	37

標本庫は学内の学生・院生によって日常的に利用されており、「学内」とした記録はゲストブックに記録されている者のみで実際の利用者のごく一部である。

1-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ:2008-2009年度)

2008. 4. 1. 箕田一子、北海道植物友の会、シノブ科.
2008. 5. 13. 木村久吉、元金沢大学薬学部、Angelica.
2008. 5. 20. 武田千恵子、北海道植物友の会、Veronica.
2008. 5. 27-28. 宮本太、東京農業大学、イグサ科.
2008. 6. 2. 宮本太、東京農業大学、タンポポ属.
2008. 6. 2. 平山沙織、元東京農業大学、タンポポ属.
2008. 6. 2. 川瀬純一、東京農業大学、タンポポ属.
2008. 6. 2. 永井敦、北海道教育大学、ミズナラ属.
2008. 6. 26. 武田千恵子、北海道植物友の会、シダ植物.
2008. 7. 4. 松井洋、北方山草会、ラン科.
2008. 7. 31. Pak, J.-H., 韓国慶北大学、ヨモギ属.
2008. 7. 31. Jeong, K.-S., 韓国慶北大学、アカネ科.
2008. 7. 31. Lee Woong, 韓国慶北大学、バラ科.
2008. 8. 2. Park, K.-R., Kyun-Nam Univ., Korea., Euphorbia.
2008. 8. 2. Kim, S., NIBR, Korea, モクレン科.
2008. 8. 2. 門田裕一、科学博物館.
2008. 9. 30-10. 1. 織田二郎、京都大学総合博物館、スゲ属.
2008. 10. 24. 五十嵐博、北海道野生植物研究所、ラン科等.
2008. 12. 15. 高嶋八千代、釧路市、リンドウ科.
2009. 1. 12. 内田暁友、斜里町立知床博物館、ミノボロ属.
2009. 2. 3-4. 内田暁友、斜里町立知床博物館、ナニワズ属、ミノボロ属.
2009. 2. 6-8. 木場英久、桜美林大学、イネ科.
2009. 2. 9. 柏崎恵美、酪農学園大学、ラン科.
2009. 2. 9. 坂本美穂、酪農学園大学、ラン科.

2009. 2. 21-22. 高嶋八千代、釧路市、イネ科、マユミ属他.
2009. 2. 22-24. 竹原明秀、岩手大学、岩手県産植物.
2009. 3. 5. 宍戸里絵、帯広畜産大学、シダ類等.
2009. 3. 5. 小林真羽、帯広百年記念館、シダ類等.
2009. 3. 5. 宮澤恵子、幕別町、シダ類等.
2009. 3. 5. 奥山園子、幕別町、シダ類等.
2009. 3. 5. 門間秀子、幕別町、シダ類等.
2009. 3. 5. 紺野康夫、帯広畜産大学、シダ類等.
2009. 3. 5-6. 高嶋八千代、釧路市、スマハコベ属、マユミ属.
2009. 3. 27. 高嶋八千代、釧路市、ヒヨドリバナ.
2009. 4. 2. 河原孝行、森林総合研究所北海道、サクラ属.
2009. 6. 3. 荒木希和子、京都大學生態研センター、コンロンソウ.
2009. 6. 23. 鳴橋直弘、大阪市立自然史博物館、バイモ属.
2009. 7. 3-10. 小森晴香、京都大学、セリ科.
2009. 7. 24. 武田千恵子、北海道植物友の会、シダ類.
2009. 9. 14. 清水晶子、東京大学総合研究博物館、武田久吉標本.
2009. 9. 22. 小森晴香、京都大学、セリ科.
2009. 10. 20. 李政喜、Korea National Arboretum、イチイ科他.
2009. 10. 20. Jang, C., Korea National Arboretum, イグサ属.
2009. 11. 25. 佐藤理夫、市立函館博物館、須川長之助標本.
2009. 11. 27. 佐藤理夫、市立函館博物館、須川長之助標本.
2009. 12. 2-5. 竹原昭秀、岩手大学人文社会科学部、岩手県産植物.
2009. 12. 10. 小杉和樹、利尻町、リシリヒナゲシ.
2010. 1. 8. Taran, A., Sakhalin Bot. Gard., Chloranthaceae.
2010. 2. 1. 佐藤理夫、市立函館博物館、須川長之助標本.
2010. 2. 3. 佐藤理夫、市立函館博物館、須川長之助標本.
2010. 2. 15-17. 門田裕一、国立科学博物館、Ranunculaceae.
2010. 2. 24. 志田祐一郎、野生生物総合研究所、イワデンダ属.
2010. 3. 10. 遊川知久、国立科学博物館、Orchidaceae.
2010. 3. 13. 小森晴香、京都大学理学部、セリ科.
2010. 3. 15. Geltman, D., Komarov Bot. Inst., Euphorbia.
2010. 3. 16-17. 丸山まさみ、植物友の会、Carex.
2010. 3. 30-31. 丸山まさみ、植物友の会、十勝産植物.

1-2) 貸出・送付標本記録 (2008-2009年度)

2009. 7. 6-: (研究用貸出) タカオスゲ 1点 (京都大学総合博物館 永益英敏)
2010. 1. 18-: (研究用貸出) Saxifraga 47点 (東京大学総合研究博物館 池田博 (福

田知子))

1-3) 受領標本記録 (2008-2009年度)

2008. 4. 1: Oregon State University より維管束植物標本 44 点寄贈
2008. 5. 23: 岡山大学よりカヤツリグサ科標本 20 点寄贈
2008. 9. 1: 岡山大学よりカヤツリグサ科標本 23 点寄贈
2009 年度: 小郡市古賀氏より標本寄贈
2009 年度: 理学部植物標本庫(SAP)より維管束植物 (約 2 万 5 千点) 移管
2009. 4. 21: 国立科学博物館植物研究部より小泉秀雄採集重複標本 372 点寄贈
2009. 10. 19: United States Department of Agriculture, T. S. Elias より貸出標本
323 点返却

1-4) SAPS 標本が引用された主な論文 (2008-2009)

(2008 年)

1. 北海道涛沸湖産の果実をもつヤハズカワツルモ. 山崎真美・持田誠・加藤ゆき恵. 植物研究雑誌 **83**(2): 121-123, 2008
2. 北海道新産の帰化植物ヒロハウキガヤ (イネ科). 内田暁友. 知床博物館研究報告 **29**: 41-42, 2008
3. 北海道における園芸植物タイマツバナ *Monarda didyma* (シソ科) の帰化. 持田誠・加藤ゆき恵. 植物地理・分類研究 **56**(1): 40-44, Sep 2008
4. A comparative study of shoot and floral development in *Paris tetraphylla* and *P. verticillata* (Trilliaceae). Narita, M. and H. Takahashi. Plant Systematics and Evolution **272**: 67-78, 2008

(2009 年)

1. テシオコザクラのレクトタイプ. 高橋英樹・村上麻季. 植物研究雑誌 **84**(2): 117-120, 2009
2. 北海道におけるシノブの新産地 (分布北限地). 志田祐一郎・笈田一子. 分類 **9**(1): 69-70, 2009
3. 日本産アツモリソウ属 *Cypripedium* (ラン科) の地理分布パターン. 高橋英樹. 分類 **9**(2): 143-157, 2009
4. Pollen morphology and systematics in two subfamilies of Ericaceae: Cassiopoideae and Harrimanelloideae. Golam Sarwar, A. K. M. and H. Takahashi. Bangladesh J. Plant Taxon. **16**(1): 37-46, 2009.
5. Subfamily Monotropoideae (Ericaceae) in the Russian Far East: taxonomy and distribution. Barkalov, V. Y. and H. Takahashi. Bot. Zhur. **94**: 877-884.
6. Geographical distribution patterns of the Apiaceae in Sakhalin and the Kurils Islands. Takahashi, H. Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and Sakhalin (3): 1-34, 2009.

2. 菌類標本コレクション(SAPA)

【利活用】

2-1) 標本庫利用者記録 (2008-2009年度)

2008.6.10: 田中由香・笹森明子・三浦美恵子 (北大博物館菌類ボランティア)
2008.6.24: 田中由香・笹森明子 (北大博物館菌類ボランティア)
2008.7.15: 田中由香 (北大博物館菌類ボランティア)
2008.7.23: 田中由香 (北大博物館菌類ボランティア)
2008.9.2: 鈴木順子・笹森明子 (北大博物館菌類ボランティア)
2008.9.6: 鈴木茉莉 (北大文学部)
2008.9.6: 本間久美子 (北大文学部)
2008.9.6: 古川恒太 (北大理学院)
2008.9.6: 内田遼平 (北大文学部)
2008.11.12: 矢島由佳 (北大農学院)
2009.5.17: 遠藤鴨子 (札幌市)
2009.5.24: 清水目賢治 (藻岩山きのこ観察会)
2009.5.24: 清水目明美 (藻岩山きのこ観察会)
2009.8.11: Hannah Reynolds (デューク大学)
2009.8.11: 保坂健太郎 (国立科学博物館)
2009.9.3: 牛坂理美 (北大環境科学院)
2009.9.3: 二木悠 (北大文学部)
2009.9.3: 酒井淳子 (北大文学部)
2009.9.3: 村上直 (北大薬学部)
2009.9.20: 糟谷大河 (筑波大学生命環境科学研究所)
2009.11.4: 鈴木順子・笹森明子・村松桐子 (北大博物館菌類ボランティア)
2009.11.6: 糟谷大河 (筑波大学生命環境科学研究所)
2009.11.25: 鈴木順子・村松桐子 (北大博物館菌類ボランティア)
2009.12.2: 鈴木順子・笹森明子・村松桐子 (北大博物館菌類ボランティア)
2009.12.9: 村松桐子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.1.20: 鈴木順子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.1.27: 鈴木順子・笹森明子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.2.10: 鈴木順子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.2.23: 鈴木順子・笹森明子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.3.10: 鈴木順子・笹森明子 (北大博物館菌類ボランティア)
2010.3.17: 鈴木順子 (北大博物館菌類ボランティア)

2010.3.31: 鈴木順子 (北大博物館菌類ボランティア)

2-2) 貸出・送付標本記録 (2008-2009年度)

2009.2.7: 星野保(産業総合研究所)、*Typhula ishikariensis* S. Imai

2009.4.9: 根田仁 (森林総合研究所)、ナラタケ3点(3点ともタイプ標本)

2009.7.23: 佐々木秀明、セイタカトマヤタケ、ヌメリツバタケ、ベニテングタケ
標本、アセタケ属菌の分類学的研究 (小林孝人著) 書籍

2009.9.20: 糟谷大河 (筑波大学)、*Geastrum*属標本11点 (返却済)

2009.10.27: 保坂健太郎 (国立科学博物館)、*Geastrum*属標本14点

2009.9.20: 糟谷大河 (筑波大学)、*Crepidotus*属標本7点

2-3) 受領標本記録 (2008-2009年度)

2008年糟谷大河、星野保寄贈: チュニジア産アセタケ属菌標本16点

2008.4.1: Oregon State Univ.: *Cantharellus*返却標本4点

2009年大山寿一寄贈: フミヅキタケ属1点、オオイチョウタケ属2点、ヒメツチ
グリ標本1点

2-4) 証拠標本として引用された主な論文 (2008-2009)

(2008年)

1. 星野保、藤原峰子、湯本勲. 2008. 文献・標本に基づく樺太南部・千島列島に
おける冬損・雪腐病菌の記録. 日本菌学会会報 **49**: 52-58.
2. 小林孝人. 2008. ヘビキノコモドキの肉眼的記載文. 藻岩山きのこ観察会会報
誌 **5**: 5.

(2009年)

1. Kasuya T, Yamamoto Y, Sakamoto H, Takehashi S, Hoshino T & Kobayashi T. 2009. Floristic study of *Geastrum* in Japan: three new records for Japanese mycobiota and reexamination of the authentic specimen of *Geastrum minum* reported by Sanshi Imai. Mycoscience **50**: 84-93.
2. Kobayashi T. 2009. Notes on the genus *Inocybe* of Japan IV. Mycoscience **50**: 203-211.
3. Hoshino, T., Takehashi, S., Fujiwara, M. & Kasuya, T. 2009. *Typhula maritime*, a new species of *Typhula* collected from coastal dunes in Hokkaido, northern Japan. Mycoscience **50**: 430-437.
4. Wang, X. H. & Liu, P. G. 2009. A type study of *Lactarius sakamotoi* and its presence in China. Cryptogamie Mycologie **30**: 45-51.
5. 白山弘子. 2009. *Agaricus* sp. 日本菌学会ニュースレター2009-4(9月): 表紙.
6. 大山寿一. 2009. 北海道産オキナタケ科(Bolbitiaceae)フミヅキタケ属(*Agrocybe* sp.)の不明種観察. 日本菌学会ニュースレター2009-4(9月): 15.

3. 海藻標本コレクション(SAP)

【利活用】

3-1) 標本閲覧 (2008-2009年度)

2008年度 学内0件 学外4件 計4件

2009年度 学内0件 学外7件 計7件

*理学研究科生物科学専攻系統進化学講座による利用は日常的に行われており、上記記録には含まれない。「学内」は水産科学研究院等の他部局による利用。

3-2) 研究用標本貸出 (2008-2009年度)

2008年度 件数4件 標本数211点

2009年度 件数8件 標本数72点

(内訳)

2008.06.07 - Claes Persson (Göteborg University, スエーデン)

Antithamnion nipponicum (6 sheets)

2008.08.04 - Paul W. Gabrielson (University of North Carolina, 米国)

Iridophycus subdichotomum (2 sheets, including the Type)

2008.11.27 - 嵐田智 (お茶の水女子大学) Codium fragile (200 sheets)

2009.01.15 - 川井浩史 (神戸大学) Punctaria spp. (6 sheets, Type)

2009.01.22 - Showe-Mei Lin (National Taiwan Ocean University, 台湾)

Liagora spp. (4 sheets, Type)

2009.04.13 - Sandra Lindstrom (University of British Columbia, カナダ)

Halosaccion spp. (4 sheets, Holotype)

2009.05.21 - 嵐田智 (お茶の水女子大学) Codium cylindricum (50 sheets)

2009.07.02 - Showe-Mei Lin (National Taiwan Ocean University, 台湾)

Liagora spp. (2 sheets, including the Type)

2009.08.20 - 富永孝昭 (栃木県立博物館) Batrachospermum spp. (2 sheets)

2009.09.28 - Frederic Mineur (Queen's University of Belfast, 英国)

Ulva spp. (3 sheets, Type)

2009.11.18 - 川井浩史 (神戸大学) Desmarestia kurilensis (Type)

*なお、上記の閲覧・貸出の他、公開データベースにより検索した特定の標本について、画像データのインターネット経由での提供依頼メールが年々増加している。

3-3) SAP標本が引用された主な論文 (国際誌のみ: 2008-2009年)

〈2008年〉

1. Taxonomic study of two *Sargassum* species (Fucales, Phaeophyceae) from the Ryukyu Islands, southern Japan: *Sargassum ryukyuense* sp. nov. and *Sargassum pinnatifidum* Harvey. Shimabukuro, H., Terada, R., Noro, T. and

- Yoshida, T. *Botanica Marina* **51**(1): 26–33, 2008.
2. *Laurencia caduciramulosa* (Ceramiales, Rhodophyta) from the Canary Islands, Spain: a new record for the eastern Atlantic Ocean. Cassano, V., Gil-Rodriguez, M. C., Santies, A. and Fujii, M. T. *Botanica Marina* **51**(2): 151–155, 2008.
 3. Phylogeography of the genus *Ulva* (Ulvophyceae, Chlorophyta), with special reference to the Japanese freshwater and brackish taxa. Shimada, S., Yokoyama, N., Arai, S. and Hiraoka, M. *Journal of Applied Phycology* **20**(5): 979–989, 2008.
 4. *Pseudocodium okinawense* (Bryopsidales, Chlorophyta), a new species from Okinawa and the first report of the genus from eastern Asia. Faye, E. J., Uchimura, M., Shimada, S., Inoue, T. and Nakamura, Y. *European Journal of Phycology* **43**(1): 99–105, 2008.
 5. New red alga *Meristotheca imbricata* (Solieriaceae, Gigartinales) from Japan. Faye, E. J., Kogame, K., Shimada, S., Kawaguchi, S., and Masuda, M. *Phycological Research* **56**(2): 115–126, 2008.
 6. *Haramonas pauciplastida* sp. nov. (Raphidophyceae, Heterokontophyta) and phylogenetic analyses of *Haramonas* species using small subunit ribosomal RNA gene sequences. Yamaguchi, H., Hoppenrath, M., Takishita, K. and Horiguchi, T. *Phycological Research* **56**(2): 127–138, 2008.
 7. Antibacterial activity of halogenated sesquiterpenes from Malaysian *Laurencia* spp. Vairappan, C. S., Suzuki, M., Ishii, T., Okino, T., Abe, T., and Masuda, M. *Phytochemistry* **69**(13): 2490–2494, 2008.

〈2009年〉

1. Typification of *Antithamnion nipponicum* Yamada et Inagaki (Antithamnieae, Ceramioideae, Ceramiaceae, Ceramiales, Rhodophyta). Athanasiadis, A. *Botanica Marina* **52**(3): 256–261, 2009.
2. Classification of the genus *Ishige* (Ishigeales, Phaeophyceae) in the North Pacific ocean with recognition of *Ishige foliacea* based on plastid *rbcL* and mitochondrial *cox3* gene sequences. Lee, K. M., Boo, G. H., Riosmena-Rodriguez, R., Shin, J. A. and Boo, S. M. *Journal of Phycology* **45**(4): 906–913, 2009.
3. Characterization of the crustose red alga *Peyssonnelia japonica* (Rhodophyta, Gigartinales) and its taxonomic relationship with *Peyssonnelia boudouresquei* based on morphological and molecular data. Kato, A., Guimarães, S. M. P. B., Kawai, H. and Masuda, M. *Phycological*

Research 57(1): 74-86, 2009.

4. New species of freshwater *Ulva*, *Ulva limnetica* (Ulvales, Ulvophyceae) from the Ryukyu Islands, Japan. Ichihara, K., Arai, S., Uchimura, M., Faye, E. J., Ebata, H., Hiraoka, M. and Shimada, S. Phycological Research 57(2): 94-103, 2009.

4. 昆虫標本コレクション(SEHU)

【利活用】

年度	学外	学内
2008 年	5	93
2009 年	9	87

2006 年 7 月から標本室に出入りする際に、必ずノートへ記帳することを義務づけたが、記録がなされないことも多々あり、徹底の必要がある。「学外」は来館研究者に記帳をしてもらったもの。「学内」は関係者が標本整理などに入室した際に記録するものであるが、

4-1) 貸出記録 (日付・貸出者氏名・分類群) (2008-2009 年)

(2008 年) 31 件

2008. 1. 17/鎌倉市二階堂/長瀬 博彦/Hymenoptera : Megachilidae

2008. 1. 22/東京都港区西麻布/青木 淳一/Coleoptera: Colydiidae

2008. 2. 19/Swedish Species Information Centre (ArtDatabanken), Sweden/Mr. Christer Bergstrom/Diptera: Tachinidae

2008. 2. 19/北海道農業研究センター/小西和彦/Hymenoptera : Eurypterna cremieri (Romand, 1838)他

2008. 3. 2/秋田市御野場/佐々木明夫/Lepidoptera: Pyralidae

2008. 4. 25/Dpt. Biol., Yeungnam Univ., Korea/Jong-Wook Lee/Hymenoptera: Thalessa gigantea Matsumura 他

2008. 5. 19/大妻女子大学人間生活科学研究所/ 益本仁雄/Coleoptera: Lgriidae

2008. 6. 11/北海道立林業試験場, 国立科学博物館/原秀穂、篠原明彦/Hymenoptera: Argidae

2008. 6. 11/北海道立林業試験場, 国立科学博物館/原秀穂、篠原明彦/Hymenoptera:

Argidae

2008. 6. 29/水戸市茨城大学理学部/小島純一/Hymenoptera: Vespidae

2008. 7. 10/台中国立自然科学博物館 /Chan Meiling 美鈴 /Psocoptera: Caeciliusidae

2008. 7. 10/台中国立自然科学博物館/Chan Meiling 美鈴/Psocoptera: Kodamaius

pilosus 他

2008. 7. 11/琉球大学農学部昆虫学教室/辻和希（田中宏卓）/Hemiptera: カイガラムシ *Lindingaspis stiger* 他
2008. 7. 18/新宿区赤来元町/小林秀紀/Lepidoptera: Noctuidae
2008. 7. 31/Sandnes, Norway/Tore Nielsen/Diptera: Syrphidae
2008. 7. 31/National Museum of Wales, UK/Michael Wilson/Hemiptera: Tropiduchidae
2008. 7. 7/Dpt. Entomology National Chung Hsing University, Taichung, /Yang Man Miao/Hymenoptera: *Lamprocoris giranensis* 他
2008. 8. 19/Naturkundemuseum Erfurt, Germany/Andreas Kopetz/Coleoptera: Cantharidae
2008. 8. 19/新宿区矢来町(株)環境指標生物/新里達也/Coleoptera: Cerambyciidae
2008. 8. 6/大阪府立大学/広渡俊哉/Lepidoptera: ホソガ科、コハモグリガ亞科
2008. 8. 8/九州大学農学部昆虫学教室/三田敏治/Hymenoptera: Dryinidae
2008. 9. 30/九州大学総合研究博物館/丸山宗利/Coleoptera: Carabidae
2008. 9. 30/三重県鈴鹿市木田町/生川展行/Coleoptera: Endmichidae
2008. 10. 17/小田原市蓮正寺/平野幸彦/Coleoptera: Salpingidae
2008. 10. 9/三重県鈴鹿市木田町/生川 展行 様/Coleoptera: Endmichidae
2008. 11. 14/鹿児島大学農学部害虫学教室/坂巻祥孝/Leipdoptera: Gelechiidae
2008. 12. 1/Yeungnam University, Korea/Jong-wook Lee/ Hymenoptera: Ichneumonidae
2008. 12. 15/茨城県水戸市千波町/市毛勝義/Diptera: *Chrysogaster semiopaca* 他
2008. 12. 15/茨城県水戸市千波町/市毛勝義/Diptera: Acroceridae sp. 他
2008. 12. 19/Department of Forest Protection and Ecology, SGGW, POLAND/Dr. Jerzy Borowski/Coleoptera: Ptinidae
2008. 12. 19/Natural History Museum, UK/Dr. Paul H. Williams/Hymenoptera: Apidae
(2009年) 18件
2009. 1. 16/McGill University, CANADA/Terry A. Wheeler/ Diptera: Mycetophilidae
2009. 1. 31/福岡市中央区草香江/Shima, Hiroshi/Diptera: Tachinidae
2009. 1. 6/埼玉大学教育学部生物学研究室/林正美/Hemiptera: *Epitettix hieroglyphica* 他
2009. 2. 10/entomologisches Museum Witt, Germany/Vadim V. Zolotuhin/ Lepidoptera: Eupterotidae
2009. 2. 9/National Institute of Biological Resources, Korea/Jin-Dong

Yeo/Hymenoptera: Crabronidae
2009. 3. 28/東京農業大学昆虫学研究室/ 小島弘昭/Coleoptera: Curclionidae
2009. 3. 28/東京農業大学昆虫学研究室/岡島秀治/Hymenoptera: Eulophidae
2009. 3. 6/General Station of Forest Pest Management, China/Mao-Ling
Sheng/Hymenoptera : *Odontocolon jezoense* (Uchida, 1928)他
2009. 4. 15/National Institute of Environmental Research, Korea/Jin-Kyung
Choi/Hymenoptera: Ichneumonidae
2009. 4. 16/世田谷区下馬/川井 信矢/Coleoptera: Scarabaeidae
2009. 4. 5/鹿児島大学農学部害虫学教室/坂巻祥孝/Lepidoptera: キバガ上科標本
2009. 4. 8/大阪府立大学農学部/黒子 浩/Lepidoptera: Cosmopterigidae
2009. 6. 19/東京大学総合文化研究科広域システム科学系/柴尾晴信/Hemiptera:
Aphididae
2009. 6. 30/Dept. of Biological Science, Korea/Kim, Jeong Kyu/Hymenoptera:
Cleptes galloisi Uchida 他
2009. 6. 9/The Natural History Museum, UK/Gavin Broad/Hymenoptera : *Parabatus*
cristatus var. *japonicus* Uchida 他
2009. 6. 9/University of Stavanger, Norway/Knut Rognes/*Pollenoides kuyanianus*
Matsumura 他
2009. 8. 19/Museum fur Naturkunde, Berlin Germany/Hannelore Hoch/
Hemiptera: Auchenorrhyncha: Cixiidae
2009. 10. 5/Warsaw University of Life Science, Poland/Boroski, Jerzy/
Coleoptera: Bostrichidae
2009. 11. 20/Natural History Museum, UK/Dr. Paul H. Williams/Hymenoptera:
Bamble bee

5. 魚類標本コレクション(HUMZ)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。

5-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ: 2008. 4-2009. 10)

(2008 年度)

相原光人 (東京工業大学)

阿部卓三 (南三陸町自然環境センター)

甲斐嘉晃 (京都大学)

河合俊郎 (国立科学博物館)
篠原現人 (国立科学博物館)
高田陽子 (国立科学博物館)
中江雅典 (国立科学博物館)
藤本耕司 (東京大学)
山田陽巳 (水産総合研究センター)
権善萬 (韓国国立生物資源館)
Tomio Iwamoto (California Academy of Science)
Natascha Miljkovic (Vienna University)
(2009年度(10月末まで))
佐藤崇 (国立科学博物館)
鶴岡理 (函館水産高校)

5-2) 貸出・送付標本記録 (2008. 4-2009. 10)

2008. 4. 1:24 点 (University of Ottawa, Canada Holly Stephens)
2008. 4. 18:4 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2008. 4. 18:2 点 (California Academy of Sciences, USA Tomio Iwamoto)
2008. 4. 18:2 点 (National Museum of National History, USA Jeffrey T. Williams)
2008. 4. 25:1 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2008. 5. 8:4 点 (沖縄美ら海水族館 佐藤圭一)
2008. 5. 23:13 点 (沖縄美ら海水族館 佐藤圭一)
2008. 5:8 点 (National Oceanic and Atmospheric Administration, USA Morgan S. Busby)
2008. 8. 4:32 点 (南三陸町自然環境活用センター 阿部拓三)
2008. 8. 8:25 点 (京都大学 太田和孝)
2008. 11. 18:1 点 (神奈川県立生命の星・地球博物館 濱能宏)
2008. 12. 9:1 点 (Muséum National d'Histoire Naturelle Bernard Séret)
2009. 1. 19:3 点 (富山県衛生研究所 山内健生)
2009. 3. 23:7 点 (Virginia Institute of Marine Science, USA Eric Hilton)
2009. 4. 23:1 点 (高知大学 佐々木邦夫)
2009. 4. 28:1 点 (国立科学博物館 高田陽子)
2009. 5. 13:7 点 (神奈川県立生命の星・地球博物館 濱能宏)
2009. 5. 29:1 点 (萩博物館 堀道夫)
2009. 6. 24:2 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2009. 6. 30:2 点 (Kunsan University, Korea Youn Choi)
2009. 7. 23:4 点 (National Taiwan Ocean University, Taiwan Hsuan-Ching Ho)
2009. 8. 11:3 点 (高知大学 中山直英)

2009. 7. 23:15 点 (National Taiwan Ocean University, Taiwan Hsuan-Ching Ho)

2009. 8. 25:1 点 (University of California, USA Ryosuke Motani)

2009. 9. 11:1 点 (長崎大学 柳下直己)

2009. 10. 2:7 点 (国立科学博物館 篠原現人)

5-3) 新規標本記録 (2008-2009 年度)

2008 年度 : 3, 204 点

2009 年度 (10 月末まで) : 1, 959 点

5-4) 証拠標本として引用された主な論文 (2008-2009 年)

(2008)

1. *Samariscus multiradiatus*, a new righteye flounder (Pleuronectiformes: Samaridae) from New Caledonia. Kawai, T., K. Amaoka and B. Séret. Ichthyological Research **55** (1):17-21, Feb 2008
2. Revision of the wobbegong genus *Orectolobus* from Japan, with a redescription of *Orectolobus japonicus* (Elasmobranchii: Orectolobiformes). Goto, I. Ichthyological Research **55** (2): 133-140, May 2008
3. Phylogeny of the family Congiopodidae (Perciformes: Scorpaenoidea), with a proposal of new classification. Ishii, N. and H. Imamura. Ichthyological Research **55** (2): 148-161, May 2008
4. *Dipturus wuhanlingi*, a new species of skates (Elasmobranchii: Rajidae) from China. Jeong, C-H. and T. Nakabo. Ichthyological Research **55** (2): 183-190, May 2008
5. Phylogenetic systematics of the family Peristediidae (Teleostei: Actinopterygii). Kawai, T. Species Diversity **13**(1):1-34, May 2008
6. 駿河湾から採集されたキホウボウ科のコウテイキホウボウ(新称) *Satyrichthys adeni*. 河合俊郎・田城文人. 魚類学雑誌 **55**(1): 43-47, May 2008
7. A rare armored searobin, *Satyrichthys clavilapis* (Actinopterygii, Teleostei, Peristediidae), from off Java, Indonesia, eastern Indian Ocean. Kawai, T. and Y. Takata. Biogeography **10**: 27-31, Aug 2008
8. Redescription of two eelpouts, *Lycodes microporus* Toyoshima 1983 and *Lycodes ocellatus* Toyoshima 1985 (Perciformes: Zoarcidae). Ikeda, S., H. Imamura and K. Nakaya. Ichthyological Research **55** (4): 356-366, Nov 2008
9. A new species of anglerfish (Lophiidae: Lophiodes) from the western Pacific. Ho, H-C. and K-T. Shao. Ichthyological Research **55** (4): 367-373, Nov 2008
10. A new armored searobin *Parahemimodus longirostralis* (Teleostei: Peristediidae) from New Caledonia. Kawai, T., K. Nakaya and B. Séret.

Ichthyological Research **55** (4): 374-378, Nov 2008

11. Two rare fishes of the families Carapidae and Chiasmodontidae from the Ryukyu Islands, Japan. Kawai, T. and G. Shinohara. Bulletin of National Museum of Nature and Science **34**(4): 175-181, Dec 2008
12. 北海道網走市沖で採集されたイスズミ *Kyphosus vaigiensis*. 河合俊郎・佐藤崇・松原 創・鈴木淳志. 日本生物地理学会会報 **62**: 47-50, Dec 2008
(2009年度)
 1. *Hongeo*, a new skate genus (Chondrichthyes: Rajidae) with redescription of the type species. Jeong, C-H. and T. Nakabo. Ichthyological Research **56** (2): 140-155, Apr 2009
 2. Systematic review of the genus *Bothrocara* Bean 1890 (Teleostei: Zoarcidae). Anderson, M. E., D. E. Stevenson and G. Shinohara. Ichthyological Research **56** (2): 172-194, Apr 2009
 3. Authorship and validity of two flatheads, *Platycephalus japonicus* and *Platycephalus crocodiles* (Teleostei: Platycephalidae). Imamura, H. and T. Yoshino. Ichthyological Research **56** (3): 308-313, July 2009
 4. *Satyrichthys rugosus*, a junior synonym of *Satyrichthys clavilapis* (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae). Kawai, T. and Y. Takata. Species Diversity **14**(2): 89-96, July 2009
 5. Validity of the cottid species *Stelgistrum mororane* transferred to the genus *Icelus* (Actinopterygii: Perciformes: Cottoidei), with confirmed records of *Stelgistrum stejnegeri* from Japanese waters. Tsuruoka, O., T. Abe and M. Yabe. Species Diversity **14**(2): 97-114, July 2009

6. 古生物標本コレクション

【利活用】

6-1) 標本庫利用状況 (2008-2009年度)

2008. 5. 15 藤原慎一 東京大学大学院理学系研究科 デスマスチルス観察
2009. 6. 29 添田雄二 開拓記念館 マンモス化石（実物）貸し出し
2009. 7. 1 日経新聞社 ニッポノサウルス復元骨格と頭骨（実物）貸し出し
2009. 7. 10 斎田吉識 中川町エコミュージアムセンター 権太アンモナイト（実物）とニッポノサウルス骨格一部（複製）貸し出し
2009. 8. 10 澤村 寛 足寄動物化石博物館 デスマスチルス頭骨（実物）貸し出し
2009. 8. 10 加納 学 三笠市立博物館 ニッポノサウルス骨格一部（実物）貸し

出し

2009. 9. 10 Robin Cuthbertson カナダ・カルガリー大学博士課程 ウタツサウルス観察

2009. 11. 10 - 2010. 5. 31 Robin Cuthbertson カナダ・カルガリー大学博士課程 ウタツサウルス観察

2010. 1. 10 澤村 寛 足寄動物化石博物館 デスマスチルス頭骨観察

6 – 2) 標本が引用された主な論文 (国際誌のみ: 2008–2009 年)

1. Kaim A., Kobayashi, Y., Echizenya, H., Jenkins, R.G., and Tanabe, K. 2008. Chemosynthesis-based associations on Cretaceous plesiosaurid carcasses. *Acta Palaeontologica Polonica* **53**: 97-104.
2. Fujiwara, S. 2009. Olecranon orientation as an indicator of elbow joint angle in the stance phase, and estimation of forelimb posture in extinct quadruped animals. *Journal of Morphology* **270**: 1107-1121.

7. 岩石鉱物標本コレクション

【利活用】

<岩石>

(岩石) 利用件数 (カッコ内は合計人数) (2008–2009 年度)

年度	学 内	学 外	総 計
2008 年	3(108)	5(46)	8(154)
2009 年(10 月まで)	4(55)	6(10)	10(65)

* 「学内利用」には、理学院(部)及び全学教育等の講義・実験その他も計算に入れてある。

<学外利用> (2008–2009 年度)

(2008 年度)

2008.5.20 柴田知之 (京都大学理学研究科/附属地球熱学研究施設) : 観察標本 : ドリルコア岩石標本

2008. 7. 7 渡辺真人 (産業技術総合研究所地質情報研究部門) : 幌満かんらん岩および日高山脈の岩石標本

2008.10.4 原田卓巳 (様似町教育委員会)、児玉正敏 (様似町教育委員会)、様似小学校 4~6 年生 (40 名) : 幌満かんらん岩および日高山脈の岩石標本 (2009 年度)

2009.4.15 小白井亮一 (国土地理院/北海道地方測量部) : 幌満かんらん岩および

島弧-海溝系の地質標本

2009.5.20 古田政美・木崎健治（株式会社ドーコン）：主に付加体の岩石標本（島弧-海溝系の地質標本）

2009.5.26 植田勇人（弘前大学）、Martin Meschede（Institute of Geography and Geology, Greifswald, Germany）：幌満かんらん岩、日高山脈の深部岩石標本、島弧-海溝系の地質標本

2009.8.18 John Holloway（Arizona State University, U. S. A.）、Helen Holloway（Arizona State University, U. S. A.）、柴田知之（京都大学/地球熱学研究施設）、芳川雅子（京都大学/地球熱学研究施設）：幌満かんらん岩、日高山脈の深部岩石標本、島弧-海溝系の地質標本

2009.9.10 北風 嵐（東北大学/理学部）、西久保勝己（鉱物同志会）、川本竜彦（京都大学）、前田寛之（北見工業大学/工学部社会環境工学科）、中村良介（産業技術総合研究所）、御子柴真澄（産業技術総合研究所）、門馬綱一（物質・材料研究機構/量子ビームセンター）、斎藤 哲（海洋研究開発機構/地球内部ダイナミクス領域）、上原誠一郎（九州大学・理・地惑）、高田悠志（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学）：幌満かんらん岩の代表的岩石標本

2009.10.8 中川 充（産業技術総合研究所/北海道センター）、御子柴真澄（産業技術総合研究所/地質情報研究部門）：斜長石レルゾライトのタイプ標本（幌満かんらん岩）

＜学内利用＞（2008-2009年度）

（2008年）学内（3件）：「地球惑星システム科学概論」受講生（23）「マグマ科学」受講生（67）「地球惑星科学実験2」受講生（18）

（2009年）

学内（4件）：全学「自然科学実験（地学）」受講生（12）「地球惑星システム科学概論」受講生（22）「地球惑星科学実験2」受講生（16）Co-STEP「サイエンスカフェ」実習生（5）

＜鉱物＞

＜学外利用＞

特に、記帳していないので詳細は不明であるが、標本見学のため年間で平均して2~3回程度（人員は2~5名程度）ある。

＜学内利用者＞

毎年、理学院（学部・大学院）における鉱物学関連の講義・学生実験）及び全学教育において、博物館鉱物登録標本を利活用している。詳細は以下のようである。

（理学院（部）専門科目）：

球惑星科学実験IV（5回、20名）、結晶学実験（4回、15名）、結晶学（3回、20名）

(理学院(大学院)科目) :

地球惑星物質特論(3回、5名)

全学教育科目 :

基礎自然科学実験(3回、30名)

＜鉱石＞

特に理学院(学部・大学院)及び全学教育等での講義・実習の際には、博物館収蔵鉱石標本を積極的に利活用しての効果的かつ実証的教育を実施している。

(鉱石)利用件数 (カッコ内は合計人数)

年度	学 内	学 外	総 計
2008 年	5(5)	4(5)	9(10)
2009 年	5(5)	12(13)	17(18)

* : 学内利用分は、学内関係研究者及び卒業論文、修士論文、博士論文等による利用件数。

＜学外利用＞ (2008-2009 年度)

(2008 年度)

2008. 9. 16 桑野範之(九大・工) : 塚本標本

2008. 10. 21 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長) : 中谷宇吉郎資料

2008. 11. 19 若佐秀雄(応用地質(株)) : 試錐岩芯標本

2009. 2. 10-22 Mega Rosana (インドネシア Padjadjaran 大学地質学部)、Santy Chaeni (PT. ANTAM インドネシア国営鉱山会社探査課) : 内金鉱石標本
(2009 年度)

2009. 4. 2 片岡達彦(国際航業(株)) : 勢多鉱山産鉱石標本

2009. 7. 2 桑野範之(九州大学先端研究所) : 北海道産沸石標本

2009. 8. 19 Melissa Bowerman (Royal Alberta Museum, Canada) : 国内各種鉱石
標本

2009. 9. 7 三浦保範(山口大学理学部) : 隕石標本

2009. 9. 9 武内浩一(長崎窯業試験所) : 小樽赤岩変質岩及び大江鉱山標本

2009. 9. 10 清水 徹(産総研) : 光竜鉱山・豊羽鉱山鉱石標本

2009. 9. 10 豊 遥秋(産総研元地質標本館) : 渡辺武男標本及び由井標本

2009. 10. 2 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長) : 中谷宇吉郎資料

2009. 10. 16 馬原保典(京都大学原子力研究所) : 花崗岩標本

2009. 11. 12 薩摩雅登(東京芸術大学) : 岩石・鉱物・鉱石標本

2009. 11. 21 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長) : 中谷宇吉郎資料

【貸出・寄贈標本】

＜岩石＞ (2008-2009 年度)

貸し出し

2008.5.18 石井輝秋 (海洋研究開発機構/地球内部変動研究センター (IFREE)) :
ダナイト (幌満かんらん岩)、2点 (合計約 15kg)

2008.6.24 廣瀬丈洋 (海洋研究開発機構/高知コア研究所) : ダナイト (幌満かんらん岩)、1点 (約 15kg)

2009.4.15 大津 直 (北海道立地質研究所/企画調整部) : ダナイトおよびレルゾライト (幌満かんらん岩)、ダナイト1点 (約 2kg) およびレルゾライト1点 (約 2.5kg)

2009.10.8 御子柴真澄 (産総研/地球情報研究部門) : 斜長石レルゾライト (幌満かんらん岩)、1点 (約 17kg)

＜鉱物＞ (2008-2009 年度)

該当年度内では、特に収蔵鉱物標本の貸し出しや分割供与の記録は無い。

＜鉱石＞ (2008-2009 年度)

貸出し

2009.8.18-9.26 「支笏火山噴出物 (札幌軟石ほか)」 札幌市情報センター (サテライト展示)

2009.7.23-9.13 「石貨」標本 中央図書館 (サテライト展示)

2009.7.30-11.3 「豊羽鉱山産鉱石、北海道産石炭標本ほか」 小樽市総合博物館 (サテライト展示)

2009.10.12-11.8 「石貨」標本 黒松内ブナセンター (サテライト展示)

【受領標本】 (2008-2009 年度)

2009年 11月 白滝遺跡出土石器(黒曜石) (約 5,300 点)

【収蔵標本が引用された主な論文】 (2008-2009 年)

総合博物館における岩石鉱物関連収蔵標本を利活用した学術研究で、印刷公表された代表的なものを分野別に分けて以下に掲載する。なお、これらのはかに国際会議・国際シンポジウム(講演要旨)及び普及書籍・教科書及びガイドブック等に多数引用されている標本類もあるが、それらはここでは省略する。

＜岩石＞

(かんらん岩関係)

(2008 年)

- 1) Yoshikawa, M. and Niida, K. (2008) : Rb-Sr isotopic systematics of two-pyroxenes and olivines from dunnite channels, the Horoman peridotite complex, Japan. *Geochim. Cosmochim. Acta*, 72, A1064.

(有珠山の火山噴出物関係)

(2008 年)

- 1) 鈴木建夫・新井田清信・西田泰典・大島弘光・室伏 誠 (2008) : 火山岩塊の運動再考 (4) 浅間火山 1938 年および有珠火山 1977 年噴火における放出火山

岩塊の解析. 北海道大学地球物理学研究報告, 71, 19-38.

(北海道のその他の火山岩・火山噴出物)

(2008 年)

2) 吉本 充宏, 宮坂 瑞穂, 高橋 良, 中川 光弘, 吉田 邦夫 (2008) : 北海道駒ヶ岳火山, 先歴史時代噴火活動史の再検討. 地質学雑誌, 114, 336-347.

3) 宮城磯治・伊藤順一・Hoang Nguyen・山元孝広・長谷川健・岸本博志・中川光弘 (2008) : 斑晶累帯構造および斑晶ガラス包有物に基づく屈斜路火山及び摩周火山のマグマプロセスの解明に関する研究. 月刊地球, 号外 No. 60, 165-175.

(2009 年)

4) 岸本博志・長谷川健・中川光弘・和田恵治 (2009) : 最近約 1 万 4 千年間の摩周火山のテフラ層序と噴火様式. 火山, 54, 15-36.

<鉱物>

(2008 年)

1) Minagawa, T., Fukushima, H., Hamane, D. and Miura, H. (2008): Epidote-Sr, CaSrAl₂Fe₃₊(Si₂O₇)(SiO₄)O(OH), a new mineral from the Ananai mine, Kochi Prefecture, Japan. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 103, 400-406.

(2009 年)

2) Tanaka, H., Endo, S., Minakawa, T., Enami, M., Nishio-Hamane, D. and Miura, H. (2009): Momoite, Mn₂+3V₃+2Si₃O₁₂, a new Manganese Vanadium garnet from Japan. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences. (in press)

<鉱石>

(2008 年)

1) Takahashi, R., Muller, A., Matsueda, H., Okruign, V. M., Ono, S., Van den Kerkhof, A., Kronz, A. and Andreeva, E. D. (2008): Cathodoluminescence and trace elements in quartz: clues to metal precipitation mechanisms at the Asachinscoe gold deposit in Kamchatka. Proceedings of International Symposium "The Origin and Evolution of Natural Diversity", 175-184.

2) Takahashi, R., Watanabe, K., Imai, A., Matsueda, H. and Okrugin, V. M. (2008): Genesis and formation of ore deposits in Kamchatka peninsula, Far Eastern Russia. In K. Matsui, K. Jinno, R. Itoi and K. Sasaki (eds.) Proceedings of International Symposium on Earth Science and Technology 2008, p.253-260, December-2008, Fukuoka, Japan. (Best Paper Award)

3) Hamdy M. A., H. Matsueda, M. A. Obeid and R. Takahashi (2008): Chemistry of cassiterite in rare metal granitoids and the associated rocks in the Eastern Desert, Egypt. Jour. Mineral. Petrog. Sciences, Vol. 103, P318-326.

(2009 年)

- 4) Hamdy M. A., Helba, H. and Matsueda, H. (2009): Chemistry of zircon in rare metal granitoids and associated rocks, Eastern Desert, Egypt. *Resource Geology*, Vol.59, No.1, 51-68.
- 5) Noku, S. K., Matsueda, H., Akasaka, M. and Espi, J. O. (2009): The Laloki massive sulfide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Geology, mineralogy and geochemistry. In Williams, P. J. et al. (eds.) *Smart Science for Exploration and Mining*. 10th Biennial SGA Meeting, Spec Vol. 2; 17–20 Aug 2009, Townsville, Australia. Springer, Berlin, 731–733.
- 6) Noku, S. K. and H. Matsueda (2009): The Laloki massive sulphide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Major and trace elements of the massive sulphide ores. *Mineral Resources Authority of Papua New Guinea*, 13p.
- 7) 松枝大治・三浦裕行(2008)：島弧一大陸縁のマグマ-熱水系における金属鉱化作用——地殻浅所における元素の移動・濃集作用。沢田 健 他編 新・自然史科学Ⅱ 地球の変動と生物変化。北海道大学出版会、p. 37–65. (分担執筆)
- 8) G8 洞爺湖サミット関連企画展示実行委員会・松枝大治 編(2008)：2008 年 G8 洞爺湖サミット関連北海道大学総合博物館企画展示ガイドブック「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」、31P.

8. 考古学分野

【利活用】

考古学系資料利用状況

考古学資料展示室利用者数(人・日)記録

年度	学内	学外	総計
2008	6	67	73
2009	4	10	14

(学内者については見学を主とする大多数は記帳していない)

8-1. オホーツク文化関連コレクション

8-1-1) 標本庫利用記録

オホーツク文化考古学収蔵庫資料 (2008. 4–2009. 8)

(2008 年度)

2008. 7. 21–22 宇部則保 (八戸市教育委員会) 土器調査

2008. 9. 30 種市幸生 (北海道教育庁) 骨角器調査

2008. 11. 25 嘉藤 均 (置戸町) 石器資料調査 s

2008. 11. 25 嘉藤 常子 (置戸町) 石器資料調査

2008.11.25 荒木紅美子（置戸町）石器資料調査

（2009年度）

2009.2.5 小川隆吉（札幌市）アイヌ副装品収蔵状調査

2009.2.5 小川早苗（札幌市）アイヌ副装品収蔵状調査

2009.2.5 市川守弘（札幌市）アイヌ副装品収蔵状調査

2009.2.5 三浦忠雄（札幌市）アイヌ副装品収蔵状調査」

2009.8.18 種市幸生（元北海道教育庁）骨角器調査

オホーツク文化考古学展示資料（2008.4—2009.8）

（2008年度）

2008.6.14 収蔵庫見学会（一般市民 20名弱）

2008.7.22 宇部則保（八戸市教育委員会）土器調査

2007.9.4-12 博物館実習 考古班実習生

2008.9.30 種市幸生（北海道教育庁）骨角器調査

（2009年度）

2009.8.18 種市幸生（元北海道教育庁）骨角器調査

8-1-2) 資料・標本貸し出し（2008.4～）

（2008年度）

2008.8.23-9.10 函館高専（竹内 孝）EPMA 分析用土器片 19点

2008.9.2-9.6 石器パラタクソノミスト用教材

（北大埋蔵文化財調査室 高倉 純）：石器 10点、石刃：26点、コア：2点

2008.10-2009.3.31 蟻管レプリカ 5点：7, 28, 29, 31, 49

（東京農工大学 岩井俊昭）

（2009年度）

2009.9.11-2009.11.30 北海道埋蔵文化財センター 展示史料として

カラフトブタ 犬歯・四肢骨加工品 6点

2009.8.21-2009. 蟻管レプリカ追加 1点：49-2（東京農工大学 岩井俊昭）

2009.10.2- 函館高専（竹内 孝）EPMA 比較分析用土器片 19点

8-2. オホーツク文化人骨収蔵資料（2008.4—2009.9）

8-2-1) 標本庫利用記録

（2008年度）

2008.6.14 収蔵庫見学会（一般市民 20名弱）

2008.7.28-8.8 福本郁哉（東京大学大学院）オホーツク人骨の3D計測と歯の調査

2008.8.6-7 石田 肇（琉球大学）人骨調査

2008.8.6-7 米田 穣（東京大学大学院）人骨調査

2008.8.6-7 薦谷 匠（東京大学大学院）人骨調査

2008. 9. 16-26 石田 肇 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 四肢骨調査
2008. 9. 16-26 久高将臣 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 四肢骨調査
2008. 9. 16-26 倉本秀一 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 四肢骨調査
2009. 2. 4-6 瀧川 渉 (東北大学大学医学系研究科) 小幌洞窟出土人骨 頭蓋・四肢骨調査

(2009 年度)

2009. 8. 3-6 石田 肇 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 頭骨・四肢骨調査
2009. 8. 3-6 下田 靖 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 頭骨・四肢骨調査
2009. 8. 3-6 砂川昌信 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 頭骨・四肢骨調査
2009. 9. 3 石田 肇 (琉球大学医学部) オホーツク人骨 四肢骨調査

8-2-2) 資料・標本貸し出し

人骨資料 分析用データ提供 [2008. 4~2008. 8]

(2008 年)

2008. 4. 21-8. 10 James Taylor (University of Washington) isotope 分析用資料採取 [37]
2008. 8. 6-7 石田 肇 (琉球大学) 人骨資料採取
2008. 8. 6-7 米田 穂 (東京大学大学院) 人骨資料採取 [42 点]
2008. 8. 6-7 蔦谷 匠 (東京大学大学院) 人骨調査採取

8-2-3) 資料・標本観察利用・貸し出しによる成果 (2008-2009)

1. A. Komesu, T. Hanihara, T. Amano, H. Ono, M. Yoneda, Y. Dodo, T. Fukumine, H. Ishida (2008): Nonmetric cranial variation in human skeletal remains associated with Okhotsk culture Anthropological Science, 116(1), pp.33-47
2. V.G. Moiseyev (2008):ON THE ORIGIN OF THE OKHOTSK POPULATION OF NORTHERN AND EASTERN HOKKAIDO: CRANIAL EVIDENCE Archaeology, Ethnology & Anthropology of Eurasia 1 (33) pp.. 134-141
3. H. MATSUMURA, H. ISHIDA, T. AMANO, H. ONO, M. YONEDA (2009): Biological affinities of Okhotsk-culture people with East Siberians and Arctic people based on dental characteristics. ANTHROPOLOGICAL SCIENCE Vol. advpub(0), 1-12
4. T. Sato・T. Amano・H. Ono・H. Ishida・H. Kodera・H. Matsumura・M. Yoneda・R. Masuda (2009):Mitochondrial DNA haplogrouping of the Okhotsk people based on analysis of ancient DNA: an intermediate of gene flow from the continental Sakhalin people to the Ainu Anthropological Science Vol.117(3),171-180

8-3. 旧石器・縄文・続縄文・擦文文化関連コレクション

8-3-1) 標本庫利用記録 (2008-2009年度)

2008.11.25 嘉藤 均 (置戸町) 旧石器

2009.10.28 直江康雄 (江別市) 旧石器

8-4. アイヌ文化関係資料 (2008-2009年)

8-4-1) 利用記録

2009.2.5 小川隆吉 (札幌市) アイヌ墓副葬品保管状態調査

2009.2.5 小川早苗 (札幌市) アイヌ墓副葬品保管状態調査

2009.2.5 市川利美 (札幌市) アイヌ墓副葬品保管状態調査

2009.2.5 三浦忠雄 (留萌市) アイヌ副葬品保管状態調査

2009.8.21 内閣府調査委員会 アイヌ副葬品保管状態視察

9. 学術標本データベース

現在総合博物館で構築・インターネット公開されているデータベースは、タイトル別にして14、分野にして6分野である（それぞれ古生物学、鉱物・鉱床学、植物体系学、昆虫分類学、魚類分類学、その他分野横断 [=植物体系学、鉱物・鉱床学、考古学を横断]）。

以下に当館で管理されているものについてタイトルを記す（北大総合博物館登録標本データベース：<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/>の表記を踏襲し、系別表記とする）。

●地球科学系(既公開及び準備中のものを含む)

- ・化石標本（約20,000点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・鉱物（北海道産新鉱物ほかタイプ標本（10点）を含む約7,500点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・岩石（約9,000点、理学研究院より公開中、博物館HPからの公開準備中）
- ・北海道の火山（有珠ほか）（約1,600点、公開準備中）
- ・宇井標本（約1,100点、公開準備中）
- ・地質標本・現象のデータベース（約420点、HP公開中）
- ・鉱石データベース（約4,000点、HP公開準備中）
- ・カムチャッカ金属資源データベース（約430点、平成17年9月～HP公開中）
- ・黒曜岩標本（吉谷コレクション）（約1,140点、HP公開準備中）
- ・白滝遺跡出土石器（黒曜石）（約5,300点、HP公開準備中）
- ・渡辺武男標本（約1,385点、HP公開準備中）
- ・由井俊三標本（約3,000点、HP公開準備中）

●生物系

- ・海藻標本データベース
 - ・陸上植物タイプ標本データベース
 - ・エンマムシデータベース
 - ・IC タグ×昆虫標本データベース
 - ・苫小牧研究林生命情報データベース
 - ・魚類標本データベース
 - ・昆虫標本データベース
 - ・北海道大学昆虫学教室・総合博物館所属タイプ標本データベース
 - ・中根猛彦コレクション：甲虫類タイプ標本データベース
- 分野横断データベース
- ・北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース

総合博物館等に保管されている主な学術標本の整理・研究利用状況

標本庫 (国際略 称)	総標本点数 (内未整理点 数)	タイプ標本	面積 (m ²)	学外利用 研究者 (人・日) 2008-2009	研究用標 本貸し出 し件数 2008-2009	論文数 2008-2009
陸上植物 (SAPS)	400,000 (150,000)	323	248	78	2	10
菌類 (SAPA)	170,000	300	48	7	6	8
海藻 (SAP)	140,000	350	116 (+232)	11	12	11
昆虫 (SEHU)	1,800,000	10,000	290	14	49	---
魚類 (HUMZ)	190,000	800	1053 (水産)	14	26	17
無脊椎動物 (ZIHU)	2,425	700	198	---	---	---
古生物	20,000	700	145	4	5	2
岩石・鉱物	71,350 (50,000)	12	335 (+100) (利用件数)	27	4	15
考古	30,000	---	232 (+105?)	77	9	4

標本庫の利用状況、研究用の標本貸出、成果論文数など、標本の利活用状況のモニタリングが必要である。分野によっては記録が不十分であり今後の課題である。分野間で記録の条件が異なる点もあり、統一した基準も必要である。

IV. 高等教育

博物館教員が兼任あるいは担当する理学部・農学部・水産学部、理学院・農学院・水産科学院で講義・実習・特論等を担当し、担当学部・学院では卒論生・修士・博士も指導している。また全学教育においても多くの授業を担当している。以下は、博物館教員が主担当となり全学対象に開講している博物館開催の授業である。

1. 全学教育(2009年度)

総合科目：「今、大学博物館が面白い！－“物”にこだわる科学」
「北大総合博物館で学ぼう！－ヒグマ学入門」
「大学博物館講座－北大自然史研究の系譜」

一般教育演習：

「北大総合博物館で学ぼう！－自然と人間」
「北大エコキャンパスの自然と歴史」
「北大エコキャンパスの自然－植物学入門」

2. 大学院授業(2009年度)

大学院共通授業科目：

「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」
「博物館学特別講義 II (展示・教育・活動評価)」
「博物館コミュニケーション特論」

3. ミュージアムマイスター認定コース (2009年度)

- ・実施プログラム：28科目
- ・受講者：延べ1,002人
- ・認定コース登録者：41人
- ・マイスター認定者：2人
- ・認定コースオフカリキュラム授業：「大学博物館展示解説プログラム」、「展示解説入門」、「キャンパスツアーアクティビティ」、「『疋田豊治ガラス乾板写真』展の展示制作」、「『疋田豊治ガラス乾板写真』展の展示解説」、「『花の日露交流史』展の展示制作」、「『花の日露交流史』展の展示解説」、「博物館ガイドブックの制作」、「平成遠友夜学校の運営」、「博物館オリジナルTシャツの制作」、「水産科学館リニューアルプロジェクト」、「卒論ポスター発表会」。

4. 博物館学芸員実習 (2009年度)

- ・8日間 (2009年9月1日～9日)

V. 展示活動

1. 常設展示

- 1階：北大歴史展示、学術テーマ展示
- 2階：学術テーマ展示「ユニバーシティ・ラボ」
- 3階：学術資料展示（地球惑星科学分野、獣医学分野、生物分類学分野）

2. 企画展示（平成20(2008)年度～平成21(2009)年度）

平成20(2008)年度（7回）

第57回 「ライマンと北海道の地質」

（平成20年4月29日～6月1日）

第58回 G8洞爺湖サミット関連企画展示「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」

（平成20年6月17日～8月30日）

第59回 「分子のかたち展 - サイエンス×アート」

（平成20年7月15日～9月28日）

第60回 「カレル・チャペック その生涯と時代 一没後70周年展 1890 - 1938」

（平成20年10月25日～12月25日）

第61回 「南極写真展『剥き出しの地球—南極大陸』

—第49次南極地球観測隊セール・ロンダーネ山地調査隊の記録」

（平成20年10月28日～11月12日）

第62回 「歴史的建造物の動的保存と環境的アプローチ」

（平成20年11月14日～11月30日）

第63回 「アイヌ文化展 テエタシンリッ テクルコチ（先人の手あと）」

（平成21年2月1日～3月29日）

平成21(2009)年度（6回）

第64回 「支笏火山と私たちのくらし」

(平成21年4月28日～5月31日)

第65回 「生物多様な部屋－北大の分類学の系譜」

(平成21年8月1日～9月27日)

第66回 「疋田豊治ガラス乾板写真展」

(平成21年10月24日～11月23日)

第67回 実験展示：統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」

(平成21年11月4日～11月13日)

第68回 「アンモナイト銅版画展」

(平成22年2月16日～4月18日)

第69回 「花の日露交流史－幕末の箱館山を見た男」

(平成22年3月14日～5月9日)

3. 入館者数

年度	期間	開館日数	入館者数(年度)	入館者数累計	1日平均
10年度	11月24日～3月31日	77	3,043	3,043	40
11年度	4月1日～3月31日	243	9,733	12,776	40
12年度	4月1日～3月31日	241	8,789	21,565	36
13年度	4月1日～3月31日	242	15,866	37,431	66
14年度	4月1日～3月31日	251	28,952	66,383	115
15年度	4月1日～3月31日	289	42,431	108,814	147
16年度	4月1日～3月31日	302	43,889	152,703	145
17年度	4月1日～3月31日	303	75,685	228,388	250
18年度	4月1日～3月31日	303	73,993	302,381	244
19年度	4月1日～3月31日	302	89,086	391,467	295
20年度	4月1日～3月31日	300	62,701	454,168	209
21年度	4月1日～3月31日	303	69,646	523,814	230
計		3,156	523,814		

<休館日>

平成11年4月1日より

休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成14年4月1日より

休館日：土曜日(毎月第2土曜日は開館)、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成15年4月1日より

休館日：日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成16年4月1日より

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/28～1/3、その他臨時休館日

月別入館者数

平成20年度

平成21年度

月	開館日数	入館者数	1日当たり平均入館者数	開館日数	入館者数	1日当たり平均入館者数
4	26	4,339	167	26	3,399	131
5	27	5,581	207	27	5,748	213
6	25	6,398	256	25	8,054	322
7	27	6,250	231	27	5,713	212
8	27	10,395	385	27	11,320	419
9	25	6,014	241	25	8,452	338
10	27	6,343	235	27	8,658	321
11	26	5,764	222	25	5,889	236
12	21	2,704	129	24	2,473	103
1	21	1,729	82	22	1,984	90
2	23	3,084	134	23	3,281	143
3	25	4,100	164	25	4,675	187
合計	300	62,701	209	303	69,646	230

<展示解説・案内>

展示解説依頼に対しては、館長・教授・准教授・研究支援推進員・資料部研究員・ボランティア等が適宜分担し対応している。

20年度に博物館見学申込書が提出された来館団体は、192件【小学校34件

(566名)、中学校39件(686名)、高等学校26件(3,203名)、その他93件(2,429名)】、その内以下の91件に対して解説を行った。

21年度は、それぞれ197件【小学校23件(362名)、中学校47件(895名)、高等学校37件(4,166名)、その他90件(2,324名)】、その内77件に対して解説を行った。

平成20年度

見学団体名	年月日	人数	対応教員等
(社)北海道建築士会道央ブロック協議会	20年 4月 5日	30	大原
北海道教育大学附属函館小学校	20年 4月24日	35	湯浅他
北海道八雲高等学校	20年 4月25日	8	松枝
余市町立東中学校	20年 5月13日	5	湯浅他
興部町立汐留中学校	20年 5月14日	1	湯浅他
伊達市立東小学校	20年 5月21日	8	有馬
文科省財務企画担当	20年 5月22日	3	松枝
文科省研究振興局研究環境・産業連携課管理係	20年 5月27日	1	江島
江別市立大麻中学校	20年 5月28日	12	有馬
サハリン州行政府国際・対外経済関係・地域間交流委員会			
札幌市立中央中学校	20年 5月29日	3	天野
小樽市立朝里中学校	20年 6月 4日	6	有馬
小樽市立朝里中学校	20年 6月 5日	4	有馬
小樽市立北山中学校	20年 6月 5日	6	有馬
札幌市立信濃中学校	20年 6月 6日	11	有馬
北大理学部化学科28期同期会	20年 6月10日	10	湯浅
札幌第一高等学校	20年 6月10日	60	湯浅
小樽市立忍路中学校	20年 6月12日	3	有馬
東神楽町立東聖小学校	20年 6月18日	15	湯浅
文科省研究振興局研究環境・産業連携課	20年 6月19日	2	松枝
北海道有明高等学校通信制・理科	20年 6月25日	8	湯浅
G8大学サミットエクスカーション	20年 7月 1日	7	館長他
タスマニア大学学長他	20年 7月 1日	3	館長他
千歳市立富丘中学校	20年 7月 2日	12	有馬他
千歳市立富丘中学校	20年 7月 2日	6	有馬他
帯広市立東小学校	20年 7月 2日	5	有馬他
帯広市立東小学校	20年 7月 2日	5	有馬他

クラーク博士の玄孫	20年 7月 8日	2	館長他
厚真町立厚南中学校	20年 7月 9日	5	湯浅他
韓国東西大学設立者・総長他	20年 7月15日	20	館長
千歳市立青葉中学校	20年 7月17日	6	有馬
南幌町立南幌中学校	20年 7月17日	39	湯浅他
HIMS(北海道国際ミネラル・宝石・クラフト展)	20年 7月20日	5	松枝
北海道遺産見学愛別同好会	20年 7月30日	30	有馬
平成20年度国立大学法人等監事協議会北海道支部会	20年 8月 1日	29	松枝
石狩管内教育研究会中学校理科部会	20年 8月 6日	8	湯浅
石狩市社会福祉協議会寿窯	20年 8月22日	65	有馬他
福岡大学夏季セミナー	20年 8月25日	23	松枝
富山大学地域連携推進機構	20年 8月25日	4	松枝
遠軽町立生田原中学校	20年 8月27日	4	有馬他
湧別町立湧別中学校	20年 8月28日	11	有馬
帯広市立開西小学校	20年 8月28日	5	田中他
東北文化学園大学	20年 9月 3日	1	大原
帯広市立豊成小学校	20年 9月11日	5	田中他
根室市立柏陵中学校	20年 9月11日	24	田中他
札幌市園芸クラブ	20年 9月12日	20	湯浅他
中央大学入学センター事務部大学史編纂課	20年 9月25日	2	湯浅
国立大学薬学部事務長会議	20年 9月26日	20	天野
オウル大学(フィンランド)情報科学部・理学部	20年10月 2日	3	天野
苫小牧市長生大学	20年10月 3日	200	湯浅他
新冠町郷土資料館	20年10月 4日	30	有馬他
東京女子大学同窓会北海道支部	20年10月 5日	25	湯浅
音更町立音更小学校	20年10月 8日	19	有馬
岩見沢市立美流渡中学校	20年10月10日	4	大原
JICA生物多様性研修NPO法人EnVision環境保全事務所	20年10月10日	11	大原
北海道高等学校文化連盟第30回全道高等学校図書研究大会	20年10月20日	32	湯浅他
北海道白糠高等学校	20年10月20日	8	湯浅他
北海道有朋高等学校通信制課程	20年10月23日	21	湯浅他
札幌市立宮の森中学校	20年10月24日	5	湯浅他
放送大学北海道学習センター	20年10月26日	10	湯浅
札幌西ロータリークラブ	20年10月26日	60	湯浅他

北海道大学大学院法学研究科(台湾大学)	20年10月26日	20	湯浅
中国浙江大学	20年10月27日	9	松枝
根室管内標津町役場標津町地域新エネルギー・ビジョン策定委員会	20年10月30日	10	松枝
小樽市高齢者懇談会社のつどい	20年11月 1日	45	有馬他
北竜町小中合同PTA	20年11月 1日	42	有馬他
北海道開拓の村ボランティアの会	20年11月 5日	101	湯浅他
ソウル大学代表団(ジョイントシンポジウム)	20年11月 7日	5	松枝
US Arctic Research Commission	20年11月11日	10	大原
石狩管内教育研究会中学校理科部会	20年11月14日	20	松枝他
文科省大臣官房会計課第三予算班	20年11月14日	2	松枝
札幌国際プラザボランティア通訳コンベンショングループ	20年11月15日	7	有馬
石狩北部地区幼年少年婦人防火委員会婦人防火クラブ	20年11月18日	34	湯浅他
中国教育部行政官	20年11月19日	11	松枝
北京大学学長他	20年11月25日	3	館長
中国教育部「神州学人」訪日団	20年11月27日	8	天野
技術政策研究会	20年11月29日	10	湯浅他
ジャスコ札幌元町店チアーズクラブ	20年11月29日	5	高橋他
会計検査院実地検査総括副長	20年12月10日	1	館長
官民人材交流センター及び再就職等監視委員会準備室	20年12月11日	3	館長
北海道岩見沢緑陵高等学校	20年12月16日	78	石田他
北海道大学留学生センター(授業)	20年12月18日	7	湯浅他
常盤大学(視察)	21年 1月16日	2	湯浅他
国立大学法人10大学理学部事務長会議	21年 1月30日	10	松枝
後旦大学前学長他	21年 2月10日	3	松枝
国立韓京大学校	21年 2月16日	6	松枝
文部科学省法人支援課	21年 2月20日	4	松枝
人間文化研究機構国文学研究資料館	21年 2月24日	5	有馬他
上海海洋大学副学長他	21年 2月26日	6	松枝
文部科学省事務次官他	21年 2月27日	5	山崎
	(アイヌ・先住民研究センター助教)		
文部科学省大臣官房会計課経理班	21年 3月 6日	5	松枝

平成21年度

見学団体名	年月日	人数	対応教員等
札幌太田病院ディケア	21年 4月 4日	25	湯浅他
第35回山口県少年少女の船	21年 4月 4日	150	湯浅他
千歳市立千歳中学校	21年 5月 8日	6	有馬
帯広市立緑園中学校	21年 5月13日	7	湯浅
岩見沢市立光陵中学校	21年 5月13日	12	有馬他
中国中央民族大学	21年 5月14日	6	館長
道庁家族会	21年 5月19日	13	湯浅他
北広島市立大曲中学校	21年 5月21日	42	有馬
千歳市立富丘中学校	21年 5月28日	11	石田他
千歳市立富丘中学校	21年 5月28日	5	有馬
千歳市立向陽台中学校	21年 5月29日	11	持田
札幌市立信濃中学校	21年 6月 5日	8	湯浅他
小樽市立朝里中学校	21年 6月 9日	35	湯浅他
北海道大学獣医学部	21年 6月11日	21	寺西他
滝川市立滝川第一小学校	21年 6月17日	9	林他
滝川市立滝川第二小学校	21年 6月18日	6	石田他
北海道大学獣医学部	21年 6月18日	21	寺西他
英國シェフィールド大学	21年 6月18日	4	松枝
岡山県立高梁高等学校	21年 6月19日	33	湯浅他
美唄市立中央小学校	21年 7月 1日	12	有馬
札幌手稲高等学校	21年 7月 2日	1	湯浅他
韓国明知専門大学	21年 7月 2日	29	高橋
恵庭市郷土資料館	21年 7月 3日	2	館長
文科省高等教育局医学教育課大学病院支援室	21年 7月 3日	4	天野
札幌市立あやめ野小学校	21年 7月 7日	5	有馬
南幌町立南幌中学校	21年 7月15日	14	持田他
河北省廃棄物研修訪問団	21年 7月16日	11	天野
温萌里婦人学校	21年 7月17日	10	寺西他
日本語教授法ワークショップ2009訪問団	21年 7月21日	7	天野
高麗大学校師範大学・教育大学院	21年 7月23日	6	館長
中国・華東理工大学法学院	21年 7月28日	30	天野
韓国全国理学部長訪問団	21年 7月28日	9	松枝
サンエンスアイ	21年 8月 7日	20	湯浅他

ワリン・スチャランタイ王国大使館学生部公使参事官

	21年 8月12日	2	館長
北広島市立東部小学校職員	21年 8月21日	17	有馬
大空町立東藻琴中学校	21年 8月25日	2	湯浅他
北見市立北中学校	21年 8月26日	27	湯浅
北京理工大学	21年 8月27日	5	天野
札幌市太平百合が原地区センター「太平百合が原大学講座」			
	21年 8月28日	40	湯浅他
斜里町立斜里中学校	21年 9月 2日	3	湯浅他
大人の社会科見学	21年 9月 2日	30	湯浅他
東京女子大学同窓会	21年 9月 6日	47	湯浅
中国教育部行政官訪問団	21年 9月 9日	15	館長
後志小中学校退職女性教職員ゆきわ会	21年 9月10日	20	有馬他
新冠町立朝日小学校	21年 9月10日	6	有馬他
根室市立柏陵中学校	21年 9月17日	22	有馬他
稚内市立稚内南中学校	21年 9月17日	11	有馬他
日本分析化学会	21年 9月25日	6	有馬他
神戸地域関係者訪問団	21年 9月29日	9	天野
札幌手稻老人福祉センター	21年10月 1日	30	湯浅他
由仁町立由仁中学校	21年10月 1日	34	湯浅他
徳島大学	21年10月 2日	4	高橋
札幌開成高等学校PT会	21年10月 9日	30	湯浅他
国際大学協会(パリ大学)	21年10月19日	2	館長
文部科学省学術機関課長	21年10月22日	3	天野
韓国教育人的資源部	21年10月29日	10	大原
ラポール二十四軒2号館町内会ふれ合い親交会	21年10月29日	10	湯浅他
北海道有朋高等学校	21年10月30日	16	湯浅他
北京大学発展企画部	21年11月 4日	6	高橋
開智中学校	21年11月 5日	4	小俣他
開智中学校	21年11月 6日	3	有馬
弟子屈町・北大医院農学研究院	21年11月11日	7	天野
韓国嶺南大学経営大学院	21年11月16日	38	天野
財務部長来客訪問団	21年11月20日	2	天野
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課	21年12月 4日	4	松枝
NHK文化センター	21年12月 9日	40	有馬他
ブリティッシュ・カウンシル駐日副代表	21年12月18日	1	小林

柳山暁実	22年 1月 7日	2	有馬他
福岡県立三池高等学校	22年 1月19日	180	湯浅他
スロベニア大使一行	22年 1月22日	2	松枝
財務部長一行	22年 2月 2日	4	有馬
駐日南アフリカ共和国大使一行	22年 2月 5日	5	館長
韓国全国国公立大学教授会連合会	22年 2月10日	18	松枝
早稲田大学人間科学学術院	22年 2月15日	9	天野
文部科学省スポーツ青少年局企画体育課	22年 3月12日	2	高橋
札幌オオドオリ大学	22年 3月13日	25	林他
イルクーツク大学	22年 3月30日	5	松枝

VI. 社会教育・普及活動

1. 博物館セミナー (平成20年度～平成21年度)

平成20(2008)年度 (20回)

第197回総合博物館セミナー

講師：ジェイムズ テイラー（ワシントン大学人類学科・博士課程院生）

日時：2008年4月12日

「オホーツク集団の移住と動物獲得－アイソトープ分析－」（土曜市民セミナー）

第198回総合博物館セミナー

講師：湯浅 万紀子（北海道大学総合博物館・准教授）

日時：2008年5月10日

「記憶の中の博物館－博物館体験の長期記憶を探る」（土曜市民セミナー）

第199回総合博物館セミナー

講師：成田 敦史（札幌第一高等学校・教員）

日時：2008年6月14日

「植物化石から知る植物の歴史」（土曜市民セミナー）

第200回総合博物館セミナー

講師：高橋 英樹・天野 哲也・大原 昌宏（北大総合博物館）

日時：2008年6月22日

「北大エコキャンパス観察会」（博物館セミナー）

第201回総合博物館セミナー

講師：知北 和久（理学研究院自然史科学部門・准教授）

日時：2008年7月5日

「温暖化によるヒマラヤ氷河湖の拡大と決壊洪水（GLOF）」

（「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」企画展示関連セミナー）

第202回総合博物館セミナー

講師：上田 宏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・教授）

日時：2008年7月12日

「洞爺湖およびその周辺の環境と資源の過去・現在・未来」（土曜市民セミナー）

第203回総合博物館セミナー

講師：小杉 康（大学院文学研究科・教授）

日時：2008年7月19日

「有珠火山と後氷期の人類活動」（「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」企画展示
関連セミナー）

第204回総合博物館セミナー

講師：小俣 友輝（北海道大学総合博物館・助教）

日時：2008年8月9日

「北大総合博物館2008年夏の企画展示「分子のかたち展－サイエンス×アート」について」（土曜市民セミナー）

第205回総合博物館セミナー

講師：池上 重康（北海道大学工学研究科・助教）

日時：2008年9月13日

「検証！北大の都市伝説」（土曜市民セミナー）

第206回総合博物館セミナー

講師：山本 玉樹（北大総合博物館 資料部研究員）

日時：2008年10月11日

「札幌農学校の教育思想－偽と戦争への道に抗した先覚」（土曜市民セミナー）

第207回総合博物館セミナー

講師：佐藤 矩康（（財）日本美術刀剣保存協会 札幌支部 名誉顧問）

日時：2008年11月8日

「北の出土刀を科学する－X線CT法による上古刀の一（はばき）構造の解析」（土曜市民セミナー）

第208回総合博物館セミナー

講師：菅 正広（北海道大学公共政策大学院・教授）

日時：2008年11月29日

「日本でもマイクロファイナンスを始めてみませんか？～市民が変える内外の貧困・格差～」（土曜市民セミナー）

第209回総合博物館セミナー

講師：アシム ムナワー（北大総合博物館 ボランティア（HUISA））

日時：2008年12月13日

「今日の世界におけるパキスタンの重要性」（土曜市民セミナー）

第210回総合博物館セミナー

講師：明楽 みゆき（チェンバロ奏者）

日時：2009年1月10日

「バッハの時代の作曲家たち－1700－1750年の音楽模様」（土曜市民セミナー）

第211回総合博物館セミナー

講師：佐藤 利幸（信州大学理学部・教授）

日時：2009年1月24日

「博物館と自然環境」（第1回教育GPセミナー）

第212回総合博物館セミナー

講師：トミオ・イワモト博士（カリフォルニア科学アカデミー）

日時：2009年2月7日

「日本のソコダラ科魚類 - Grenadiers of Japan」（土曜市民セミナー）

第213回総合博物館セミナー

講師：鈴木 幸人（文学研究科・准教授）

日時：2009年2月14日

「〈学問の神様〉の造形 雷／御靈／菅原道真」（土曜市民セミナー）

第214回総合博物館セミナー

講師：豊 遙秋（元産業技術研究所地質標本館長）

日時：2009年2月28日

「世界の博物館における鉱物展示から見えるもの」（第2回教育GPセミナー）

第215回総合博物館セミナー

講師：加藤 克（北大北方生物圏フィールド科学センター 植物園・助教）

日時：2009年3月14日

「北大植物園のアイヌ民族資料－その歴史と特徴－」（土曜市民セミナー）

第216回総合博物館セミナー

講師：上田 宏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・教授）

日時：2009年3月21日

「北方地域人間環境科学教育プログラムの取り組みと問題点」（第3回教育GPセミナー）

一)

平成 21(2009)年度 (28回)

第 217 回総合博物館セミナー

講師：土屋 周三（小樽市総合博物館・前館長）

日時：2009年4月11日

「北海道開拓と北前船」（土曜市民セミナー）

第 218 回総合博物館セミナー

講師：スフバートル レンチスレン（北海道大学総合博物館・ボランティア HU I SA）

日時：2009年5月9日

「モンゴルの現状－伝統的な暮らし VS 近代的な暮らし」（土曜市民セミナー）

第 219 回総合博物館セミナー

講師：若松 幹男（北海道地質調査業協会 技術アドバイザー）

瀬戸 静恵（財団法人自然公園財団支笏湖支部）

日時：2009年5月16日

「支笏火山と支笏湖 よもやまばなし」（支笏火山と私たちの暮らし企画展示関連
土曜市民セミナー）

第 220 回総合博物館セミナー

講師：明楽 みゆき（チェンバロ奏者）

日時：2009年6月13日

「バッハの時代の音楽家たち～1700－1750年の音楽模様 PART2」（土曜市民セ
ミナー）

第 221 回総合博物館セミナー

講師：持田 誠（北海道大学総合博物館・研究支援推進員）

日時：2009年7月11日

「だれが標本を守るのか？－研究でも教育でもない博物館の役割－」（土曜市民セ
ミナー）

第 222 回総合博物館セミナー

講師：谷古 宇尚（北海道大学大学院文学研究科・准教授）

日時：2009年7月25日

「知られざる北海道写真の展覧会をつくる—北大総合博物館水産科学館の資料を利用した学生の試み」(第4回教育GPセミナー)

第223回総合博物館セミナー

講師：高橋 英樹（北海道大学総合博物館・教授）

日時：2009年8月8日

「花の日露交流史—幕末の箱館山を見た男(2010年3月企画展プレセミナー)」(土曜市民セミナー)

第224回総合博物館セミナー

講師：池田 文人（大学院理学院自然史科学専攻／高等教育機能開発総合センター・准教授）

日時：2009年8月29日

「フィンランドの教えない教育 一世界を創る対話の力ー」(第5回教育GPセミナー)

第225回総合博物館セミナー

講師：五十嵐 恒夫（北海道大学・名誉教授）

日時：2009年9月12日

「北海道のキノコ—森林におけるキノコの役割ー」(土曜市民セミナー)

第226回総合博物館セミナー

講師：堂前 雅史（和光大学現代人間学部・教授）

日時：2009年9月26日

「流域主義による地域貢献と環境教育」(第6回教育GPセミナー)

第227回総合博物館セミナー

講師：岩下 明裕（北海道大学スラブ研究センター教授）

日時：2009年10月3日

「ボーダースタディーズと『北の国境』」(土曜市民セミナー)

第228回総合博物館セミナー

講師：早崎 公威（北海道大学大学院理学研究院・学術研究員）

日時：2009年10月10日

「宇宙とブラックホール」(土曜市民セミナー)

第 229 回総合博物館セミナー

講師：黒岩 幸子（岩手県立大学准教授）

日時：2009 年 11 月 7 日

「日露国境地帯としての千島・根室」（土曜市民セミナー）

第 230 回総合博物館セミナー

日時：2009 年 11 月 14 日

「疋田写真の魅力（疋田豊治ガラス乾板写真展 関連シンポジウム）」（土曜市民セミナー）

第 231 回総合博物館セミナー

講師：柴川 敏之（美術作家／福山市立女子短期大学・准教授）

日時：2009 年 11 月 28 日

「2000 年後の美術館・博物館プロジェクト～現代アートとのコラボレーションによるミュージアムの活性化～」（第 7 回教育 GP セミナー）

第 232 回総合博物館セミナー

講師：本田 良一（北海道新聞社記者）

日時：2009 年 12 月 5 日

「『密漁の海』を越えて」（土曜市民セミナー）

第 233 回総合博物館セミナー

講師：木村 純（北海道大学高等教育機能開発総合センター・教授）

日時：2009 年 12 月 12 日

「市民の学びの場としての博物館」（土曜市民セミナー）

第 234 回総合博物館セミナー

講師：松本 文夫（東京大学総合研究博物館・特任准教授）

　　清水 則雄（広島大学総合博物館・学芸職員）

　　湯浅 万紀子（北海道大学総合博物館・准教授）

日時：2009 年 12 月 19 日

「大学博物館から拓く学生教育の未来 2」（2009 年度教育 GP シンポジウム）

第 235 回総合博物館セミナー

講師：クリス・ダヴィデスク他（北海道大学留学生協議会・H U I S A）

日時：2010 年 1 月 9 日

「素晴らしい国ルーマニア」（土曜市民セミナー）

第 236 回総合博物館セミナー

講師：松田 凡（京都文教大学文化人類学科・教授）

日時：2010 年 1 月 30 日

「文化コーディネーターと町づくり」（第 8 回教育 GP セミナー）

第 237 回総合博物館セミナー

講師：相原 秀起（北海道新聞社）

日時：2010 年 1 月 31 日

「北緯 50 度線の証言者～樺太日露国境標石の物語～」（博物館セミナー）

第 238 回総合博物館セミナー

講師：工藤 信彦（社団法人全国樺太連盟理事）

日時：2010 年 2 月 6 日

「浮遊する樺太」（土曜市民セミナー）

第 239 回総合博物館セミナー

講師：坂倉 秀典（「香月泰男美術館」元館長）

日時：2010 年 2 月 7 日

「命をかけた画家・香月泰男」（博物館セミナー）

第 240 回総合博物館セミナー

講師：福岡 幸一（全道美術協会会員・日本古生物学会会員）

日時：2010 年 2 月 13 日

「アンモナイトに取り憑かれて（アンモナイト銅版画展 関連セミナー）」（土曜市民セミナー）

第 241 回総合博物館セミナー

講師：荒井 信雄（北海道大学スラブ研究センター教授）

日時：2010 年 3 月 6 日

「日本とロシア：敵かパートナーか」（土曜市民セミナー）

第 242 回総合博物館セミナー

講師：望月 哲男（北海道大学スラブ研究センター・教授）

日時：2010 年 3 月 13 日

「マキシモビッチと19世紀のペテルブルグ
(花の日露交流史一幕末の箱館山を見た男 関連セミナー)」(土曜市民セミナー)

第243回総合博物館セミナー

講師：安藤 厚（北海道大学大学院文学研究科・教授）

日時：2010年3月27日

「北大の教育改革の15年—教養教育、体験型教育の現状と未来—」(第9回教育GPセミナー)

第244回総合博物館セミナー

講師：梅沢 俊（植物写真家）

日時：2010年3月27日

「マキシモヴィッチが見た花と春の函館山花散歩」(企画展示関連セミナー)

2. 公開シンポジウム (平成20年度～平成21年度)

平成20(2008)年度 (8回)

第23回 (2008年6月28, 29日)

「Taxonomy Returns - 分類学の帰還」

第24回 (2008年8月2日)

「有珠山と共に生きる」

第25回 (2008年9月20日)

「分子のかたち展 サイエンス×アート×サイエンスとアート、出会いのかたち」

第26回 (2008年10月25日)

「カレル・チャペック=シンポジウム」

第27回 (2008年12月17日)

「エンマムシの分類と系統」

第28回 (2009年1月20日)

2008年度教育GPシンポジウム「博物館から拓く学生教育の未来」

第29回 (2009年2月20日)

「西部環太平洋地域の島弧環境における熱水活動に関連する金属鉱化作用」

第30回 (2009年3月5日)

「Species Diversity of Benthic Fishes (底生性魚類の多様性)」

平成21(2009)年度 (5回)

第31回（2009年6月24日&27日）

「How to Use Pictures, Audio and Movies for Your Research」

第32回（2009年11月08日&13日）

「北大サステナ2009・統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」

第33回（2009年12月19日）

「初期鉄器時代の北西オホーツク海沿岸部における南部域との文化的関係について - トカレフ文化を中心に - 」

第34回（2010年2月7日）

「環太平洋域に棲んでいた新生代の絶滅動物：デスマスチルスの謎にせまる」

第35回（2010年3月14日）「日ロの植物学交流史」

3. パラタクソノミスト養成講座 (平成20年度～平成21年度)

平成20(2008)年度 (19回)

「植物パラタクソノミスト養成講座(初心者・初級)」

第57回パラタクソノミスト養成講座 (植物)

講師：高橋 英樹（北大総合博物館・教授）

　　加藤 ゆき恵（北大大学院農学院）

日時：2008年7月12日（土）～7月13日（日）

会場：北大総合博物館・野外採集・観察

「魚類パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第58回パラタクソノミスト養成講座 (魚類)

講師：仲谷 一宏（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）

　　矢部 衛（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）

　　今村 央（北大総合博物館・准教授）

日時：2008年8月4日（土）～8月5日（日）

会場：北大函館キャンパス

「土壤ダニパラタクソノミスト養成講座(初級・中級)」

第59回パラタクソノミスト養成講座 (ダニ)

講師：岡部 貴美子（森林総合研究所）

　　芝 実（松山東雲短期大学・准教授）

　　島野 智之（宮城教育大学・准教授）

　　高久 元（北海道教育大学・准教授）

日時：2008年9月1日（月）～9月15日（金）

会場：北大総合博物館

「石器パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第60回パラタクソノミスト養成講座 (石器)

講師：高倉 純（北海道大学埋蔵文化財調査室）

日時：2008年9月13日（土）

会場：北大総合博物館・北大埋蔵文化財調査室

「岩石・鉱物パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第61回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：在田 一則（北大総合博物館・資料部研究員）

三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）

松枝 大治（北大総合博物館・教授）

日時：2008年9月27日（土）～9月28日（日）

会場：北大総合博物館

「きのこパラタクソノミスト養成講座(初級)」

第62回パラタクソノミスト養成講座 (きのこ)

講師：小林 孝人（北大総合博物館）

高橋 英樹（北大総合博物館・教授）

日時：2008年10月4日（土）

会場：北大総合博物館

「岩石・鉱物野外観察会」

第63回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：松枝 大治（北大総合博物館・教授）

三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）

日時：2008年10月11日（土）

会場：日高・富良野・三笠方面

「岩石パラタクソノミスト養成講座(中級)」

第64回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：在田 一則（北大総合博物館・資料部研究員）

日時：2008年11月22日（土）～11月23日（日）

会場：北大総合博物館・高機能センター

「鉱床パラタクソノミスト養成講座(中級)」

第65回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：松枝 大治 (北大総合博物館・教授)

日時：2008年12月6日 (土) ~12月7日 (日)

会場：北大総合博物館

「化石パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第66回パラタクソノミスト養成講座 (化石)

講師：小林 快次 (北大総合博物館・助教)

日時：2008年12月7日 (日)

会場：北大総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座(中級)」

第67回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：三浦 裕行 (北海道大学大学院理学研究院・講師)

松枝 大治 (北大総合博物館・教授)

日時：2008年12月13日 (土) ~12月14日 (日)

会場：北大総合博物館

「コケ植物パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第68回パラタクソノミスト養成講座 (植物)

講師：内田 晓友 (斜里町立知床博物館・学芸員)

日時：2009年1月10日 (土)

会場：北大総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第69回パラタクソノミスト養成講座 (昆虫)

講師：大原 昌宏 (北海道大学総合博物館・教授)

澤田 義弘 (大阪府箕面昆虫館・学芸員)

日時：2009年1月24日 (土) ~1月25日 (日)

会場：北大総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座(上級)」

第70回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：三浦 裕行 (北海道大学大学院理学研究院・講師)

日時：2009年2月7日 (土)

会場：理学部6号館

「イネ科植物パラタクソノミスト養成講座(中級)」

第71回パラタクソノミスト養成講座 (植物)

講師：木場 英久 (桜美林大学・准教授)

日時：2009年2月8日 (日)

会場：北大総合博物館

「甲虫目昆虫パラタクソノミスト養成講座(中級)」

第72回パラタクソノミスト養成講座 (昆虫)

講師：大原 昌宏 (北海道大学総合博物館・教授)

澤田 義弘 (大阪府箕面昆虫館・学芸員)

日時：2009年2月14日 (土) ~2月15日 (日)

会場：北大総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座(上級)」

第73回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：高橋 亮平 (九州大学工学研究院・非常勤研究員)

松枝 大治 (北大総合博物館・教授)

日時：2009年2月21日 (土) ~2月22日 (日)

会場：北大総合博物館

「水草パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第74回パラタクソノミスト養成講座 (植物)

講師：山崎 真実 (札幌市博物館活動センター・学芸員)

日時：2009年2月21日 (土)

会場：北大総合博物館

「岩石・鉱物パラタクソノミスト養成講座(初級)」

第75回パラタクソノミスト養成講座 (岩石・鉱物)

講師：在田 一則 (北大総合博物館・資料部研究員)

三浦 裕行 (北海道大学大学院理学研究院・講師)

日時：2009年2月28日 (土) ~3月1日 (日)

会場：北大総合博物館

平成 21(2009) 年度 (24 回)

「土器パラタクソノミスト養成講座 (初級)」
第 76 回パラタクソノミスト養成講座 (考古)
講師：天野 哲也 (北海道大学総合博物館・教授)
小野 裕子 (北海道大学総合博物館・資料部研究員)
日時：2009 年 5 月 30 日 (土)
会場：北海道大学総合博物館

「田んぼの生物多様性パラタクソノミスト養成講座 (初級・中級)」
第 77 回パラタクソノミスト養成講座 ()
講師：岩淵 成紀 (NPO 法人田んぼ)
島野 智之 (宮城教育大学・准教授)
日時：2009 年 6 月 13 日 (土)
会場：宮城県大崎市大貫地区公民館 (大崎市田尻大貫字境 36-1) 【変更】

「ハエ目昆虫パラタクソノミスト養成講座 (中級)」
第 78 回パラタクソノミスト養成講座 (昆虫)
講師：館 卓司 (北海道大学総合博物館・資料部研究員)
日時：2009 年 6 月 20 日 (土) ~6 月 21 日 (日)
会場：北海道大学総合博物館

「スゲ属植物パラタクソノミスト養成講座 (中級)」
第 79 回パラタクソノミスト養成講座 (植物)
講師：勝山 輝男 (神奈川県立生命の星・地球博物館・学芸員)
日時：2009 年 6 月 27 日 (土) ~6 月 28 日 (日)
会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座 (初級)」
第 80 回パラタクソノミスト養成講座 (植物)
講師：加藤 ゆき恵 (北海道大学農学院)
高橋 英樹 (北海道大学総合博物館・教授)
日時：2009 年 7 月 4 日 (土) ~7 月 5 日 (日)
会場：北海道大学総合博物館

「イネ科植物パラタクソノミスト養成講座 (中級)」
第 81 回パラタクソノミスト養成講座 (植物)

講師：木場 英久（桜美林大学・准教授）

日時：2009年7月12日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「魚類パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第82回パラタクソノミスト養成講座（魚類）

講師：河合 俊郎（北海道大学総合博物館・助教）

矢部 衛（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）

今村 央（北海道大学大学院水産科学研究院・准教授）

日時：2009年8月5日（水）～8月6日（木）

会場：北海道大学函館キャンパス・水産科学館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座 in 帯広（Jr.・初級）」

第83回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）

講師：伊藤 彩子（帯広百年記念館・学芸員）

大原 昌宏（北海道大学総合博物館・准教授）

館 卓司（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2009年8月6日（木）～8月7日（金）

会場：帯広百年記念館

「水草パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第84回パラタクソノミスト養成講座（植物）

講師：山崎 真実（札幌市博物館活動センター・学芸員）

日時：2009年8月22日（土）～8月23日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）」

第85回パラタクソノミスト養成講座（きのこ）

講師：小林 孝人（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2009年9月19日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「岩石・鉱物パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第86回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）

講師：在田 一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）

日時：2009年9月26日（土）～9月27日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「第5回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）野外採集会」

第87回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）

講師：松枝 大治（北海道大学総合博物館・教授）

三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）

日時：2009年10月10日（土）～10月11日（日）

会場：北海道北東部（夕張市、上士幌町（勢多鉱床）、置戸町、生田原町、紋別市

（鴻之舞金山、士別市ほか）

「コケ植物パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第88回パラタクソノミスト養成講座（植物）

講師：内田 晓友（斜里町立知床博物館・学芸員）

日時：2009年11月7日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「石器パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第89回パラタクソノミスト養成講座（石器）

講師：高倉 純（北海道大学埋蔵文化財調査室・助教）

日時：2009年11月14日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第90回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）

講師：在田 一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2009年11月21日（土）～11月22日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「土器パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第91回パラタクソノミスト養成講座（土器）

講師：小野 裕子（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2009年11月29日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第92回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）
日時：2009年12月5日（土）～12月6日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「DNA実験パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第93回パラタクソノミスト養成講座（DNA実験）
講師：小林 憲生（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
館 卓司（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2009年12月5日（土）～12月6日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「化石パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第94回パラタクソノミスト養成講座（化石）
講師：小林 快次（北海道大学総合博物館・准教授）
日時：2009年12月12日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第95回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：松枝 大治（北海道大学総合博物館・教授）
鳥本 准司（北海道大学総合博物館・研究生）
日時：2009年12月12日（土）～12月13日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第96回パラタクソノミスト養成講座（木製品）
講師：守屋 豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）
佐野 雄三（北海道大学大学院農学研究院・助教）
渡邊 陽子（北海道大学大学院農学研究院・研究員）
日時：2010年1月23日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第97回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：大原 昌宏（北海道大学総合博物館・准教授）

澤田 義弘（大阪府箕面公園昆虫館・学芸員）
日時：2010年1月30日（土）～1月31日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第98回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：三浦 裕行（北海道大学大学院理学研究院・教授）
日時：2010年2月6日（土）～2月7日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第99回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：松枝 大治（北海道大学総合博物館・教授）
高橋 亮平（九州大学大学院工学院・研究員）
日時：2010年2月13日（土）～2月14日（日）
会場：北海道大学総合博物館

4. カルチャーナイト

2008年 7月25日
2009年 7月17日

5. ボランティア活動

- ・13グループ、165名登録（2009年12月1日現在）
学術標本資料整理、展示解説、ポップラチェンバロ演奏会、4Dシアターなど
- ・ボランティア講座&交流会（年2回夏と冬開催）
2008年度：2008年6月1日、2009年3月22日
2009年度：2009年6月14日、2010年2月14日

6. 博物館まつり

市民向けの博物館研究部・資料部による教育・研究活動報告、ボランティアによる活動報告、シンポジウム、標本特別展示など（年1回3月開催）

VII. 各種協定締結状況(2009年度まで)

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館 (2000年8月1日より)
2. アメリカ・アラスカ大学博物館 (2005年10月21日より)
3. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館 (2009年11月18日より)
4. フランス・ストラスブール動物学博物館 (2009年11月20日より)

VIII. 刊行物等(平成20(2008)~21(2009)年度)

- Bulletin of the Hokkaido University Museum (北大総合博物館研究報告) :
『Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and Sakhalin vol. 3. Bulletin No. 5』(2009年12月).
- マテリアル・レポート :
『秋山茂雄「極東亜産スグ属植物」図版標本目録 Material Report No. 6』(2009年3月).
- 展示図録 :
『ライマンと北海道の 地質—北からの日本地質学の夜明け—』(2008年8月)、『カレル・チャペック 1890-1938 その生涯と時代』(2008年10月)、『teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料—受けつぐ技—』(2009年2月)、『疋田豊治ガラス乾板写真展』(2009年10月)、『マキシモヴィッチ・長之助・宮部』(2010年3月).
- パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ :
『1. 昆虫 (初級) 採集・標本作製編』(2009年3月)、『2. きのこ (初級・中級) ハラタケ目編』(2009年8月)、『3. DNA (初級) 編』(2009年12月)、『4. 植物 (初級) 採集・標本作製編』(2010年2月).
- 北大エコキャンパス読本 :
植物編改定版2刷 (2009年3月)、考古学編 (2009年3月)、植物園編 (2010年2月).
- 北海道大学総合博物館ニュース :
17号 (2008年7月)、18号 (2008年12月)、19号 (2009年5月)、20号 (2009年11月).

第2部 博物館教員の活動記録

高橋英樹

TAKAHASHI Hideki

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 樺太・千島地域産維管束植物の分類地理学的研究

種の学名は国際的に通用する名前と思われているが、現実には国との違いにより異なる学名が使われることがある。このような混乱を整理するため北東ユーラシアの植物相、特に樺太・千島地域から収集された植物標本の精査を行い、植物リストの作成や学名の整理を行っている (Barkalov & Takahashi 2009; Takahashi 2009)。

2. 北海道産希少植物の分類学・保全生物学的研究

北海道の希少植物や絶滅危惧植物のリストは整理されつつあるが、分類学的な問題が解決されていないものや保全生物学的な情報が不足している種類も多い。北海道において保全上重要な希少植物 (レブンアツモリソウなど) についての野外調査を行い、分類学的・生態学的検討を行っている (高橋 2009; 杉浦ら 2009)。

3. 北海道における地域フロラの解明

函館市周辺、礼文島、知床半島、厚岸町大黒島など北海道各地の地域植物相調査を行い、証拠となる押し葉標本を作成している。また知床半島地域、礼文島の標本データベースを作成中である。

4. 収蔵標本の整理・分類学研究・分類学史への貢献

北大総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) の整理を進め、北方地域における植物分類学研究の基礎作りとして、タイプステータスの確定や調査研究史の解明を行うことで、標本の学術価値を高めようとしている (高橋・村上 2009)。

5. 花粉形態や花の進化の体系学的・進化的意義

ツツジ科における花粉形態を電子顕微鏡レベルで解明し、分類システムとの整合性を検討したり (Sarwar et al. 2008; Sarwar & Takahashi 2009)、ツクバネソウ属の花形成過程を電子顕微鏡レベルで解明し、その進化的意義を解明した (Narita & Takahashi 2008)。

○2008年・2009年の研究・活動業績

＜原著論文＞

1. Narita, M. and H. Takahashi. (2008) : A comparative study of shoot and floral

- development in *Paris tetraphylla* and *P. verticillata* (Trilliaceae). Pl. Syst. Evol. 272: 67–78. 【5年 IF 値 1.783】
2. Golam Sarwar, A. K. M., Ito, T. and H. Takahashi. (2008): An overview of pollen morphology in subfamily Arbutoideae (Ericaceae), and its systematic significance. Jpn. J. Palynol. 54: 79–92.
 3. 高橋英樹・村上麻季. (2009): テシオコザクラのレクトタイプ. 植物研究雑誌 84: 117–120.
 4. 高橋英樹. (2009): 日本産アツモリソウ属 *Cypripedium* (ラン科) の地理分布パターン. 分類 10: 143–157.
 5. Golam Sarwar, A. K. M. and H. Takahashi. (2009): Pollen morphology and systematics in two subfamilies of Ericaceae; Cassiopoideae and Harrimanelloideae. Bangladesh J. Plant Taxon. 16(1): 37–46. 【IF 値 0.341】
 6. Barkalov, V. Y. and H. Takahashi. (2009): Subfamily Monotropoideae (Ericaceae) in the Russian Far East: taxonomy and distribution. Bot. Zhur. 94: 877–884.
 7. 杉浦直人・高橋英樹・河原孝行・郷原匡史. (2009) : レブンアツモリソウ保護区に生育するカラフトアツモリソウの訪花昆虫相. 保全生態学研究 14: 203–209.
 8. Takahashi, H. (2009): Geographical distribution patterns of the Apiaceae in Sakhalin and the Kuril Islands. In Takahashi, H. & Ohara, M. (eds.): Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and Sakhalin 3: 1–34. The Hokkaido University Museum, Sapporo.
 9. Miwa, H., Odrzykoski, I. J., Matsui, A., Hasegawa, M., Akiyama, H., Jia, Y., Sabirov, R., Takahashi, H., Boufford, D. E. and N. Murakami (2009) Adaptive evolution on *rbcL* in *Conocephalum* (Hepaticae, bryophytes). Gene 441: 169–175. 【5年 IF 値 2.610】

＜著書・図録・目録等＞

1. 高橋英樹・与那霸モト子・高橋美智子・加藤ゆき恵・村上英樹. (2008) :『原松次植物標本コレクション目録』(北大総合博物館マテリアルレポート 5), 148pp. 北海道大学総合博物館, 札幌.
2. 増田道夫・沢田健・高橋英樹 (分担執筆). (2008) : 古生代における陸上植物の進化.『地球と生命の進化学 新自然史科学 I』, pp. 93-113. 北海道大学出版会, 札幌.
3. 加藤ゆき恵・高橋英樹. (2009) :『秋山茂雄「極東亜産スゲ属植物」図版標本目録』(北大総合博物館マテリアルレポート 6), 122pp. 北海道大学総合博物館,

札幌.

4. 小林孝人・高橋英樹 (編). (2009) :『パラタクソノミスト養成講座 きのこ (初級・中級) ハラタケ目編』 (パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 2), 24 pp. 北海道大学教育 GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館, 札幌.
5. 高橋英樹・露崎史朗・笛賀一郎・齊藤貴之 (編). (2009) :『改訂版 2 刷 北大エコキャンパス読本—植物編 付鳥類リストー』, 52 pp. 北海道大学教育 GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館, 札幌.

＜総説・解説・報告等＞

1. 高橋英樹. (2008) : サンクトペテルブルグの日本産エンレイソウコジマエソレイソウ標本. 北方山草 25: 57-64.
2. 高橋英樹. (2009) : 北海道東部の“カラフトアツモリソウ *Cypripedium calceolus*”とされていた植物はドウトウアツモリソウ *C. shanxiense* である. 北方山草 26: 9-12.
3. 高橋英樹. (2009) : 北海道産ラン科アツモリソウ属植物の分類と保全. 植物地理・分類研究 57: 61-68.

＜学会活動＞

日本植物分類学会評議員 (平成 20~21 年度)・絶滅危惧植物移入植物専門第一委員会委員 (平成 20~21 年度)・学会誌 (英文・和文) 編集委員 (平成 20~21 年度)

日本花粉学会評議員 (平成 20 年度)・編集委員 (平成 20 年度)

日本科学者会議北海道支部常任幹事 (平成 20~21 年度)

「すげの会」評議委員

Thaiszia, Journal of Botany (Advisory Editorial Board).

＜学会発表等＞

1. Takahashi, H. (2008): Conservation of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense* in Rebun Island, Hokkaido, Japan. Abstract Issue of International Symposium of Japan Society of Plant Systematists “Diversity and conservation of east Asian plants” (Sapporo), 2 Aug., 2008.
2. Takahashi, H. (2008): The natural history of *Cypripedium macranthos* Sw. forma *rebunense* (Miyabe et Kudo) Ohwi. Abstract Issue of the 4th International Symposium on Diversity and Conservation of Asian Orchids (Tsukuba), 14 Dec., 2008.
3. 高橋英樹. (2009) :「北海道産アツモリソウ属植物の分類と保全」. 植物地理・

分類学会 2009 年度大会招待講演. 富山市科学博物館. 2009 年 5 月 30 日.

4. 高橋英樹. (2009) : 「植物分類学からみる花粉形態学」. 日本花粉学会第 50 回大会シンポジウム. 京都府立大学. 2009 年 10 月 18 日.

<一般講演・セミナー発表>

1. 高橋英樹. (2008) : 「日本のアツモリソウ属：特に北海道とその周辺地域の種類について」. 北大総合博物館第 20 回公開シンポジウム「北東アジアの植物多様性：被子植物の分類・地理」. 北大総合博物館. 2008 年 1 月 13 日.
2. 高橋英樹. (2008) : 「北海道の花たちの道のり」. 第 4 回植物園シンポジウム「北の大地の植物をまもる」(日本植物園協会・日本植物分類学会主催). 札幌. 2008 年 8 月 3 日.
3. 高橋英樹・湯浅万紀子. (2009) : 「北大総合博物館における学生教育の展開」. 北海道大学教育 GP シンポジウム. 北大総合博物館. 2009 年 1 月 20 日.
4. 高橋英樹. (2009) : 「アツモリソウ+マキシモヴィッチ展」. 北方山草会講演会. 札幌. 2009 年 3 月 21 日.
5. 高橋英樹. (2009) : 「レッドデータブックと希少植物」. 自然保護大学（北海道自然保護協会主催）. 札幌. 2009 年 3 月 22 日.
6. 高橋英樹. (2009) : 「日本産ラン科アツモリソウ属植物の多様性と保全—特にレブンアツモリソウについて」. 信州大学理学部自然環境診断マイスター養成審査委員会主催公開講演会. 信州大学. 2009 年 5 月 9 日.
7. 高橋英樹. (2009) : 「札幌農学校～北大における植物分類学の系譜」. 北大総合博物館「生物多様な部屋」展示関連講演会. 北大総合博物館. 2009 年 8 月 1 日.
8. 高橋英樹. (2009) : 「花の日露交流史—幕末の箱館山を見た男」. 北大総合博物館土曜市民セミナー. 北大総合博物館. 2009 年 8 月 8 日.

<教育活動>

- ・農学部 生物資源科学科担当：平成 20 年度（卒論学生 1 名）、平成 21 年度（卒論学生 0 名）.
- ・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成 20 年度（修士 1 名、博士 4 名）、平成 21 年度（修士 0 名、博士 4 名）.
- ・授業等：

全学教育【一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」（担当）、一般教育演習「北大エコキャンパスの自然—植物学入門」（平成 21 年度より開講、担当）、総合科目「生物の多様性」（分担）、総合科目「今、大学博物館が面白い—物にこだわる科学」（分担）、総合科目「北大総合博物館で学ぼう—ヒグマ学入門」（分担）、

総合科目「大学博物館講座－北大自然史研究の系譜」(平成 21 年度より開講、担当)】

農学部【「植物分類・生態学」(分担)、「生物資源科学演習」(分担)、「生物資源科学科卒業論文」(分担)】

博物館【学芸員実習(分担)】

農学院【「植物体系学特論」(分担)、「農学院環境資源学演習 I、II」(分担)、「農学院環境資源学研究 I、II」(分担)】

環境科学院・新自然史 COE【「多様性生物学基礎論」(分担)】

大学院共通授業【「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」(担当)】

北海道教育大学教育学部函館校【集中講義「生命環境多様性論 I」(20,21 年度)】

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員 (1999. 10-現在)

企画展示専門委員会委員 (1999. 10-現在)

モデルバーン等の一般公開に関する専門委員会委員

学術標本検討専門委員会委員 (1999. 10-現在)

総合博物館点検評価委員会委員

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座 イネ科植物 (中級) (開催担当 : 2008、2009 年度各 1 回)

パラタクソノミスト養成講座 スゲ植物 (中級) (開催担当 : 2009 年度 1 回)

パラタクソノミスト養成講座 植物 (初級) (開催担当・分担 : 2008、2009 年度各 1 回)

パラタクソノミスト養成講座 きのこ (初級) (開催担当 : 2008、2009 年度各 1 回)

パラタクソノミスト養成講座 コケ植物 (初級) (開催担当 : 2008、2009 年度各 1 回)

パラタクソノミスト養成講座 水草 (初級・中級) (開催担当 : 2008、2009 年度各 1 回)

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会 (野外観察会) (開催担当・分担 : 2008、2009 年度各 1 回)

総合博物館ボランティア講座・研修会「キャンパスの植物めぐり」(2009 年度)

総合博物館植物ボランティア講習会 (2008、2009 年度各 1 回)

アイヌ文化講習会・「植物纖維の話し」(2009. 11. 27)

市民セミナー等

北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座 : 「北大植物標本庫 SAPS」(2009 年 7 月 4

日、札幌)

総合博物館市民セミナー「企画展示『花の日露交流史－箱館山を見た男』」(2009年8月8日、札幌)

博物館企画展示

「生物多様な部屋－北大の分類学の系譜」(平成21年8月1日～9月27日) (植物部分分担)

「花の日露交流史－幕末の箱館山を見た男」(平成22年3月14日～5月9日) (責任担当)

<学内各種委員>

キャンパスマスタートップラン・エコキャンパスWG (2004.4-現在)

キャンパスマスタートップラン・生態環境WG (2008.4-現在)

キャンパスマスタートップラン・歴史的資産活用WG (2008.4-現在)

埋蔵文化財運営委員会 (2009.3-現在)

北大学生サークルYHクラブ顧問教官(2001-現在)

<社会貢献>

北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会委員(2002-現在)

北海道都市計画審議会環境影響評価小委員会委員(2003-現在)

北海道文化財保護審議会委員(2004-現在)

北海道外来種対策検討委員会委員(2006-現在)

希少野生動植物種保存推進員(環境省(序))(2000-現在)

知床世界自然遺産地域科学委員会委員(2004-2009)

環境省野生生物保護対策検討会検討員(2005-現在)

環境省「第3次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」委員(2009-)

希少野生動植物種保存推進員(環境大臣任命)

北海道開発局「石狩川水系河川水辺の国勢調査アドバイザー」(2007-2008)

鉄道・運輸機構「北海道新幹線環境影響事後調査アドバイザー」(2008.4-現在)

国際自然保護連合日本植物専門家グループ委員 IUCN Japanese Plants Specialist Group member(2001-現在)

<外部資金>

科学研究費等研究費

二国間交流事業ロシア(RFBR)との共同研究(学術振興会)：(代表 中村行人)(2006-2008)

基盤研究(C)：「カヤツリグサ科スゲ属植物の分子系統解析と分類学的再検討」

(代表 星野卓二) (2007-2008)

基盤研究 (C) :「分子系統に基づくスグ属植物の生物地理学的研究 (代表 星野卓二)」(2009-2010)

基盤研究 (B) :「南千島における絶滅危惧種・外来生物種の現状調査 (代表 高橋英樹)」(2009-2012)

教育 GP 関連

質の高い大学教育推進プログラム (文部科学省大学改革推進等補助金) :「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進 (事業推進責任者 高橋英樹)」(2008-2010)

受託研究費

受託研究 :「レブンアツモリソウをモデルとした特定国内希少野生動植物種に関する研究 (代表 : 河原孝行)」【環境省地球環境 (公害防止等試験研究 2004-2008)】

受託研究 :「レブンアツモリソウをモデルとした人を含む在来生態系と共生できる絶滅危惧種自生地の復元技術の研究 (代表 : 河原孝行)」【環境省地球環境 (公害防止等試験研究 2009-2013)】

<海外調査>

1. 米国、ワシントンシアトル (標本調査)

「ワシントン大学標本庫における植物標本調査」(アメリカ)【高橋 : 2008 年 2 月 4 日-9 日】

2. 中国、通化・北京 (植物野外調査、標本採集)

「中国におけるアツモリソウ属植物生態調査」(中国)【高橋 : 2008 年 7 月 2 日-9 日】

3. ロシア、サンクトペテルブルグ (標本調査)

「ロシアコマロフ植物学研究所標本庫における植物標本調査」(ロシア)【高橋 : 2009 年 2 月 14 日-20 日】

大原昌宏

ÔHARA Masahiro

資料基礎研究系 准教授

○研究内容の概要

1. アジア熱帯における生物の分断と分散—獣糞にすむ動物群集の生物地理学的研究—

アジア熱帯における過去数千年間に、人が生物分布に与えた影響について、人とともに分布を広げた家畜牛の糞に生息する節足動物（ダニ・昆虫）に着目し、人と牛糞内節足動物群集のかかわりを生物地理学的に解明することを目的とした。

アジア熱帯の家畜牛および野生牛の糞に生息する節足動物を調査し、その群集内における種・個体群の地理的分布がヒト・家畜の分布拡大様式と一致する程度を、形態分類学的および分子系統学的手法を用いて解析した。

これらの結果から、島間距離、島サイズなどの関係が「分断・分散・時間スケール（地史から人為搅乱まで）」として相互作用し、島ごとの群集の種構成形成に影響をおよぼしていることが示唆された。

2. 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ（昆虫綱、鞘翅目）の分類学・生物地理学的研究

日本から千島、樺太にかけて、エンマムシ科（Histeridae）と陸生のガムシ科（Hydrophilidae）について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。

3. タイプ標本データベース作成

昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。平成20年3月末の時点で、3465件のタイプ標本データが入力されている。

○2008年・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Ôhara, M. and Hartini, S. (2008): Notes on the subfamily Saprininae (Coleoptera: Histeridae) of Indonesia. *Insecta matsumurana*, new series, 64: 1-22.
2. Ôhara, M. (2008): Notes on the genus *Teretrius* Erichson, 1834 (Coleoptera: Histeridae) from Taiwan. *Spec. Publ. Japan Coleopt. Soc.*,

Osaka, (2): 83-99.

3. Ôhara, M. (2008): New record of *Cercyon* (*Cercyon*) *verus* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, 36 (1): 42.
4. Ôhara, M. (2008): New records on the species of the genus *Platysoma* (Coleoptera: Histeridae) from the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 36 (1): 225-226.
5. Ôhara, M. (2008): New records of the supralittoral species of the genus *Cercyon* (Coleoptera, Hydrophilidae) from the peripheral Islands off Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, 36 (2): 343-348.
6. Ôhara, M. and Otsubo, H. (2008): New record of *Platysoma rasile* (Coleoptera, Histeridae) from the Tokuno-shima Island, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 36 (2): 360.
7. Kon, M., Ochi, T., Ôhara, M., Ueda, A., and Hartini, S. (2008): A new record of *Oniticellus cinctus* (Coleoptera, Scarabaeidae) from Borneo. *Elytra*, Tokyo, 36 (2): 290.
8. Ôhara, M. (2009): New records of *Atholus coelestis* (Coleoptera: Histeridae) from Okinawa-jima and Kuro-shima, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 37 (1): 46.
9. Ôhara, M. and Fukuzawa, T. (2009): A second specimen of *Merohister uenoi* (Coleoptera: Histeridae). *Elytra*, Tokyo, 37 (1): 75.
10. Ôhara, M. and Fujiwara, J. (2009): New distributional record of *Cercyon* (*Cercyon*) *numerosus* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Oki Islands off northwestern Honshu, Japan. *Elytra*, Tokyo, 37 (1): 141-142.
11. Mazur, S. and Ôhara, M. (2009): Notes on the genus *Eblisia* Lewis, 1889 in relation to *Platysomatini*, with description of four new genera (Coleoptera: Histeridae). *Studies and reports of Distinct Museum Prague-East. Taxonomic Series*, 5 (1-2): 233-248.
12. Ôhara, M. and Kawakami, Y. (2009): New distributional record of *Cercyon* (*Cercyon*) *aptus* (Coleoptera: Hydrophilidae) from the Islands of Iriomote-jima, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 37 (2): 359-360.

<著書・図録・目録等>

1. 大原昌宏・前川光司・矢部衛. (2008): 第4章: 古生代前期における魚類の進化、陸上生態系の出現と初期進化. 69-91. 沢田健・綿貫豊・西弘嗣・柄内新・馬渡俊輔(編著)『地球と生命の進化論、新・自然史科学I』, 北海道大学. 272 pp. (分担執筆).

2. 大原昌宏. (2008): 第4章-コラム: 節足動物が陸生化するために克服したもの. 88-90. 沢田健・綿貫豊・西弘嗣・柄内新・馬渡俊輔 (編著) 『地球と生命の進化、新・自然史科学I』, 北海道大学. 272 pp. (分担執筆).
3. 大原昌宏. (2008): 第1編 序論、第1章 昆虫の系統分類と進化. 10-22 pp. 下澤楯夫・針山孝彦 (監修) 『昆虫ミメティックス ~昆虫の設計に学ぶ~』, NTS. 949 pp. (分担執筆).
4. 大原昌宏・澤田義弘. (2009): パラタクソノミスト養成講座「昆虫 (初級) 採集・標本作製編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 1. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 16 pp.

＜総説・解説・報告等＞

1. 大原昌宏. (2008): 虫の赤ちゃん「エンマムシの赤ちゃん」. 文部科学時報、1585: 85.
2. 大原昌宏. (2008): シリーズ虫と石3「ウシシルアイヌキンオサムシ」. リテラポプリ、32: 16.
3. 大原昌宏. (2008): シリーズ虫と石4「オオイチモンジ」. リテラポプリ, 33: 16.
4. 大原昌宏、岡崎克則、高橋興世、古沢仁、吉原秀喜、小川巖. (2008): 学芸員座談会「博物館のこれから」. モーリー, 18: 18-29.
5. 大原昌宏. (2008): 本物の価値を伝える北海道最古の現役博物館、北海道大学植物園内「博物館」. モーリー, 18: 48-49.
6. 大原昌宏. (2009): シリーズ虫と石5「ツシマヘリビロトゲトゲ」. リテラポプリ, 35: 16.
7. 大原昌宏. (2009): シリーズ虫と石6「マボロシオオバッタ」. リテラポプリ, 36: 16.
8. 大原昌宏. (2009): シリーズ虫と石7「ヤマハマベエンマムシ」. リテラポプリ, 37: 16.
9. 大原昌宏. (2009): シリーズ虫と石8「エゾケシガムシ」. リテラポプリ, 38: 16.
10. 大原昌宏. (2009): 海岸線の昆虫. モーリー, 20: 15-17.

＜編集＞

1. [編集] 北海道大学総合博物館研究紀要3号: Takahashi, H. and Ohara, M. 2006. (eds.) *Biodiversity and Biogeography of the Kuril Island and Sakhalin*, 2. 174 pp.
2. [編集] 小林孝人・高橋英樹、2009. パラタクソノミスト養成講座「きのこ (初級・中級) ハラタケ編、付: ハラタケ目アセタケ科の分類 (上級)」. パラタ

- クソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 2. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 24 pp.
3. [編集] 北海道大学総合博物館研究紀要5号: Takahashi, H. and Ôhara, M. 2009. (eds.) *Biodiversity and Biogeography of the Kuril Island and Sakhalin*, 3. 81 pp.

＜学会活動＞

日本昆虫学会: 会計幹事 (平成20年度)、評議員 (平成20～21年度)、自然保護委員会委員 (平成20～21年度、平成21年度委員長)、将来検討委員会委員 (平成21年度)、日本産昆虫カタログ編纂委員会委員 (平成20～21年度)、電子化推進委員会委員 (平成20年度)

日本鞘翅学会: 編集幹事 (平成20～21年度)

日本甲蟲學會: 編集委員 (平成20～21年度)

＜学会発表等＞

1. Ôhara, M. and S. Hartini. (2008): Survey of histerid beetles found on cattle dung in Indonesia. Symposium "Biogeographical studies of the fauna in Southeast Asia: Taxonomy and geographical patterns of arthropods in Southeast Asia, with a focus on arthropods on dung". Hokkaido University Museum, Sapporo, Japan, 12, Feb. 2008 [Oral].
2. 大原昌宏. (2008): 準自然分類学者 (パラタクソノミスト) 養成講座の実施と成果. 北海道大学サスティナビリティ・ウイーク2008シンポジウム「新・自然史科学創成: 自然界における多様性の起源と進化 Neo-Science of Natural History: Origin and Evolution of Natural Diversity」[北海道大学総合博物館]. 2008年6月27日.
3. 石田祐也・小林快次・湯浅万紀子・大原昌宏・小俣友輝・内田智子・有馬理恵. (2009): 「来館者アンケートから読み取る企画展の傾向と特性」第4回博物科学会 [鹿児島大学]. 2009年5月21日.

＜一般講演・セミナー発表＞

1. 大原昌宏. (2008): 「昆虫は自然の先生だ」-いろいろな昆虫を区別しよう-. 帯広市百年記念館・大山緑地と若葉の森を愛する会・講演会 [帯広市百年記念館オーディオトリアム]. 2008年8月10日. [招待講演].
2. 大原昌宏. (2008): 「百虫百色 甲虫の世界」札幌市博物館活動センター・夜間講座 [札幌市博物館活動センター]. 2008年12月18日. [招待講演].
3. 大原昌宏. (2009): 「昆虫ワールドへようこそ」北海道新聞社・北海道新聞

- 野生生物基金主催：環境出前講座・講演会[函館市神山小学校]. 2009年2月3日. [招待講演].
4. 大原昌宏. (2009)：「昆虫の分類と進化 多様な昆虫たちのたどってきた道」. 第53回環境・自然を考える会・講演会[札幌市環境プラザ]. 2009年2月8日. [招待講演].
5. Ôhara, M. (2009): General education of taxonomy: Training courses for parataxonomists promoted by Hokkaido University. Conservation and management of biodiversity in Northeastern Asia. [National Institute of Biological Resources, Korea]. 2009. Feb. 12. [invitation].
6. 大原昌宏. (2009): 「昆虫ワールドへようこそ 一天壳の昆虫を調べよう」 北海道新聞社・北海道新聞野生生物基金主催：環境出前講座・講演会[天壳町小中学分校]. 2009年7月21日. [招待講演].
7. 大原昌宏. (2009): 「道東の昆虫から世界が見える」 釧路市立博物館企画展示「飯島一雄コレクション展一昆虫とともに80年一」 記念講演会 [釧路市立博物館]. 2009年7月25日. [招待講演].
8. 大原昌宏. (2009): 「北海道大学における昆虫学の系譜」 北大分類学の系譜 [北海道大学総合博物館・知の交流]. 2009年8月1日. [招待講演].
9. 大原昌宏. (2009): 「生物分類学の裾野を広げる一パラタクソノミスト養成講座の実践」 日本昆虫学会[三重大学] 2009年10月12日. [招待講演].

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- 農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成20年度（修士論文指導副査2名）、平成21年度（修士論文指導主査1名、博士論文指導主査（2009年1名）
- 理学院：平成20年度（修士論文指導副査1名）
- 地球環境科学研究科：平成21年度（博士論文指導副査1名）

指導学生・授業等：

- 教育（各学年の学部・研究科指導学生数）
2008年 学部0名、研究科3名（修士1名、博士2名）（農学研究科、兼任）
2009年 学部0名、研究科4名（修士1名、博士3名）（農学研究科、兼任）
- 授業等：
全学教育 複合科目「今、大学博物館が面白い」（分担）（2008, 2009）
全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）（2008, 2009）
全学教育 複合科目「ヒグマ学」（分担）（2008, 2009）
全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」（分担）（2008, 2009）

全学教育 複合科目「昆虫科学のすすめ」（分担）（2008, 2009）
21世紀COE「新自然史科学創成」大学院特別コース「新自然史科学特別講義1」
(分担) (2008, 2009)
大学院地球環境科学 「新自然史科学特別講義2」（分担）（2008, 2009）
大学院農学研究科 「生物体系学特論」（分担）（2008, 2009）
大学院共通科目授業 「博物館学特別講義（学術標本・資料学）」（分担）（2008,
2009）
博物館学芸員実習指導（2008, 2009）

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員（1999.10-現在）、総合博物館点検評価委員会委員
(1999.10-現在)、学術標本検討専門委員会委員（1999.10-現在）、企画展示専門
委員会委員（1999.10-現在）、ミュージアムショップ運営委員(2003.4-現在)

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座 昆虫（初級）（2008年1回；2009年2回）
パラタクソノミスト養成講座 甲虫（中級）（2008年1回；2009年1回）
北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（2008, 2009）

シンポジウム開催（企画、運営）：

「カレル・チャペック＝シンポジウム」：2008年10月25日（土）総合博物館
「エンマムシの分類と系統」講演会：2008年12月17日（水）総合博物館

博物館企画展示

企画展示名：「カレル・チャペック その生涯と時代 没後70周年展」2008年（担当）
会場：北海道大学総合博物館 3階企画展示室、期間：2008年10月25日（土）
から12月25日（木）

＜学内各種委員＞

生態環境ワーキンググループ委員（平成20～21年度）

＜社会貢献＞

環境省絶滅のおそれのある野生動植物の選定・評価検討会、昆虫分科会 検討員（平
成20～21年度）、北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会 委員（平成20年
度）、北海道新聞野生生物基金 評議員（平成20～21年度）、北海道新聞野生生物基
金 「モーリー」編集委員（平成20～21年度）

<外部資金>

【分担】多田内修（代表：九州大学）：JST受託研究「甲虫と訪花性昆虫類を対象としたデータベースの構築」平成20年度-継続

【分担】伊藤元己（代表：東京大学）：科学研究費「証拠標本データベース(VSPECIMENS)」(2007-) 平成19年度-継続

今村 央

IMAMURA Hisashi

資料基礎研究系 准教授 (2008年度末を以て転出)

○研究内容の概要

1. カサゴ目の系統分類学的研究

カサゴ目魚類の系統分類学的研究は、1980年代後半から継続的に行っている研究である。カサゴ目の系統関係については、従来から一貫してカサゴ目の独立した科と考えられてきたダンゴオコゼ科、および18科59属86種の他のカサゴ目魚類の骨格系と筋肉系に見られる形態形質を詳細に観察し、これらを合わせて系統類縁関係の解析を行った。

2. ワニギス亜目の系統分類学的研究

2000年頃より、ワニギス亜目の系統分類学的研究に着手し、研究を進めている。ワニギス亜目とは、その単系統性と亜目内の科間の類縁関係がよく分かっていないなど、極めて分類学的問題の多い一群である。

3. 北方系魚類の分類学的研究

北方系魚類のうち、特にクサウオ科とゲンゲ科魚類の分類学的研究を進めている。

○2008・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Anderson, M. E. and H. Imamura. 2008. Two new gymneline eelpouts (Perciformes: Zoarcidae) from Hokkaido, Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci. Ser. A, Suppl., 2: 59-67.
2. Imamura, H. and G. Shinohara. 2008. A new species of *Cocotropus* (Teleostei: Aploactinidae), from the Ryukyu Islands, southern Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci. Ser. A, Suppl., 2: 21-24.
3. Ishii, N. and H. Imamura. 2008. Phylogeny of the family Congiopodidae (Perciformes: Scorpaeoidea), with a proposal of new classification. Ichthyol. Res., 55: 148-161.
4. Imamura, H. 2008. Synonymy of two species of the genus *Platycephalus* and validity of *Platycephalus westraliae* (Teleoitei: Platycephalidae). Ichthyol. Res., 55: 399-406.
5. Ikeda, S., H. Imamura and K. Nakaya. 2008. Redescription of two eelpouts, *Lycodes microporus* Toyoshima 1983 and *Lycodes ocellatus* Toyoshima 1985 (Perciformes: Zoarcidae). Ichthyol. Res., 55: 356-366.
6. Imamura, H. and M. McGrouther. 2008. New records of a flathead fish,

Onigocia grandisquama (Regan, 1908) (Teleostei: Platycephalidae) from Australia. Mem. Queensland Mus., 52: 239-243.

<学会活動>

日本魚類学会編集委員

日本動物分類学会会員

American Society of Ichthyologists and Herpetologists (米国) 会員

<教育活動>

学位論文 (博士) : 副査 H18年度1件、H19年度1件、H20年度3件

水産科学研究科担当 : 修士論文指導補助 (H16年度6名、H17年度5名、H18年度10名、H19年度9名、H20年度6名) ; 博士論文指導補助 (H16年度7名、H17年度9名、H18年度5名、H19年度7名、H20年度6名)

水産学部担当 : 卒業論文指導補助 (H17年度1名、H18年度1名、H19年度1名、H20年度1名)

講義等 (学内) :

博物館 : [博物館学芸員実習 (分担)]

水産学部 : [海洋生物学実験 (分担) 、臨海実習 (分担) 、H19年度 H20年度基礎水产学実験 (分担) 、海洋生物科学基礎実験 (分担)]

全学教育 : [総合科目(分担)、一般教育演習 (分担)]

<博物館活動>

総合博物館運営委員会委員

学術標本検討委員会委員

企画展示専門委員

水産科学館専門委員

博物館企画展示担当 (H19年度 : 「水産科学館に蓄積された水産学部100年の歴史」)

魚類標本分類整理・収蔵保管とデータベース作製 等

<外部資金>

・平成 18~20 年度 (分担 [20 年度は連携研究者]) : 基盤研究 C (一般) 「魚類における臀鰭棘の多様性と機能進化に関する研究 (代表者 : 篠原現人)」 3,500,000 円

<海外調査>

標本調査

1. オーストラリア博物館（シドニー）・クイーンズランド博物館（クイーンズラ
ンド）・ヴィクトリア博物館（メルボルン）【今村：平成 20 年度】
2. 国立生物資源館（インチョン）【今村：平成 20 年度】

阿部剛史

ABE Tsuyoshi

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究

分子系統学的手法を用い、形態並びに化学成分にも着目し、広義ソゾ属 (*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Osmundea*) の系統関係の解明のための研究を進めている。

北海道とサハリンの材料をもとに、寄生紅藻モリモトソゾマクラの含ハロゲン化合物に関する研究を進めている。

鉄欠培養条件下におけるウラソゾのシデロフォア活性に関する予備実験を行った。

2. 北方コンブ類の系統分類学的研究

サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。

3. 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究

上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。当該年度においては北海道知床半島の海藻相に関する調査を主に実施した。

○2008・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Yotsukura, N., Kawashima, S., Kawai, T., Abe, T., & Druehl, L. D. 2008. A systematic re-examination of four *Laminaria* species: *L. japonica*, *L. religiosa*, *L. ochotensis* and *L. diabolica*. *The Journal of Japanese Botany* 83(3): 165-176.
2. Vairappan, C. S., Suzuki, M., Ishii, T., Okino, T., Abe, T. & Masuda, M. 2008. Antibacterial activity of halogenated sesquiterpenes from Malaysian *Laurencia* spp. *Phytochemistry* 69: 2490-2494. (5年IF値 3.335)
3. Suzuki, M., Takahashi, Y., Nakano, S., Abe, T., Masuda, M., Ohnishi, T., Noya, Y. and Seki, K. 2009. An experimental approach to study the biosynthesis of brominated metabolites by the red algal genus *Laurencia*. *Phytochemistry* 70: 1410-1415. (5年IF値 3.335)

＜総説・解説・報告等＞

1. 阿部剛史, 小亀一弘, 野別貴博. 2008. 知床半島沿岸域における浅海域の生物相 2. 海藻相. 平成19年度知床半島沿岸における浅海域生物相調査業務報告書, 15-22.
2. 阿部剛史, 小亀一弘, 野別貴博. 2009. 知床半島沿岸域における浅海域の生物相 ii. 海藻相. 平成20(2008)年度知床半島沿岸における浅海域生物相調査業務報告書, 15-25.

＜学会活動＞

国際藻類学会

日本藻類学会(会計幹事 2009-)

日本植物学会北海道支部(幹事 1999-)

北海道海洋生物科学的研究会(幹事 2007-)

＜学会発表等＞

1. Vairappan, C. S., Ishii, T., Suzuki, M. and Abe, T. 2009. New chemical races in red alga *Laurencia nipponica* Yamada (Rhodomelaceae, Ceramiales). *Phycologia* **48**(4 suppl.): 49. 国際会議講演要旨

＜一般講演・セミナー発表＞

1. 阿部剛史. (2009): 「知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査（浅海域・海藻）について」内海域環境教育研究センターセミナー[神戸大学]. 2009年1月23日. [招待講演].
2. Abe, T. (2009): How to identify *Laurencia*. Resource Person. JSPS-NRCT Workshop on Taxonomy of Seaweeds and Seagrasses. [Kasetsart University, Thailand] 2009. Aug. 12-20. [invitation].

＜教育活動＞

教育(各年度の学部・研究科指導学生数)：なし

学位論文主査・副査歴：なし

・授業等：

全学教育【自然科学実験「生物」(分担)、英語演習「中級：英語で学ぶ生物学」(平成21年度より開講、分担)、総合科目「今、大学博物館が面白い—物にこだわる科学」(分担)、総合科目「北大総合博物館で学ぼう—自然と人間」(分担)】

理学部【「多様性生物学」(分担)、「生物多様性概論Ⅰ」(分担)、「植物系統分類学実習」(分担)、「臨海実習Ⅱ」(分担)、「海洋生態学実習」(分担)】

博物館【学芸員実習（分担）】
理学院【「分類学概論（命名法）」（分担）、「多様性生物学特論Ⅱ」（分担）、「生物科学方法論」（分担）】
大学院共通授業【「博物館学特別講義Ⅰ（学術標本・資料学）」（分担）】

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

学術標本検討専門委員会委員

博物館企画展示

「生物多様な部屋—北大の分類学の系譜」（平成21年8月1日～9月27日）（分担）

<社会貢献>

The 9th International Phycological Congress 2009 [National Olympics Memorial Youth Center, Tokyo, Japan] 2009. Aug. 2-8. (Staff).

<海外調査>

海藻野外調査、標本採集

1. ボリナオ（フィリピン）2008年1月27日－2月5日

河合俊郎

KAWAI Toshiro

資料基礎研究系 助教(2009年4月より現職)

○研究内容の概要

1. ホウボウ科およびキホウボウ科魚類の系統分類学的研究

ホウボウ科およびキホウボウ科の系統関係および分類学的な問題の解決のために形態・分子の両面から研究を行っている。

2. ニューカレドニア海域のカレイ目魚類の分類学的研究

ニューカレドニア周辺に生息するカレイ類の分類学的研究を行っている。

3. 北海道の魚類相に関する研究

北海道周辺に生息する魚類相の解明を目的として魚類の分類学的研究を行っている。

○2008年・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Kawai, T. and Takata, Y. (2009) *Satyrichthys rugosus*, a junior synonym of *Satyrichthys clavilapis* (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae). *Species Diversity*, 査読有, 14: 89–96.
2. 高田陽子・河合俊郎・松原 創・鈴木淳志 (2009) オホーツク海からのサザナミフグ *Arothron hispidus* の初めての記録. *日本生物地理学会会報*, 査読有, 63: 13–19.

<著書・図録・目録等>

1. 河合俊郎 (2009) 魚類分類学と写真. 正田豊治ガラス乾板写真展—北海道大学総合博物館開館10周年記念企画展示図録, P70–71.

<学会活動>

日本魚類学会会員

日本動物分類学会編集委員 (2010年～)

日本生物地理学会会員

American Society of Ichthyologists and Herpetologists (米国) 会員

＜学会発表等＞

1. Takata, Y., Kawai, T. and Satoh, T. P. (2009) Interrelationships of the family Peristediidae based on the mitochondrial DNA sequences. 8th Indo Pacific Fish Conference and 2009 ASFB Workshop & Conference. A 364.

2009年日本魚類学会年会：口頭1件、ポスター1件

＜一般講演・セミナー発表＞

北海道大学総合博物館開館10周年記念企画展示 生物多様な部屋—北大の分類学の系譜—、関連講演会「北大の分類学の系譜」(H21.8.1)：北大の魚類学の系譜

＜教育活動＞

学位論文（博士）：副査 2件

水産科学院担当：修士論文指導補助8名；博士論文指導補助5名

水産学部担当：卒業論文指導1名

講義等（学内）：

博物館：[博物館学芸員実習（分担）]

水産学部：[海洋生物学実験（分担）、臨海実習（分担）、基礎水産学実験（分担）、海洋生物科学基礎実験（分担）]

全学教育：[総合科目（分担）、一般教育演習（分担）]

＜博物館活動＞

水産科学館運営委員会委員

学術標本検討専門委員会

魚類標本分類整理・収蔵保管とデータベース作製 等

＜社会貢献＞

ICZN. Marine Fish Red List Assessments for the SRLI (Sampled Red List Index).
Family Triglidae. 評価者

＜外部資金＞

平成20年度財団法人昭和聖徳記念財団学術研究助成「キホウボウ科魚類の系統地
理学的研究」（研究代表者：河合俊郎）

＜海外調査＞

1. H22.1.15～24 タイ、サムプラカン（魚類標本調査）

松枝大治

MATSUEDA Hiroharu

資料開発研究系 教授

○研究内容の概要

1. 島弧一大陸縁辺部における金属鉱化作用とその成因解明

マグマ活動の活発な島弧一大陸縁辺部では、それに伴う熱水活動と金属鉱化作用が著しい。具体的にはフィールドとして極東ロシア、カムチャッカ半島およびインドネシア、ジャワ島を選定し、表記研究課題に基づいて現地調査とサンプリングを行うと共に各種の室内実験を実施した。その結果、多くの興味深い結果が得られたので、関係学協会において発表及び印刷公表した。それらの成果は高く評価され、ベスト論文賞受賞等にも至っている。(松枝・三浦, 2008; Takahashi, et al., 2008 など)

2. 热水・变成流体の特性と起源、及び重金属移動過程の解明に関する地球化学的研究

地殻における物質移動と地質現象の重要な担い手である热水について、湯沼、鉱石、变成岩、及び活地熱地帯などを対象に化学分析、流体包有物、安定同位対比等の観点から実験・検討を加え、新知見を得た。(松枝ほか、2008; Takahashi et al., 2008 など)

3. 热水条件下で成長した鉱物の組織とその成長制御要因の解明

地殻における热水を介した元素移動は、浅所での複雑な地質過程と物理科学的条件の変化により、結晶の成長という表現形で元素固定が成される。そのプロセスは結晶成長組織の形で保存されるため、その組織の解析が热水特性・変化を詳細に明らかにする期待が大きいことから、特に浅热水性鉱脈型金鉱床を研究対象として選び詳細に検討した。(Takahashi et al., 2008; Okada, S. & Matsueda, H., 2009 など)

4. 热水変質作用の研究

元素移動に深く関わった热水は、その通路にある母岩において特徴的な変質帯を形成する。従って、母岩の热水変質作用の詳細な野外観察と各種室内実験に基づいて、それぞれの変質帯における活動热水の温度、pH 条件、酸化度、元素移動などの各種情報を得た。それらの成果を関係学術雑誌等に印刷公表するとともに、学会主催の地質見学会の引率案内等を通じて広く公表した。(松枝ほか、2008 & 2009; Matsueda et al., 2009 など)

5. 博物館試料を用いた鉱物学的・鉱床学的研究および教育

総合博物館所蔵の多岐にわたる各種鉱石・鉱物標本の整理とデータベース化を進める共に、それらを主要な研究対象として鉱物学的・鉱床学的記載や分類学的研究を継続実施した。(Hamdy et al., 2008 & 2009; 松枝ほか、2008 など)

○2008年・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Hamdy M. A., H. Matsueda, M. A. Obeid and R. Takahashi (2008): Chemistry of cassiterite in rare metal granitoids and the associated rocks in the Eastern Desert, Egypt. *Jour. Mineral. Petrog. Sciences*, Vol. 103, P318-326. (IF 値 0.796)
2. Takahashi, R., Muller, A., Matsueda, H., Okruign, V. M., Ono, S., Van den Kerkhof, A., Kronz, A.. and Andreeva, E. D.(2008): Cathodoluminescence and trace elements in quartz: clues to metal precipitation mechanisms at the Asachinscoe gold deposit in Kamchatka. *Proceedings of International Symposium “The Origin and Evolution of Natural Diversity”*, 175-184. (元客員教授との共同研究)
3. Takahashi, R., Watanabe, K., Imai, A., Matsueda, H. and Okrugin, V. M. (2008): Genesis and formation of ore deposits in Kamchatka peninsula, Far Eastern Russia. In K. Matsui, K. Jinno, R. Itoi and K. Sasaki (eds.) *Proceedings of International Symposium on Earth Science and Technology 2008*, p.253-260. (元客員教授との共同研究)
4. Hamdy M. A., Helba, H. and Matsueda, H. (2009): Chemistry of zircon in rare metal granitoids and associated rocks, Eastern Desert, Egypt. *Resource Geology*, Vol.59, No.1, 51-68. (IF 値 0.699)
5. Noku, S. K., Matsueda, H., Akasaka, M. and Espi, J. O. (2009): The Laloki massive sulfide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Geology, mineralogy and geochemistry. In Williams, P. J. *et al.* (eds.) *Smart Science for Exploration and Mining. 10th Biennial SGA Meeting, Spec Vol. 2; 17–20 Aug 2009, Townsville, Australia*. Springer, Berlin, 731–733.
6. Noku, S. K. and H. Matsueda (2009): The Laloki massive sulphide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Major and trace elements of the massive sulphide ores. *Mineral Resources Authority of Papua New Guinea*, 13p.

<著書・図録・目録等>

1. 松枝大治・三浦裕行(2008)：島弧一大陸縁のマグマ-熱水系における金属鉱化作用——地殻浅所における元素の移動・濃集作用。沢田 健 他編 新・自然史科学II 地球の変動と生物変化。北海道大学出版会、p. 37–65. (分担執筆)
2. 「ライマンと北海道の地質展」実行委員会・松枝大治 編(2008)：北海道大学総

合博物館第 57 回企画展示「ライマンと北海道の地質 ー北からの日本地質学の夜明け」、72P.

3. G8 洞爺湖サミット関連企画展示実行委員会・松枝大治 編(2008) : 2008 年 G8 洞爺湖サミット関連北海道大学総合博物館企画展示ガイドブック「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」、31P.
4. 松枝大治 ほか(2008) : 教育 GP 2008 年度パラタクソノミスト養成講座 第 4 回岩石・鉱物野外採集会(道央)ガイドブック、47P.
5. 松枝大治・八幡正弘・小野修司(2008) : 西南北海道の中新世熱水活動と金属鉱化作用. 2008 年度資源地質学会秋期講習会資料、57P.
6. 松枝大治 (2009) : 西南北海道における新第三紀熱水活動と金鉱化作用. 日本鉱物科学会巡検ガイドブック、62P.
7. 松枝大治 他(2009) : 教育 GP 2009 年度パラタクソノミスト養成講座 第 5 回岩石・鉱物野外採集会(道東)ガイドブック、110 P.

＜総説・解説・報告等＞

(短報)

1. 松枝大治・田口幸洋・鳥本准司(2008) : 南極産グラファイトに関する研究. 平成 16 年度国立極地研究所共同研究報告書, P42-45.
2. 松枝大治 (2008) : シリーズ 虫と石③「変わった形の水晶」, リテラポプリ, 32 号, P17.
3. 松枝大治 (2008) : シリーズ 虫と石④「方解石」, リテラポプリ, 33 号, P17.
4. 松枝大治・星野祐子編(2008) : 博物館ニュース 17 号
5. 松枝大治・星野祐子編(2008) : 博物館ニュース 18 号
6. 松枝大治 (2009) : シリーズ 虫と石⑤「方解石の仲間」, リテラポプリ, 35 号, P17.
7. 松枝大治 (2009) : シリーズ 虫と石⑥「ガーネット 柑榴石 (その一) パイラルスパイクト」, リテラポプリ, 36 号, P17.
8. 松枝大治 (2009) : シリーズ 虫と石⑦「ガーネット 柑榴石 (その二) ウグランダイト」, リテラポプリ, 37 号, P17.
9. 松枝大治 (2009) : シリーズ 虫と石⑧「トパーズ (黄玉)」, リテラポプリ, 38 号, P17.

(報告書)

1. 新エネルギー開発機構(NED) (2008) : H19 年度標津町エネルギー利用報告書
2. 吉田武義ほか(2008) : NEDO 委託事業「新環境基準に対応した水質汚濁リスク評価基本図の作成」(東北大・吉田武義)成果報告書、75P(資料 35P)
3. 新エネルギー開発機構(NED) (2009) : H20 年度標津町エネルギー利用報告書

＜学会活動＞

所属学会

資源地質学会、日本鉱物学会、岩石鉱物鉱床学会、日本地質学会、同北海道支部長(支部長)、Society of Economic Geology(米国)、日本博物科学会

役職等

資源地質学会 (Resource Geology(洋雑誌)および資源地質(和雑誌)) 編集委員
(1997年～現在)

資源地質学会秋季講習会講師兼巡検リーダー(2008年)

国際鉱物学連合(IMA)「新鉱物及び鉱物名に関する委員会」国内委員(1978年～現在)

鉱物科学会 Journal of Mineralogical and Petrological Science (JMPS)編集委員(2002年～現在)

日本鉱物科学会 2009年度年会組織委員会委員(2008年～2009年)

日本鉱物科学会巡検リーダー(2009年)

日本地質学会南極委員会委員(1983年～2009年)

日本博物科学会会則検討WG委員長(2007年～2008年)

日本博物科学会設立準備委員会委員(2008年～2009年)

日本博物科学会監事(2009年～現在)

＜学会発表等＞

(国際学会・国際シンポジウム等)

1. Takahashi, R., Tachi, T., Ohara, M., Matsueda, H., Mawatari, S. F., Yoshida, T., Takahashi, H., Kobayashi, Y. and Gautam, P. (2008): Examination of relationship between biodiversity and geochemical distribution in Daikoku Island, Hokkaido. In Abstracts, 33rd International Geological Conference (CD-ROM), August-2008, Oslo, Norway.
2. Takahashi, R., Muller, A., Van den Kerkhof, A., Kronz, A. A., Okrugin, V. M. Matsueda, H. (2008): Application of cathodoluminescence and trace element analysis of quartz for understanding ore forming process of the Asachinskoe epithermal gold deposit. In Abstract, 33rd International Geological Conference (CD-ROM), August-2008, Oslo, Norway.
3. Takahashi, R., Watanabe, K., Imai, A., Okrugin, V. M., Matsueda, H. and Ono, S. (2008): Metallogenesis of hydrothermal deposits in Kamchatka based on formation age and sulfur isotopic composition. In RPS M2inT Symposium Abstract Volume and Fieldguide Book, p. 45-47, October-2008, Quezon city,

Philippines.

4. Takahashi, R., Watanabe, K., Imai, A., Matsueda, H. and Okrugin, V. M. (2008): Genesis and formation of ore deposits in Kamchatka peninsula, Far Eastern Russia. In K. Matsui, K. Jinno, R. Itoi and K. Sasaki (eds.) Proceedings of International Symposium on Earth Science and Technology 2008, p. 253-260, December-2008, Fukuoka, Japan. (Best Paper Award)
5. Andreeva E. D., Matsueda, H., Okrugin V. M., Zubarev V. V. (2009): Epithermal ore textural features of central part Abdrahimovsky ore field (Central Kamchatka). The extended abstracts of the Symposium: «Planet Earth: relevant question of the geology by junior researcher and students», Moscow, MGU, April, P. 3-7.
6. Noku, S. K., Matsueda, H., Akasaka, M. and Espi, J. O. (2009). The Laloki massive sulfide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Geology, mineralogy and geochemistry. 10th Biennial SGA Meeting Special Volume 2, 17-20 Aug 2009, Townsville, Australia. Springer, Berlin, 731-733.
7. Matsueda, H., Michimasa, K., Torimoto, J., Ishihara, S. and Anh, T. T. (2009): Sphalerite composition of Pb-Zn ores in North Vietnam: a preliminary note. (S09) Abstract Issue of International Symposium on “Geology and Mineral Resources of Vietnam and Surrounding Region” of Annual Meeting of the Society of Resource Geology, P25.
8. Okrugin V. M., Gamaynin G. N., Goryachev N. A., Savva N. E., Andreeva E. D., Kim A. U., Shishkanova K. O., Matsueda H., Ono S., Takahashi R. Watanabe K., Imai A. (2009): Genesis of gold-silver deposits in Far East of Russia and Japan. All-Russian Symposium: “Volcanism and Geodynamics”. (Petropavlovsk-Kamchatsky city, 11th-27th September, P. 790.
(その他の国際会議・シンポジウム)

2008年：

1. 第28回南極地学国際シンポジウム(国立極地研究所) ポスター(1件) (タイトル省略)

2009年：

博物館国際シンポジウム(北大総合博物館) “Metallic Mineralization Related to the Hydrothermal Activity in the Island-Arc Environment of West Circum Pacific Region” 口頭(5件) (内1件：客員教授・留学生との共同研究、1件：留学生との共同研究)

1. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Ono, S., Watanabe, K., Imai, A. and Andreeva, E. D. (2009): Underground resources of Kamchatka and

tectonic implication in the western Pacific. International Symposium on “Metallic Mineralization Related to the hydrothermal Activity in the Island-arc Environment of West Circum Pacific Region. p. 3, February 2009, Sapporo, Japan.

2. Matsueda, H., Nakamura, N., Yui, S. and Akamatsu, K. (2009): Acid sulfate alteration and related gold mineralization at Otaru-Akaiwa, southwestern Hokkaido, Japan. International Symposium on “Metallic Mineralization Related to the hydrothermal Activity in the Island-arc Environment of West Circum Pacific Region. P. 6-9, February 2009, Sapporo, Japan.
3. Michimasa, K. and Matsueda, H. (2009): Time-spatial distribution and formation condition of metallic mineralization at the western part of the Izumo and the Iwami veins of Toyoha deposits, Hokkaido, Japan. International Symposium on “Metallic Mineralization Related to the hydrothermal Activity in the Island-arc Environment of West Circum Pacific Region. P. 10-11, February 2009, Sapporo, Japan..
4. Okada, S. and Matsueda, H. (2009): Gold mineralization based on the quartz texture and fluid inclusion studies at the Seisen and the Eisen veins of Yamada deposit of the Hishikari mine, Kagoshima Prefecture, Japan. International Symposium on “Metallic Mineralization Related to the hydrothermal Activity in the Island-arc Environment of West Circum Pacific Region. P. 12-13, February 2009, Sapporo, Japan.
5. Noku, S., Matsueda, H. and Akasaka, M. (2009): The Laloki massive sulfide strata-bound deposit, Papua New Guinea: Geology, mineralogy and geochemistry. International Symposium on “Metallic Mineralization Related to the hydrothermal Activity in the Island-arc Environment of West Circum Pacific Region. P. 31-34, February 2009, Sapporo, Japan.

(国内学協会等)

2008年 :

1. 資源地質学会年会発表 口頭2件(内1件:客員教授との共同研究)、ポスター2件(タイトル省略)

2009年 :

1. 資源地質学会年会発表 口頭2件(内1件は前出国際シンポジウム、1件は客員教授との共同研究)、ポスター4件(内1件:客員教授・留学生との共同研究、2件:留学生との共同研究) (タイトル省略)
2. 日本鉱物科学会(北大) ポスター2件 (タイトル省略)

(その他)

2008年：

1. 産業技術総合研究所(つくば)：「ロシア、カムチャッカ半島南部における熱水性金属鉱化作用の概要 一特に貴金属ベースメタル鉱化作用」平成19年度基盤研究(A)研究成果発表会 H20.3.6 (客員教授との共同研究)
2. 21世紀COE新・自然史科学創成・若手研究プロジェクト成果報告会：閉鎖系における生物多様性と地球化学図の検討。要旨集、p.35-38.
3. インドネシア、Padjadjaran大学及びアネカタンバン(ANTAN)国営鉱山会社特別講演：「Genesis of Polymetallic Mineralization at the Toyoha Deposits, Hokkaido, Japan」 and 「Formation Process and Environment of Epithermal Gold-Silver Deposit of Koryu Mine, Hokkaido, Japan」 H20.7.9 & H20.7.17
4. 2008年度資源地質学会秋季講習会：「南西北海道小樽市赤岩の酸性変質帶と金鉱化作用」 H20.10.3 (於：道立地質研究所(小樽))

2009年：

1. 産業技術総合研究所(つくば)：「ロシア、カムチャッカ半島南部における多金属含In鉱化作用と金銀鉱化作用」平成20年度基盤研究(A)研究成果発表会 H21.3.3 (客員教授との共同研究)
2. 北大インドネシア留学生研究発表会：口頭1件【Economic minerals of volcanic and magmatic origin in Indonesia : study case gold -basemetal mineralization of Arinem area, Western Java. - February 11, 2009, the 7th Hokkaido Indonesian Student Association Scientific Meeting (HISAS 7)】

<一般講演・セミナー発表>

1. 総合博物館市民特別セミナー（黒曜岩子供セミナー）「黒曜岩のはなし」 H20.11.15
2. 小樽市博物館市民セミナー(小樽市総合博物館)招待講演：「小樽赤岩周辺の地質鉱物と金鉱床」 H21.3.22
3. 札幌ミネラルショー(サンプラザ・ホテル)招待講演：「鉱物の色と形の多様性」 H21.7.18
4. 道新ぶんぶんクラブ(北大総合博物館)：「岩石鉱物が語りかけてくれるもの」 H21.8.1
5. 教育GPパラタクソノミスト講座野外採集会(北見)：「黒曜石(岩)とは」 H21.10.10

<教育活動>

担当科目

学部専門科目

地球惑星システム科学概論(2006年度より「地球惑星科学入門Ⅰ」)(分担)

地球惑星科学実習(分担)

鉱床学

鉱床学実験(地球惑星科学実験Ⅲ)

資源地質科学演習(2008年度より新規)

卒業研究(2006年度より「地球惑星科学研究」)Ⅰ、Ⅱ

論文購読(2006年度より「地球惑星科学文献購読」)Ⅰ、Ⅱ

大学院科目

資源地質科学特論

特別研究(2006年度より「自然史科学特別研究」)Ⅰ、Ⅱ(修士)、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ(博士)

論文購読(2006年度より「自然史科学論文購読」)Ⅰ、Ⅱ(修士)、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ(博士)

大学院共通授業科目

21世紀COE大学院特別講義「新・自然史科学Ⅱ」(2008年度より地球惑星システム科学概論に名称変更)(分担)

博物館学特別講義(学術標本・資料学)(分担)

博物館主催科目

全学教育

総合科目「今、大学博物館が面白い！一物にこだわる科学ー」(分担)

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！一自然と人間」(分担)

学部・大学院教育

博物館学芸員実習(分担)

非常勤講師等

2008年2月 筑波大学理学部集中講義(鉱床成因論)

2008年9月 国際資源大学校講義(接触交代鉱床の成因と生成環境)・巡検案内

2009年5月 福岡大学大学院理学研究科集中講義(熱水条件下での鉱物の成長組織)

(各年度の学部・研究科指導学生数)

2008年度 卒論1名、修士2名、博士4名、資料部研究員1名

2009年度 卒論2名、修士3名、博士3名、GCOE研究員1名、資料部研究員1名、研究生1名

学位論文(博士)主査・副査歴

2008年度 主査1名、副査1名

2009年度 主査1名、副査0名

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

研究部長（2007年～2008年）

総合博物館運営委員会委員（1999年～）

企画展示専門委員会委員（1999年～）

モデルバーン等の一般公開に関する専門委員会委員（2008年～）

学術標本検討専門委員会委員（1999年～）

総合博物館点検評価委員会委員（1999年～）

ミュージアムショップ会議委員（2006年～）

博物館教育

教育GP パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物初級・中級、鉱石中級・

上級、黒曜石子供セミナー、野外採集会）（2008年～2010年）

教育GP パラタクソノミスト養成特別講座（岩石・鉱物）野外採集会（2008年～
2010年）

市民セミナー（企画担当）

土曜市民セミナー、21世紀COEセミナー、グローバルCOEセミナー

博物館企画展示・常設展示等（担当）

（2008年度）

企画展示：地質の日展示「ライマンと北海道の地質」（4月～5月）、洞爺湖サミット記念展示「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」（6月～8月）、「南極写真展：剥き出しの地球－南極大陸」（10月～11月）、「建物展」（11月14日～30日）

（2009年度）

常設展示関連、「アイランド・アーク」部分改修

企画展示：地質の日展示「支笏湖火山と私たちの暮らし」、サテライト展示（支笏湖ビジャーセンター、札幌市情報センター、札幌市中央図書館、小樽市総合博物館、黒松内ブナセンター）、グローバルCOE展示（第Ⅰ期「ユーラシア国境の旅」、第Ⅱ期「知られざる北の国境」）

＜学内各種委員＞

埋蔵文化財検討委員会委員（2007年～2009年）

北方圏生物科学センター運営委員会委員（2008年～2009年）

＜社会貢献＞

日本学術振興会各種審査委員

金属鉱業事業団鉱物資源アドバイザー(1995年～)
国立極地研究所共同研究員(地学)(1983年～)
国立極地研究所共同研究員(地学, 南極隕石)(1983年～)
小樽市総合博物館運営協議会委員(2007年～)
北海道博物館協会理事(2009年)
NEDO 委託事業「新環境基準に対応した水質汚濁リスク評価基本図の作成」(東北大・吉田武義)運営委員会員(2005年～2008年)
環境省土壤環境モニタリングプラン推進調査検討会委員(2005年～2008年)
標津町エネルギー利用検討委員会委員長(2006年～2009年)
通商産業省産業技術総合研究所客員研究員(2007年～)
札幌市分化芸術進行審議会意見聴取委員(2007年～2008年)

＜外部資金＞

科学研究費等研究費

基盤研究(A)海外：重希土類元素及びインジウムの濃集機構と資源ポテンシャルの評価(代表 渡辺 寧、分担者) (2007～2010年度)
日本鉱業振興協会研究助成金：環オホツク島弧のマグマ-熱水系と金属鉱化作用、及びレアメタル資源ポテンシャルティー評価に関する研究(代表 松枝大治) (2008～2010年度)

COE 関連

2009～2013 年度グローバル COE「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」研究推進員(コア・メンバー)

奨学寄附金

2008年度 資源地質学会(日本鉱業振興会) (2件)
2009年度 資源地質学会(日本鉱業振興会) (2件)

その他

＜海外調査＞

1. インドネシア、ジャワ島(地質鉱床調査・試料採集)
「インドネシア、ジャワ島中央部熱水性金一ベースメタル鉱床調査及び試料採集」(インドネシア)【松枝：2008年7月7日～7月18日】
2. ロシア、カムチャツカ半島(鉱床・熱水調査・試料採集)
「ロシア、カムチャツカ半島における金属鉱床及び熱水調査」(ロシア)【松枝：2009年8月21日～9月4日】科学研究費基盤(A)海外
3. インドネシア、スンバワ島・ジャワ島(地質鉱床調査・試料採集)
「インドネシアにおける地下資源開発状況及び国境問題に関する現地視察と情

報収集」（インドネシア）【松枝：2009年10月15—26日】グローバルCOE

天野哲也

AMANO Tetsuya

資料開発研究系 教授

○研究内容の概要

北海道アイヌ・サハリンアイヌ・ウイルタ・ニヴフなどの諸民族形成の動因となった、古代-中世期における交易圏拡大の実態の解明に、考古学・形質人類学・遺伝学・文献史学の研究者と共同で取り組んだ。

具体的には、オホーツク集団の進出・地域改発が引き起こした他集団の緊張関係と、それの緩和策を、土器などの文化遺物の情報解析（物資流通経路・範囲）とともに、動物遺存体（クマ送り儀礼など）やオホーツク人骨標本の形態（労働特性・栄養状態）・DNA分析（婚姻関係）によって推定できた。

○2008年・2009年の研究・活動業績

＜原著論文＞

1. A. Komesu, T. Hanihara, T. Amano, H. Ono, M. Yoneda, Y. Dodo, T. Fukumine, H. Ishida (2008): Nonmetric cranial variation in human skeletal remains associated with Okhotsk culture Anthropological Science, 116(1), pp.33-47
2. 天野哲也(2008)：「オホーツク集団と縄繩文集団の交流」『中世日本列島北部～サハリンにおける民族の形成過程の解明－市場経済圏拡大の観点から－』 pp. 20-23
3. 三辻利一・小野裕子・天野哲也(2008)：「オホーツク文化の集団間・対外交流の研究－1. 礼文島香深井1遺跡出土陶質土器の蛍光X線分析－」『北海道大学総合博物館研究報告』4、pp. 139-152
4. H. MATSUMURA, H. ISHIDA, T. AMANO, H. ONO, M. YONEDA (2009): Biological affinities of Okhotsk-culture people with East Siberians and Arctic people based on dental characteristics. ANTHROPOLOGICAL SCIENCE Vol. advpub(0), 1-12
5. T. Sato・T. Amano・H. Ono・H. Ishida・H. Kodera・H. Matsumura・M. Yoneda・R. Masuda (2009): Mitochondrial DNA haplogrouping of the Okhotsk people based on analysis of ancient DNA: an intermediate of gene flow from the continental Sakhalin people to the Ainu Anthropological Science Vol.117(3),171-180 9

6. 天野哲也(2009)：「有孔・溶融土器」米村衛編『史跡最寄貝塚』pp. 337-341

＜著書・図録・目録等＞

1. 天野哲也 (2008) : 「ユーラシアを結ぶヒグマの文化ベルト」林良博、森祐司、秋篠宮文仁、池谷和信、奥野卓司編『ヒトと動物の関係学』第4巻「野生と環境」pp. 45-68 岩波書店
2. 天野哲也 (2008) : 『古代の海洋民オホーツク人の世界—アイヌ文化をさかのぼる—』 (単著) 雄山閣
3. 天野哲也 (2008) 「考古学からみたアイヌ民族史」榎森進・小口雅史・澤登寛聰編『エミシ・エゾ・アイヌ アイヌ文化の文化の成立と変容—交易と交流を中心として』上 pp. 29-54 岩田書院
4. 小野裕子・天野哲也 2008 「オホーツク文化の形成と展開に関わる集団の文化的系統について」榎森進・小口雅史・澤登寛聰編『エミシ・エゾ・アイヌ アイヌ文化の文化の成立と変容—交易と交流を中心として』上 pp. 139-192 岩田書院
5. 小野裕子・天野哲也 (2009) : 「アイヌ化と領域—北奥アイヌ文化の形成過程を考える—」天野哲也・池田榮史・臼杵勲編『中世東アジアの周縁世界』pp. 283-300 同成社
6. 天野哲也 2009 「サクシュコトニ河畔の暮らし」、「サケ類とアイヌ民族の関わり」阿部周一編『サケ学入門』 pp. 185-202 北海道大学出版会
7. 天野哲也 2009 「ヒグマ観念の交流」天野哲也・池田榮史・臼杵勲編『中世東アジアの周縁世界』 pp. 204-207 同成社
8. 天野哲也 (2010) 「礼文島香深井1遺跡2号堅穴住人の行方—オホーツク文化前期・中期の開拓と挫折—」菊池俊彦編『北東アジアの歴史と文化』 pp. 287-295 北海道大学出版会

＜総説・解説・報告等＞

1. 天野哲也 (2008) : 「クマはなぜ畏敬の念を抱かれたか」Awe and Respect: A Human View of the Bear 日本ケルト学会大会-記念講演- 10月11日 北海学園大学
2. 天野哲也・小野裕子編(2009) : 『遺跡群から見た北大キャンパスと周辺域の歴史』北海道大学総合博物館

＜学会活動＞

たら研究会 (事務局広島大学) 地方委員

＜学会発表等＞

1. 「オホーツク文化とはなにか」北海道考古学会平成22年大会 研究報告 2010年4月14日

<教育活動>

理学院科学コミュニケーション講座、7名

<学位論文主査・副査歴>

平成21年度 佐藤丈寛（理学研究科）博士論文 *Studies on Genetic Features and Histories of Ancient Human Populations in Hokkaido, using Mitochondrial Autosomal DNA Analyses*（ミトコンドリアDNAおよび常染色体DNA分析による北海道古代人類集団の遺伝的特徴と歴史に関する研究）の副査

<博物館活動>

北大エコキャンパス観察会 2008年6月22日

<学内各種委員>

全学教育科目責任 2006年－2010年

<非常勤講師等>

2000-2009年度 札幌大学非常勤講師

<外部資金>

- ・「環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究」基盤研究(B) 海外学術調査 人文学A 東洋史 10101 05 3 3103 0002 (研究代表者) 平成19－平成23 (340万円/年)
- ・「律令国家の北限支配からみた、津軽海峡を挟む古代北方世界の実態的研究」小口雅史(法政大学・教授) 基盤研究(B) (研究分担者) 平成22－平成24 (60万円/年)

<海外調査>

1. ロシア・ウラル山地クマ送り調査 【天野：2008年7月3日－7月14日】

小林快次

KOBAYASHI Yoshitsugu

資料開発研究系 准教授(2008 年度まで助教)

○研究内容の概要

主に恐竜とワニを中心に、絶滅動物の進化や生態復元の研究を行っている。フィールドは世界に渡り、日本だけではなく、モンゴル、中国、アメリカ（特にアラスカ）、カナダといった環太平洋域で、発掘や研究を活発に行っている。研究成果のほとんどは、分野別世界ランキングに挙げられている国際誌に印刷されている（原著論文の表を参照）。国際誌を通して世界に情報発信され、学界にインパクトを与えていているのがわかる。

さらに、その成果は国内外の一般科学雑誌（ニュートンなど）や一般書（NHK 出版や学研など）で紹介され、行っている研究の注目度の高さが伺える。番組の監修（主に NHK）、関東近辺のイベント会場での大規模な恐竜展（幕張）や北大総合博物館での企画展を通じた一般普及活動も行っている。

研究の内容は、主に以下の 5 点ある。

1. 生態復元からみた、恐竜類から鳥類への進化

鳥類が中生代の恐竜類からどのようにして“鳥類化”したかが、現在の議論的になっている。内温性は、どこまでさかのぼれるのか？脳の作りはいつから“鳥類タイプ”になっていたのか？食性がどのように変化し、原始的な鳥類は生態系においてどの位置に立たされていたのか？など、化石から復元できる生態から、恐竜の“鳥類化”のプロセスを探っている。

2. アジア（モンゴルと中国）と北米（カナダ）における恐竜類の多様性

世界に恐竜王国は 6 カ国に渡る（中国、モンゴル、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、イギリス）。中国とモンゴルは、これまで多くの化石を産出しているが、現在も未開拓の地が多く、恐竜時代において恐竜の多様性がどの程度だったのかは不明な部分が多い。比較的研究が進んでいて、同時代で同じ古緯度のカナダ・アルバータ州の恐竜と比較することで、大陸間で恐竜の多様性の相違を追求している。

3. 北極圏での恐竜の多様性と適応能力

恐竜は、全大陸を支配した大型陸棲動物である。その分布域は、極圏にまで及ぶ。アラスカ州の恐竜研究を行い、当時の環境や生態系の復元、アジア-北米間においての恐竜の移動の時期と種類を解明、恐竜やその他の動物の内温性の有無といったことを追求している。

4. 爬虫類における子育ての進化

爬虫類は一般的に卵生であるが、何度も胎生を収斂進化させている。進化型の主

竜類（ワニ類、鳥類を含む恐竜類）は比較的複雑な卵の構造を持っており、胎生を行った形跡はないが、原始的なものには胎生のものもいた。また、鳥類に近い恐竜類は、雄が子育てをすることが知られているが、その特徴が爬虫類の進化の中でどこまでさかのぼれるのかは、未だ議論がある。原始的な主竜類を研究対象として、卵生・胎生や雌・雄の子育ての進化が、いつどのように起こったのかを追求している。

5. マレーガビアルとマチカネワニの関係から見られる、ワニの進化

1964年、大阪大学豊中キャンパス内から、全長6メートルを超す巨大ワニの化石が発見された。このワニは、現在のマレーガビアルの近縁種であることが、私の研究でわかっている。マレーガビアルは、ワニの現生種の系統関係を解く鍵であり、未だに議論が続いている。化石種を含むワニで最も近縁なものがマチカネワニであり、マチカネワニとマレーガビアルの研究によって、ワニ類の系統解析の研究が進むと考えられている。

○2008年・2009年の研究・活動業績

＜原著論文＞

2008年と2009年に出版したインパクトファクター(IF)付きの論文。IF値と分野別世界ランキングは2009年現在。IF値の高い順からリストしてある。

(ISI Web of Knowledge <http://admin-apps.webofknowledge.com/JCR/JCR?RQ=HOME> より。)

雑誌名	数	IF 値	分野別世界ランキング
Proceedings of Royal Society of London, Series B	1	4.857	生物学 Biology の 76 誌中 7 位 生態学 Ecology の 129 誌中 11 位 進化生物学 Evolutionary Biology の 45 誌中 8 位
Journal of Vertebrate Paleontology	1	2.346	古生物学 Paleontology の 48 誌中 8 位
Geological Magazine	1	2.059	地球科学 Geosciences, Multidisciplinary の 165 誌中 39 位
Acta Palaeontologica Polonica	1	1.949	古生物学 Paleontology の 48 誌中 11 位
Palaios	1	1.489	地学 Geology の 48 誌中 13 位 古生物学 Paleontology の 35 誌中 14 位

Cretaceous Research	1	1. 491	地学 Geology の 48 誌中 14 位 古生物学 Paleontology の 35 誌中 15 位
Acta Geologica Sinica	1	1. 408	地球科学 Geosciences, Multidisiplinary の 165 誌中 75 位
American Museum Novitates	1	1. 326	生物多様性保全 Biodiversity Conservation 29 誌中 11 位 動物学 Zoology 129 誌中 45 位

1. Kobayashi, Y. 2008. Phylogenetic position of Ornithomimosauria in Coelurosauria with comments on the relationship of ornithomimosaurs and alvarezsaurids. *Journal of Fossil Research* 41: 25-32.
2. Kaim A., Kobayashi, Y., Echizenya, H., Jenkins, R. G., and Tanabe, K. 2008. Chemosynthesis-based associations on Cretaceous plesiosaurid carcasses. *Acta Palaeontologica Polonica* 53: 97-104. **米科学誌のScientific American** (日本では日経サイエンス) に紹介される。
3. Lee, Y.-N., Lee, H.-J., Lü, J., and Kobayashi, Y. 2008. New pterosaur tracks from the Hasandong Formation (Lower Cretaceous) of Hadong County, South Korea. *Cretaceous Research* 29: 345-353. (客員教授との共同研究)
4. Zelenitsky, D. K., Therrien, F., and Kobayashi, Y. 2008. Olfactory acuity in theropods: palaeobiological and evolutionary implications. *Proceedings of Royal Society of London, Series B.* 276: 667-673. **Nature** 誌のNewsで取り上げられる。
5. Kubota, K. and Kobayashi, Y. 2009. Evolution of dentary diastema in iguanodontian dinosaurs. *Acta Geologica Sinica* 83: 39-45.
6. Eberth, D. A., Kobayashi, Y., Lee, Y. N., Mateus, O., Therrien, F., Zelenitsky, D. K., and Norell, M. A. 2009. Assignment of *Yamaceratops dorngobiensis* and associated redbeds at Shine Us Khudag (eastern Gobi, Dorngobi Province, Mongolia) to the redescribed Javkhlan Formation (Upper Cretaceous). *Journal of Vertebrate Paleontology* 29: 295-302.
7. Fiorillo, A., Hasiotis, S., and Kobayashi, Y. 2009. A pterosaur manus track from Denali National Park, Alaska Range, Alaska, USA. *Palaios* 24: 466-472.
8. Lü, J., Kobayashi, Y., Lee, Y., and Ji, Q. 2009. New material of dsungaripterid pterosaurs (Reptilia: Pterosauria) from western Mongolia and its paleoecological implications. *Geological Magazine* 146: 690-700. (客員教授との共同研究)

9. Balanoff, A. M., Xu, X., Kobayashi, Y., Matsufune, Y., and Norell, M. A. Cranial Osteology of the Theropod Dinosaur *Incisivosaurus gauthieri* (Theropoda: Oviraptorosauria). American Museum Novitates 3651: 1–35. (指導した卒業論文の出版)
10. 小林快次 (2009) 亀山市鈴鹿川河床の鮮新世ワニ化石. 亀山市鈴鹿川河床の鮮新世化石群発掘調査報告書, 亀山市歴史博物館, 53–54.

＜著書・図録・目録等＞

1. 小林快次・桂嘉志浩 (2008) 「マチカネワニ」、ニュートン、v. 26, n. 8, pp. 30–79.
2. 小林快次 (2008) 「最前線の研究現場から」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 6–11.
3. 小林快次 (2008) 「アラスカの恐竜」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 34–37.
4. 小林快次 (2008) 「テキサスの恐竜」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 42–45.
5. 小林快次 (2008) 「ニューメキシコ：絶滅」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 46–49.
6. 小林快次 (2008) 「サルコスaurusの誕生」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 60–63.
7. 小林快次 (2008) 「シノオルニトミムス」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 108–111.
8. 小林快次 (2008) 「スーパークロコダイル」、恐竜の復元、学習研究社、pp. 126–129.
9. 小林快次・柄内新 (2008) 「中生代における爬虫類の進化：爬虫類の起源から恐竜へ」、地球と生命の進化 新自然史科学I、北海道大学出版、pp. 143–160.
10. 小林快次・斎木健一 (2008) 「パレオントグラフィ トロオドン」, ニュートン, v. 28, n. 1, pp106–107.
11. 林 昭次・小林快次・斎木健一 (2008) 「パレオントグラフィ ウエルホサウルス」, ニュートン, v. 28, n. 2, pp110–111.
12. 小林快次・斎木健一 (2008) 「パレオントグラフィ エドモントニア」, ニュートン, v. 28, n. 3, pp108–109.
13. 小林快次 (2008) 「パレオントグラフィ メトリオリンクス」, ニュートン, v. 28, n. 9, pp120–121.
14. 小林快次監修 (2008) 「恐竜ハンター」、主婦の友社

15. 小林快次・平山廉・小田隆執筆監修 (2008) 「恐竜の復元」、学習研究社、198pp.
16. 小林快次・斎木健一(2009) 「パレオントグラフィ ヒロノムス」, ニュートン, v. 29, n. 2, pp104-105.
17. 小林快次・斎木健一(2009) 「パレオントグラフィ ディメトロドン」, ニュートン, v. 29, n. 3, pp114-115.
18. 小林快次執筆監修 (2009) 「恐竜検定 公式ガイドブック」、学習研究社、126pp.
19. 小林快次監修 (2009) 「恐竜発掘大作戦」、NHKエンタープライズ
20. 小林快次・江口太郎執筆「巨大絶滅動物マチカネワニ化石 恐竜時代を生き延びた日本のワニたち」、大阪大学出版、96pp.
21. 北海道大学総合博物館「生物多様性の部屋」(2009) (古生物関連執筆と監修)
22. 幕張メッセ「恐竜2009-砂漠の奇跡」展示図録 (2009) (執筆監修)

＜学会活動＞

Society of Vertebrate Paleontology
日本古生物学会

＜学会発表等＞

1. Takahashi, R., Tachi, T., Ohara, M., Matsueda, H., Mawatari, S. F., Yoshida, T., Takahashi, H., Kobayashi, Y., and Pitambar Gautam, P. 2008. 演題「Examination of relationship between biodiversity and geochemical distribution in Daikoku Island, Hokkaido」 33rd International Geological Congress (Oslo, Norway).
2. Kobayashi, Y., Lü, J., Lee, Y., Xu, L. and Zhang, X. 2008. 演題「A new basal ornithomimid (Dinosauria: Theropoda) from the Late Cretaceous in Henan Province of China」 68th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Ohio, USA).
3. Lü, J., Kobayashi, Y., Lee, Y., Xu, L. and Zhang, X. 2008. 演題「A new vertebrate assemblage from the Late Cretaceous of Luanchuan, Henan Province, China.」 68th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Ohio, USA).
4. Tanaka, K., Lü, J., Kobayashi, Y. and Zelenitsky, D. 2008. 演題「Statistical approaches to classify dinosaur eggs from the Heyuan Basin,

- northeastern Guandong Province, China.」68th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Ohio, USA).
5. Fiorillo, A., Hasiotis, S. and Kobayashi, Y. 2008. 演題「A Late Cretaceous high latitude, high diversity dinosaurian megatracksite from Denali National Park Alaska」68th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Ohio, USA).
 6. 小林快次、湯浅万紀子、阿部剛史、小俣友輝、内田智子 2008. 演題「クロス集計を使ったアンケート解析から見られる来館者の傾向」大学博物館等博物科学会（大阪大学）
 7. 石田祐也、小林快次、湯浅万紀子、大原昌宏、小俣友輝、内田智子、有馬理恵 2009. 演題「来館者アンケートから読み取る企画展の傾向と特性」大学博物館等博物科学会（鹿児島大学）.
 8. 平山廉、菌田哲平、佐々木和久、小林快次 2009. 演題「岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群国丹層より発見された陸生脊椎動物（予報）」日本古生物学会第158回例会（沖縄県）.
 9. Hasiotis, S., Fiorillo, A. and Kobayashi, Y. and Brease, P. 2009. 演題「Preliminary report on the microbial, invertebrate, and vertebrate trace fossils from Denali National Park and Preserve, Alaska: insights into the biodiversity of a polar ecosystem」2009 Portland Geological Society of America Annual Meeting (18-21 October 2009).
 10. Fiorillo, A., Hasiotis, S. and Kobayashi, Y. 2009. 演題「Bird tracks from the Upper Cretaceous Cantwell Formation of Denali National Park Alaska: a new perspective on ancient northern polar vertebrate biodiversity」69th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Bristol, UK).

＜招待・一般普及講演＞

1. Kobayashi, Y. Kubota, K., and Barsbold, R. 2009. 演題「Ornithomimid materials from the Bayanshiree Formation at Shine Us Khuduk, Dornogov」, southeastern Mongolia」2008 Goseong International Dinosaur Symposium (Goseong, Korea).
2. 小林快次 (2009) 「恐竜の復元」博物館まつり (北大総合博物館)
3. 小林快次 (2009) 演題「恐竜の謎」千歳市市民向け公開講座市民教養セミナー (千歳市)

＜番組監修＞

1. 小林快次監訳 (2008) 地球ドラマチック「もしも恐竜が生き残っていたら」(ディスカバリー・チャンネル製作)、NHK放送
2. 小林快次監訳出演 (2009) 地球ドラマチック「恐竜発掘大作戦～よみがえるアジアの恐竜たち」(MBC製作、韓国)、NHK放送

＜テレビ制作監修・監訳＞

- 小林快次監訳 (2008) 地球ドラマチック「もしも恐竜が生き残っていたら」(ディスカバリー・チャンネル製作)、NHK放送
- 小林快次監訳 (2009) 地球ドラマチック「恐竜“エックス”を探せ！～ゴビ砂漠発掘大作製」(韓国MBC製作)、NHK放送

＜教育活動＞

学位論文主査・副査歴

- 平成20年3月：北海道大学理学院・修士号・副査（1名）
平成21年3月：北海道大学理学院・修士号・主査（1名）・副査（1名）
平成21年6月：北海道大学理学院・博士号・副査（1名）

学部・学院指導学生数：

- 平成20年度：学部1名、学院4名
平成21年度：学部3名

授業等：

1. 全学教育 一般教育演習「北大博物館で学ぼう！」(分担)
2. 全学教育 複合科目「今、博物館が面白い」(分担)
3. 全学教育 複合科目「生物の多様性」(分担)
4. 全学教育 基礎科目「自然科学実験」(分担)
5. 理学部地球科学科選択必修科目「古生物学」(分担)
6. 理学部地球科学科選択必修科目「地質学実習」(分担)
7. 理学部地球科学科選択必修科目「地球惑星科学実習」(分担)
8. 理学部地球科学科選択必修科目「地質図学」(分担)
9. 理学院共通科目「地球惑星システム科学概論」(分担)
10. 大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」(分担)
11. 大学院共通科目「博物館学特別講義I」(分担)
12. 大学院共通科目「博物館学特別講義II」(分担)
13. 「博物館実習」(分担)

＜展示＞

1. 北海道大学企画展「ウズベキスタンの現代建築と世界遺産」(2008年冬)
2. 北海道大学企画展示 3階アイランドアークのリニューアル (2008年冬)
3. 北海道大学企画展「生物多様性の部屋」(2009年夏)
4. 幕張メッセ「恐竜2009-砂漠の奇跡」学術監修 (日本経済新聞・テレビ東京・日経ナショナルジオグラフィック主催、2009年夏)

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

1. 総合博物館運営委員会委員
2. 総合博物館点検評価委員会委員
3. 学術標本検討専門委員会委員
4. 企画展示専門委員会委員
5. ミュージアムショップ運営委員

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座 化石 (初級)

＜社会貢献＞

古環境古生物学雑誌の *Palaios* の編集委員 (Associate Editor)

大阪大学総合学術博物館外部評価委員

＜外部資金＞

1. 学術振興会科学研究費、基盤 (B) 「恐竜類の脳や神経システムの形態解析及び鳥類への進化過程」(H17-21 年度、研究代表者：小林快次)。
2. 王立ティレル古生物学博物館 (カナダ) の研究費、「カナダのオルニトミムス科恐竜の研究」(2008)
3. 韓国地質資源研究所の研究費、「韓国国際恐竜調査：モンゴルゴビ砂漠ヘルミンツアフの恐竜調査」(2008)
4. アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州ラングル・セイントエリアス国立公園恐竜調査」(2008)
5. アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」(2008)
6. 韓国地質資源研究所の研究費、「韓国国際恐竜調査：モンゴルゴビ砂漠ブギンツアフの恐竜調査」(2009)

7. アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」(2009)

＜海外調査＞

1. 「アルゼンチン三疊紀後期から産出する原始的な恐竜類の脳幹研究」サンホワン大学自然科学博物館（アルゼンチン）との共同研究【小林：2008年5月15日-5月26日】
2. 「米国アラスカ州ラングル・セイントエリアス国立公園恐竜調査」ダラス自然史博物館（アメリカ）との共同調査【小林：2008年6月13日-28日】
3. 「米国アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」ダラス自然史博物館（アメリカ）とカンザス大学（アメリカ）との共同調査【小林：2008年7月5日-8月5日】
4. 「モンゴル国ゴビ砂漠中央部フルンドッホの白亜紀前期恐竜化石調査」モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（モンゴル）との共同調査【小林：2008年8月9日-8月15日】
5. 「モンゴル国ゴビ砂漠ヘルミンツァフ（白亜紀後期）の恐竜調査」韓国地質資源研究所（韓国）・サザンメソジスト大学（アメリカ）・アルバータ大学（カナダ）・モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（モンゴル）との共同調査【小林：2008年8月16日-9月24日】
6. 「北米産オルニトミモサウルス類恐竜共同研究」アルバータ大学（カナダ）・フィールド博物館（アメリカ）・カナダ王立ティレル博物館（カナダ）との共同研究【小林：2008年10月15-18日】
7. 「アルゼンチン三疊紀後期から産出する基盤恐竜類の脳幹研究」サンホワン大学自然科学博物館（アルゼンチン）との共同研究【小林：2008年11月15日-21日】
8. 「中生代における北極圏のハドロサウルス科恐竜の生態解析」ダラス自然史博物館（アメリカ）との共同研究【小林：2009年3月2日-10日】
9. 「カナダアルバータ州南部白亜紀後期の恐竜化石調査」カナダ王立ティレル博物館（カナダ）との共同調査【小林：2009年6月22日-7月9日】
10. 「米国アラスカ州デナリ国立公園白亜紀後期恐竜調査」ダラス自然史博物館（アメリカ）とカンザス大学（アメリカ）との共同調査【小林：2009年7月14日-8月4日】
11. 「モンゴル国ゴビ砂漠中央部の白亜紀前期恐竜化石調査」モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（モンゴル）との共同調査【小林：2009年8月8日-15日】

12. 「モンゴル国ゴビ砂漠ブギンツアフ（白亜紀後期）の恐竜調査」韓国地質資源研究所（韓国）・サザンメソジスト大学（アメリカ）・アルバータ大学（カナダ）・モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（モンゴル）との共同調査【小林：2009年8月16日-9月15日】
13. 「アルゼンチン三疊紀後期から産出する基盤恐竜類の研究」サンホワン大学自然科学博物館（アルゼンチン）との共同研究【小林：2009年10月31日-11月10日】
14. 「モンゴル国ゴビ砂漠から産出した白亜紀後期獣脚類恐竜の研究」韓国地質資源研究所（韓国）・サザンメソジスト大学（アメリカ）・アルバータ大学（カナダ）・モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（モンゴル）との共同研究【小林：2009年12月13日-18日】

湯浅万紀子

YUASA Makiko

博物館教育・メディア研究系 準教授

○研究内容の概要

1. 博物館体験の長期的インパクトを検証する調査研究

日本ではまだ体系的に実施されていない博物館体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残る博物館体験を調査し、その記憶を続く世代へつなぐための博物館活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらない博物館体験の多様な意味を明らかにすると同時に、博物館活動の意義を検証し、博物館資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。（学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表））

2. 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究

大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。（湯浅万紀子 2008、湯浅万紀子 2009）

3. 展示評価に関する調査研究

展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。（北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト、2010 他）

4. 博物館評価に関する調査研究

前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活動のあらゆ

る局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。（北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト、2010 他）

5. 新しいミュージアム像に関する調査研究

博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。（学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表））

6. 日本におけるチルドレンズ・ミュージアムの調査研究

欧米のチルドレンズ・ミュージアムの歴史と活動状況、課題について研究した上で、日本の子どもや家族が抱える課題やニーズに応えるチルドレンズ・ミュージアム像を、組織、活動、運営の面から描く研究を行っている。

○2008年・2009年の研究・活動業績

<原著論文>

1. 湯浅万紀子（2009）：大学博物館における学生教育の意義と課題—北海道大学総合博物館を事例として、『博物館研究』、44巻2号、16-18頁。

<著書・図録・目録等>

1. 湯浅万紀子（2008）：北海道大学総合博物館における学生教育の意義と課題、人間文化研究機構・人間文化研究総合推進事業・研究計画「大学共同利用機関における博物館」、『博物館と大学—知の装置の連携と協働 2008年シンポジウム報告書』、10-21頁。
2. 北海道大学大学院文学研究科佐々木亨研究室（2008）：北海道立近代美術館で実施した利用者アンケート等の集計分析報告、（分担執筆）。
3. 湯浅万紀子（2009）：平成20年度教育GP採択事業の紹介「北海道大学『博物館と舞台とした体験型全人教育の推進』」、大学博物館等協議会ニュースレターMUSEO ACADEMIA、11号、2-3頁。
4. 北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト（2010）：北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト2009 活動報告書、（協力）。

<総説・解説・報告等>

1. 湯浅万紀子（2008）：ヒストリカル・カフェを開催、北海道大学総合博物館ニュース、16、8頁。
2. 湯浅万紀子（2008）大学院授業における展示評価とリニューアル提案の取り

- 組み、北海道大学総合博物館ニュース、17号、7頁.
3. 湯浅万紀子(2008) : 「ロボットフィールドプロデュース」を開催、北海道大学総合博物館ニュース、17、8頁.
 4. 湯浅万紀子(2008) : 2007年度「ボランティア講座&交流会」を開催、北海道大学総合博物館ニュース、17、9頁.
 5. 湯浅万紀子(2008) : カルチャーナイト 2008「チェンバロと星空の夕べ」、17、9頁.
 6. 湯浅万紀子(2008) : 大学院生による「博物館カフェ」開設の試み、北海道大学総合博物館ニュース、18、9-10頁.
 7. 湯浅万紀子(2008) : ロボットコンテスト「グランパミッショソ」を開催—工学部と教育学部、博物館のコラボレーション、北海道大学総合博物館ニュース、18、10頁.
 8. 湯浅万紀子(2008) : カルチャーナイト2008報告、北海道大学総合博物館ニュース、18、11頁.
 9. 湯浅万紀子(2008) : 2008年度第1回ボランティア講座&交流会、北海道大学総合博物館ニュース、18、12頁.
 10. 湯浅万紀子 (2009) : 2008年度第2回ボランティア講座&交流会、北海道大学総合博物館ニュース、19、10-11頁.
 11. 湯浅万紀子 (2009) : 博物館での授業をきっかけに大学院生が著書を出版、北海道大学総合博物館ニュース、19、11頁.
 12. 湯浅万紀子 (2009) : 「疋田豊治ガラス乾板写真展」、北海道大学総合博物館ニュース、20、6頁.
 13. 湯浅万紀子 (2009) : 「エルムの杜の宝もの」—道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催、北海道大学総合博物館ニュース、20、10頁.
 14. 湯浅万紀子 (2009) : 2009年度第1回ボランティア講座&交流会、北海道大学総合博物館ニュース、20、11-12頁.
 15. 湯浅万紀子 (2009) : カルチャーナイト2009報告、北海道大学総合博物館ニュース、20、12頁.

＜学会活動＞

科学研究費委員会専門委員（2009年度：科学教育専門分野）

日本ミュージアム・マネージメント学会 チルドレンズ・ミュージアム研究会委員（2008）

所属学会：文化資源学会、日本ミュージアム・マネージメント学会、日本科学教育学会

＜学会発表等＞

1. 湯浅万紀子 (2008) : 大学博物館における学生教育の可能性, 第11回大学博物館等協議会2008年大会 (第3回博物科学会).
2. 田中嘉寛・湯浅万紀子 (2008) : 大学博物館における学生によるコミュニケーション・イベントの意義, 第11回大学博物館等協議会2008年大会 (第3回博物科学会).
3. 寺林暁良・湯浅万紀子他 (2008) : 大学院授業による展示評価と改善—来館者調査から提言まで—, 第11回大学博物館等協議会2008年大会 (第3回博物科学会).
4. 湯浅万紀子 (2008) : 大学博物館における学生教育の展開, 北海道大学文学部.
5. 湯浅万紀子 (2008) : 北海道大学総合博物館における学生教育の意義と課題, 人間文化研究機構シンポジウム「博物館と大学—知の装置の連携と協働」.
6. 湯浅万紀子 (2008) : ミュージアム体験の構築, 東京大学総合研究博物館平成20年度学芸員専修コース「ミュージアム・コラボレーション」.
7. 高橋英樹・湯浅万紀子 (2009) : 北大総合博物館における学生教育の展開, 2008年度北海道大学教育GPシンポジウム「大学博物館から拓く学生教育の未来」.
8. 湯浅万紀子 (2009) : 大学博物館の活動から科学技術コミュニケーションを考える, 北海道大学科学技術コミュニケーションユニット.
9. 湯浅万紀子、高橋英樹、天野哲也、斎藤貴之、館亜古 (2009) : 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」—初年度の取り組みの成果と課題, 第12回大学博物館等協議会2009年大会 (第4回博物科学会).
10. 小林快次・湯浅万紀子他 (2009) : 来館者アンケートから読み取る企画展の傾向と特性, 第12回大学博物館等協議会2009年大会 (第4回博物科学会).
11. 山田祥子・湯浅万紀子他 (2009) : 大学院授業による展示改善—大学博物館における理解力と表現力の実践—, 第12回大学博物館等協議会2009年大会 (第4回博物科学会).
12. 湯浅万紀子 (2009) : 展示解説の意義と基本的技法, 北海道大学科学技術コミュニケーションユニット.
13. David Anderson・清水寛之・湯浅万紀子 (2009) : "Memories of Japanese Visitor's Experiences of the Aichi (2005) and Osaka (1970) World Expositions"パネルディスカッション, ディスカッサント, 国際交流基金フェローセミナー.

＜一般講演・セミナー発表＞

【招待講演】

1. 湯浅万紀子 (2008) : ようこそ、大学博物館へ, 奈良学園中学校・高等学校.

2. 湯浅万紀子 (2008) : 記憶の中の博物館—博物館体験の長期記憶を探る, 北海道大学総合博物館土曜市民セミナー.
3. 湯浅万紀子 (2008) : 博物館の知層にふれる—北海道大学総合博物館の過去・現在・未来, 第30回全道高等学校図書研究大会第10分科会.

＜教育活動＞

2008年度 修士1名 (副査)

2009年度 修士2名 (内、1名: 副査)

講義など

総合科目「今、大学博物館が面白い—“物”にこだわる科学」(分担、2008, 2009)

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！—自然と人間」(担当、2008, 2009)

博物館学II (担当、2009)

博物館実習 (担当、2008, 2009)

理学院自然史科学専攻「博物館コミュニケーション特論」(分担、2008, 2009)

大学院共通授業「博物館学特別講義II 展示・教育・活動評価」(担当、2009)

文学研究科 展示制作プロセス演習(佐々木亨教授担当) (協力、2008, 2009)

教育GP社会体験型科目「卒論ポスター発表会」(2008, 2009)

教育GP社会体験型科目「展示解説」(2008, 2009)

教育GP社会体験型科目「オリジナルTシャツの製作」(2009)

教育GP社会体験型科目「『生物多様な部屋』展の展示解説」(2009)

教育GP社会体験型科目「『疋田豊治ガラス乾板写真』展の展示制作・展示解説」

(2009)

教育GP社会体験型科目「北大総合博物館ガイドブックの制作」(2009)

北海学園大学ボランティア実習 (担当、2009)

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員 (2008, 2009)

学術標本検討専門委員会委員 (2008, 2009)

企画展示専門委員会委員 (2008, 2009)

ミュージアムショップ運営委員 (2008, 2009)

博物館教育

教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」学内運営委員(2008, 2009)

教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」事業推進WG (2008, 2009)

教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」社会体験型科目WG (2008,

2009)

教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」広報・評価WG（2008, 2009）

ロボットコンテスト「グランパミッション」運営（2008）

大学院生による博物館カフェ指導（2008）

大学院生によるワークショップ「Be Scientists!! 科学者になってみよう」指導（2009）

大学院生の企画・開発によるミュージアムショップ「紙の標本—デスマスチルス」指導（2009）

博物館オリジナルTシャツの製作指導（2009）

卒論ポスター発表会指導（2009）

ボランティア・マネジメント担当（2008, 2009）

ボランティア展示解説グループ担当（2008, 2009）

ボランティア講座＆交流会 企画運営（2008, 2009）

カルチャーナイト企画・運営（2008, 2009）

総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」企画・運営（2009）

博物館企画展示

「生物多様な部屋」展（展示解説・フロア対応担当、2009）

「疋田豊治ガラス乾板写真」展（企画分担、展示解説・フロア対応担当、2009）

博物館常設展示

科学技術展示室リニューアル担当（2008, 2009）

博物館見学・展示解説担当（2008, 2009）

来館者調査担当（2008, 2009）

<学内各種委員>

高等教育機能開発総合センター研究員（2008, 2009）

<社会貢献>

科学研究費委員会専門委員（2009年度：科学教育専門分野）

北海道立近代美術館評価WGメンバー（2008, 2009）

<外部資金>

科学研究費等研究費

学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表）

教育 GP 関連

質の高い大学教育推進プログラム（文部科学省大学改革推進等補助金）：「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進（事業推進責任者 高橋英樹）」
(2008-2010) (分担)

小俣友輝

KOMATA Yuki

博物館教育・メディア研究系 助教

○研究内容の概要

1. データベースシステム構築

北大総合博物館の抱える数万点を超える収蔵物を有効活用するための一手段として、今やITは必要不可欠なものとなっている。データベースによる収蔵物管理とWEBを通じた情報発信システムの構築により、標本整理および標本を通じた他館や学術機関との情報交換、あるいは地域市民とのコミュニケーションが活発化する。

2. マルチメディアを用いた博物館からの情報発信

北大総合博物館に収蔵されている学術的に貴重な標本群は、研究に用いられる重さに加えて、一般市民にとっても興味深いものである。それらの情報を効果的に発信することにより、博物館のアクティビティ公開から外部の関心を惹き付け、地域社会との連携、ひいては大学と地域の相互理解につながる切っ掛けとなる。

3. その他のアクティビティ

2006年秋より博物館に設置されたポプラチェンバロは、2004年に台風で倒れたポプラ並木の倒木より製作されたものである。北大には音楽学部がなく博物館にも専門の職員がいないため、チェンバロ展示の維持管理には学内外からの応援を必要としていた。そこで「専門職員がいない状態での持続的な展示管理・運用」を目標とし、学内で音楽学に関連した教員、チェンバロに関心がある・あるいは演奏ができる市民や学生などに開放しつつ当館に属するボランティア団体としてまとめ、その活動を博物館のアクティビティとすることを行っている。

また当館の「宇宙」展示コーナーの中でも特にマルチメディア性の高い「宇宙の4Dシアター」の管理・運用を行っている。

研究部教員を始めとする当館の資料部研究員やボランティアのIT環境に関するサポートは、研究活動その他諸活動のベースとなるものであり、必要不可欠である。新しく導入される研究用・博物館活動用PCの諸設定、ネットワークやサーバの管理、MLの構築と管理運用と担当支援員への管理法教育を行った。

○2008年・2009年の研究・活動業績

<学会活動>

全日本博物館学会

日本ミュージアムマネジメント学会

博物科学会

コンピュータ利用教育協議会 (CIEC)

形の科学会

＜学会発表等＞

- ・国際シンポジウム：

1. Ryohei TAKAHASHI, Koichiro WATANABE, Akira IMAI and Yuuki KOMATA : 「Applications of Digital Database and Geographical Information System to Earth Resources in Southeast Asia」 International Symposium on Earth Science and Technology, Fukuoka, Japan. (2009年12月8日～9日) 招待講演

2. 第10回国際音楽知覚認知会議 (ICMPC10) における市民交流企画：「響き合う 現代性～北大ポプラチェンバロの国際・市民交流」(8/28)

- ・学会発表など：

1. 小俣友輝：「ポプラチェンバロ紹介ビデオ」第一回北海道インディペンデント映像フェスティバル (HICF) に出展、2008年2月16日～17日

2. 小俣友輝：「北海道大学総合博物館 2008年夏の企画展示「分子のかたち展 - サイエンス×アート」」日本分子生物学会第8回春季シンポジウム、2008年5月26日～27日 (poster)

3. 小俣友輝：「北大総合博物館 2008年夏の企画展示「分子のかたち展 - サイエンス×アート」一展示を通した人と文化と知のインタークロスー」大学博物館等協議会 2008年大会・第3回博物館科学会、2008年6月5日～6日

4. 小俣友輝：「北大総合博物館 2008年夏の企画展示「分子のかたち展 - サイエンス×アート」など」人間文化研究機構総合推進事業「パブリック・ヒューマニティーズの方法論：学術標本資料ならびに文化資源のネットワーク型共同利用から創出される学際的専門知と公共社会との融和」第一回研究会、2008年9月13日～14日

5. 小俣友輝：「分子のかたち展 サイエンス×アート-サイエンスとアート、出会いのかたち」北大総合博物館第25回公開シンポジウム(形の科学会「形 シューレ」共催)、2008年9月20日

6. 小俣友輝：「「分子のかたち展-サイエンス×アート」-かたちを通した様々な人のかたち形成」第66回形の科学会シンポジウム、2008年10月31日～11月3日

7. 小俣友輝 (分子計算と視覚化研究会：本間善夫、千田範夫、佐藤健太郎、小俣友輝、時田澄男)「分子のかたちはサイエンス？ アート？」サイエンスアゴラ 2008「分子の世界をアートとエコロジーから見る」、2008年11

月 22 日～24 日

8. 小俣友輝 「「IC タグ(RFID タグ)を用いた標本管理法の標準化と応用」
プロジェクトその後」大学博物館等協議会 2009 年度大会・第 4 回博物館科学会、2009 年 5 月 21 日～22 日
9. Guven Peter-Martin Witteveen, 小俣友輝 : 「How to Use Pictures, Audio and Movies for Your Research」北大総合博物館第 31 回公開シンポジウム、2009 年 6 月 24 日、27 日
10. 小俣友輝, グーフェン ピーター・マー・ティン ウィットビン, 松田純佳 : 「大学博物館の映像制作プロジェクト～映像でつながるヒトとヒト、ヒトとモノ～」電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーションズグループ 2009 年度 HCG シンポジウム、2009 年 12 月 10 日～12 日 (口頭発表) (外国人客員教員と協働)
11. 小俣友輝, 小嶋将平, 松田純佳 : 「北大教育 GP・社会体験型科目の挑戦 - HoUM T シャツ制作プロジェクトを事例として - 」2009 年 12 月 19 日

＜教育活動＞

教育活動

担当科目

全学教育

総合科目「今、大学博物館が面白い！ - ものにこだわる科学 - 」(分担)

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」(分担)

大学院教育

理学院科学コミュニケーション講座・博物館コミュニケーション特論 (2008 年度～)

理学院科学コミュニケーション講座・科学技術史特論 (2008 年度)

学部・大学院教育

博物館学芸員実習 (分担)

各年度の学部・研究科指導学生数

2005 年度 学芸員実習 1 名 (分担)

2006 年度 学芸員実習 18 名 + 1 名 (分担)

2007 年度 学芸員実習 25 名 (分担)

2008 年度 : 理学院科学コミュニケーション講座 (博物館コミュニケーション特論) 5 名、同講座 (科学技術史特論) 3 名、学芸員実習 17 名 (分担)、修士 1 名

2009 年度 : 理学院科学コミュニケーション講座 (博物館コミュニケーション特論) 8 名、学芸員実習 14 名 (分担)、修士 2 名

非常勤講師等

2008年度後期 北海道工業大学非常勤講師

＜博物館活動＞

チェンバロボランティア活動

北大総合博物館・宇宙の4Dシアター運営

ミュージック・イン・ミュージアム運営

総合博物館市民セミナービデオアーカイブ化プロジェクト

北大カフェプロジェクト@博物館, 2008年2月5日～11日

「今月の分子」作成

第157回、第159回、第161回、第171回、第173回、第177回、第228回市民セミナー運営

第204回総合博物館セミナー「北大総合博物館2008年夏の企画展示「分子のかたち展—サイエンス×アート」について」, 2008年8月9日

北海道新聞ぶんぶんクラブ「エルムの杜の宝もの」共催講座「ポプラ・チェンバロに親しむ」, 2009年9月3日

博物館企画展示・常設展示等（担当）

企画展示：

第59回企画展示（夏の企画展）「分子のかたち展 サイエンス×アート」主宰, 2008年7月15日～9月28日

北海道洞爺湖サミット関連企画「Knowledge of University for All the People!」（展示室パネル英語化プロジェクト）, 2008年7月

常設展示：

1階学術テーマ展示「生命／多様性と普遍性」「糖鎖」部分展示制作, 2009年3月

その他、企画・常設展示においてマルチメディアを利用した展示制作・メンテナンス等に多く関与

構築、制作など

ITを利用した博物館システム

カムチャツカ金属資源データベース（小俣友輝・高橋亮平）：

<http://data-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/kam-DBinfo.htm>

汎用性の高いWAMP（Windows, Apache, MySQL, PHP）を用いて、総合博物館において今後作成されるデータベースとの連携を可能にしたデータベース。

鉱物標本データベース

<http://data-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/Mineral/index.htm>

(Microsoft Access からのシステム移行のみ)

化石標本データベース

<http://micro.museum.hokudai.ac.jp/Fossils/>

(Microsoft Access からのシステム移行のみ、現行のものは越前屋宏紀氏による)、
北海道大学総合博物館北東ユーラシア資源統合データベース (小俣友輝・天野哲
也・高橋英樹・松枝大治) :

<http://data-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/neecdb/>

平成 18 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) により作成された、考古学、
植物体系学、鉱物・鉱床学の分野横断的に検索可能なデータベース。キーワー
ドを知らなければ検索できない「専門家向け」ではなく、ワンクリックで気軽に
検索できる、「展示を見るような」インターフェイスを目指した。

セミナー・企画展示等ホームページ自動更新システム構築

<http://www.museum.hokudai.ac.jp>

当館で行われるセミナーや企画展示等のイベント情報を、開催前から終了日まで自
動的にホームページトップに公開するシステムを構築した。イベントの開催日
時、種類、講演者、テーマ、タイトル、詳細情報などについてのデータベース
を構築し、フォームに入力するのみの簡単なインターフェイスを設定すること
より、作業人員を限定することなくホームページの情報がフレッシュに保たれ
ることとなった。

映像制作

ボプラチエンバロ紹介ビデオ

http://www.museum.hokudai.ac.jp/organization/staff/komata/About_Me.html に
リンクあり

音楽学部を持たない北海道大学の博物館に展示されているチェンバロについて、コ
ーナーを訪れた来館者が一休みしながらチェンバロや古典音楽の歴史、ピアノ
との構造・奏法の違いを学ぶことができる紹介ビデオ。札幌バロック研究会、
チェンバリリスト藤井美雪さんらにご協力いただいた。

The Hokkaido University Museum Collection 07-08 : 小俣友輝、2008

The Hokkaido University Museum 映像ミュージアム～考古学編～ : 大石琢也、遠
藤寛子、大杉あい、天野哲也、小俣友輝、2008

HoUM 展示紹介ビデオ (ナレーション付き) : Guven Peter-Martin Witteveen、松田
純佳、小俣友輝、2009

HoUM 展示紹介スライドショー : Guven Peter-Martin Witteveen、松田純佳、小俣
友輝、2009

北海道大学オープンキャンパス理学部実験分野サテライト展示 : 小俣友輝、2009

HoUM スクリーンセーバー (short version) : 只越あずみ、堀井奈々、矢島由佳、
小俣友輝、2009

HoUM スクリーンセーバー (long version) : 只越あずみ、堀井奈々、矢島由佳、小
俣友輝、2009

＜外部資金＞

科学研究費等研究費取得状況

基盤研究 (C) : 「IC タグ (RFID タグ) を用いた標本管理法の標準化と応用 :
(代表 小俣友輝)」(2007-2008)

その他の外部資金 (奨学寄附金等) 獲得状況

2009 年度 花王・コミュニティミュージアム・プログラム 2009

＜平成20・21年度の新聞報道記録＞

（平成20（2008）年度の新聞報道記録）（セミナー開催告知は除く。）

1	北海道新聞	4月 9日	北大の原点は「正義」
2	北海道新聞	4月12日	今年もクラーク講座
3	読売新聞	4月20日	日本竜 70年経て独立種認定
4	朝日新聞	4月27日	挑戦 親子でロボット作り
5	朝日新聞	5月 8日	「地質学の明星」 ^上
6	朝日新聞	5月15日	「地質学の明星」 ^下
7	北海道新聞	5月17日	博物館の裏側見てみよう！
8	北海道新聞	6月 7日	サステナビリティ・ウイーク
9	毎日新聞	6月10日	サミットに向け北大がイベント
10	室蘭民報	6月18日	自然と共生の歴史ひと目
11	毎日新聞	6月26日	北大サステナビリティ・ウイーク
12	朝日新聞	7月 3日	有珠山という師を仰いで 岡田弘 ^上
		7月10日	有珠山という師を仰いで 岡田弘 ^中
		7月24日	有珠山という師を仰いで 岡田弘 ^下
13	毎日新聞	7月22日	洞爺湖の自然と資源
14	朝日新聞	8月 7日	サイエンスとアート
15	朝日新聞	9月22日	お宝発見 ポプラ並木製のチェンバロ
16	北海道新聞	10月25日	「ロボット」生みの親です
17	朝日新聞	10月25日	「ロボット」の名、世に 作家を回顧
18	北海道通信	10月27日	知的好奇心を刺激！
19	北海道新聞	11月 7日	批判精神に今も光
20	北海道新聞	11月 7日	「ロボット」生みの親
21	北海道新聞	11月 9日	南極の写真やそり展示
22	北海道新聞	11月12日	新渡戸稻造どう評価
23	朝日新聞	11月16日	恐竜進化、CTで迫る
24	北海道新聞	11月16日	学生よ、物おじするな
25	北海道新聞	12月22日	オホーツク文化 明確に
26	北大学生新聞	1月21日	大学博物館の活用紹介
27	北海道通信	1月22日	大学博物館で学生教育
28	北海道通信	1月23日	解説 大学博物館の学生教育
29	北海道新聞	2月 2日	アイヌ文化伝承へ北大とタッグ
30	北海道新聞	2月27日	北大生の卒論をポスターで展示

3 1 北海道新聞

3月 8日 6月から新教養講座

〈平成21（2009）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

1	北海道建設新聞	4月29日	札幌近郊の壮大な自然ロマン
2	道新スポーツ	5月 6日	北海道酪農の原点を学ぶ
3	北海道新聞	5月10日	道内酪農 原点を学ぶ
4	北海道新聞	5月19日	クラーク博士の標本発見
5	北海道新聞	6月 8日	畜産の歴史学ぶ
6	北海道新聞	7月12日	石のロマンに耳傾けて
7	朝日新聞	8月13日	標本を守り伝えていく意味
8	北海道新聞	8月18日	未来へつなぐ研究の礎
9	北海道新聞	8月19日	北大生がデザインしたTシャツ
10	朝日新聞	9月 9日	街中で眺める畜産発祥地
11	北海道新聞	9月11日	年々埋まるダム アイヌ語が暗示
12	北海道新聞	9月28日	生物研究の成果ポスターに凝縮
13	北海道新聞	10月 1日	デスマスチルス
14	北海道新聞	10月12日	海の深さも立体表現 北大博物館に大型地球儀
15	北海道新聞	10月25日	ガラス乾板歴史写す 正田豊治展始まる
16	北海道新聞	11月 2日	ガラス乾板 歴史の証人
17	北海道新聞	11月 2日	北方領土知る150冊北大にエトピリカ文庫
18	スポーツニッポン	11月 2日	シシャモ名付けの親 正田豊治氏写真展
19	北海道新聞	11月 9日	正田豊治の眼
20	毎日新聞	11月12日	ガラス乾板写真の世界
21	北海道新聞	11月13日	正田豊治ガラス乾板写真展
22	北海道新聞	11月18日	「科学とアート融合」正田豊治の写真語る
23	北海道新聞	11月30日	自由なチョウのように
24	北海道新聞	2月18日	アンモナイト 迫力と芸術美
25	北海道新聞	2月25日	卒論ホースター発表会
26	北海道新聞	3月14日	ドラマ仕立てで日口交流を紹介
27	北海道新聞	3月14日	「エルムの杜」は知の泉
28	道新スポーツ	3月17日	エルムの杜の宝もの
29	日本経済新聞	3月21日	北大総合博物館「博物館まつり」
30	北海道新聞	2月24日	北大に眠る「お宝たち」
31	北海道新聞	3月25日	マキシモビィッチと北海道

＜平成20・21年度の予算状況＞

単位：千円

事 項	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
(教員研究費)				
教員研究費	3,927	5,246	7,727	8,989
外国人等経費	348	342	339	336
外国人招へい及び帰国旅費	0	0	0	0
図 書 費	183	141	173	381
予 備 費	0	0	0	0
小 計	4,458	5,729	8,239	9,706
(事務運営費)				
事務管理費	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
(運営費)				
外国人赴任旅費	512	184	383	393
運営旅費	985	1,293	879	1,028
消耗品費	2,347	1,699	1,206	1,034
備 品 費	642	171	0	0
印 刷 費	2,318	1,216	1,543	1,489
郵 便 料	1,210	759	726	796
電 話 料	233	233	188	189
役 務 費	4,978	5,417	10,694	9,595
賃 金	5,756	6,075	2,061	2,119
光熱水料	1,856	1,777	1,777	1,777
営 繕 費	456	1,001	429	275
予 備 費	0	315	0	1,000
小 計	19,630	21,293	20,140	19,695
重点配分経費	32,960	25,000	37,860	24,900
合 計	59,002	50,751	63,729	54,301

単位：千円

区分	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
運営費交付金	50,751	63,729	53,025	54,301

外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】単位：千円

【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】単位：千円

年 度	件数	金 額
2008年度	2 件	4,600
2009年度	4 件	11,050

年 度	件数	金 額
2008年度	5 件	2,160
2009年度	4 件	1,420

【受託研究受入状況】単位：千円

年度	件 名	相手方	金 額
2008	レブンアツモリソウをモデルとした特定国内野生希少動物植物種の保全に関する研究	独立行政法人 森林総合研究所	2,397
2009	レブンアツモリソウをモデルとした特定国内野生希少動物植物種の保全に関する研究	独立行政法人 森林総合研究所	1,998

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

単位：千円

年 度	件数	金 額
2008年度	2 件	665
2009年度	4 件	2,115

【総合博物館支援基金】

単位：円

受入年度	受入金額
2008年	696,564
2009年	814,572
合 計	